

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価報告書  
(平成29年度対象)

平成30年8月  
川越市教育委員会

## 目 次

I はじめに	1
II 点検及び評価の実施方法	2
III 施策を評価する表における「指標の推移」及び「成果実績」について	2
IV 学識経験者の知見の活用	3
V 施策評価の基準	3
VI 第二次川越市教育振興基本計画の施策目標値「達成状況総括表」	4
VII 第二次川越市教育振興基本計画の施策目標値「達成状況一覧」	5
VIII 第二次川越市教育振興基本計画「施策評価総括表」	8
IX 第二次川越市教育振興基本計画「施策評価一覧」	9
X 進行管理（点検評価）シート	13
方向性Ⅰ 生きる力を育む学校教育の推進	14
方向性Ⅱ 活力ある地域を創る生涯学習の推進	52
方向性Ⅲ 歴史文化の継承と新しい市民文化の創造	74
方向性Ⅳ 多文化共生と国際交流・協力の推進	86
方向性Ⅴ 生涯スポーツの推進	92

## I はじめに

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づいた川越市教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行った結果についてとりまとめたものです。

教育委員会は、市長から独立した立場で教育行政に関する基本方針のもと、学校教育や社会教育など広範かつ専門的な教育行政事務を管理及び執行するために設置された合議制の機関（行政委員会）です。

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会が事前に策定した「基本方針」にそって具体的な教育行政事務が管理及び執行されているかについて、教育委員会自らが点検及び評価を実施し、その点検及び評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされました。

川越市教育委員会は、平成28年2月に策定した第二次川越市教育振興基本計画の施策について、教育に関する学識経験を有する方々の知見を活用し、教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行いました。

川越市教育委員会は、この点検及び評価の結果及び知見者の方々からいただいたご意見を生かし、計画的かつ効果的な教育行政を推進してまいります。

<参考>

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律<抄>

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

なお、平成 23 年度評価対象から川越市教育振興基本計画（計画期間：平成 23 年度～平成 27 年度）の施策を点検及び評価の対象とし、川越市教育振興基本計画（平成 28 年度からは第二次川越市教育振興基本計画）の進行管理の点検評価も併せて、報告書としています。

また、平成 22 年度から、文化及びスポーツに関する事務は教育委員会から市長部局に移管されておりますが、教育行政に係わる分野であることから、文化及びスポーツに関する事務についても、市長部局において点検・評価を行ったものを併せて報告書に掲載しています。

#### <参考>

#### ○第二次川越市教育振興基本計画第 3 章「計画の推進」

計画を効果的に推進するため、主な施策の目標値を設定するとともに、外部有識者の知見を活用し、事務事業の点検評価を実施することにより、計画の進行管理を行います。また、その結果を踏まえ必要に応じ、施策の見直しを行いながら計画を推進します。

## Ⅱ 点検及び評価の実施方法

川越市教育振興基本計画は、5 つの方向性（基本方針）を基に、36 項目の施策の柱と 105 項目の細施策で構成されており、施策の成果を表す目標値として 52 項目を掲げています。点検及び評価は、105 項目の細施策を単位とし、52 項目の目標値や細施策の事業等の実績を基に進捗状況を担当課が評価し、改善の方策を示します。そして、36 の施策の柱ごとに、学識経験者のご意見をいただき、総合的な評価を行います。

## Ⅲ 施策を評価する表における「指標の推移」及び「成果実績」について

- ・「指標の推移」については、平成 32 年度末において達成を目指す施策の目標値（指標）52 項目において成果や達成度を測るために、指標及び説明とともに平成 29 年度までの実績値を掲載しています。
- ・「成果実績」については、施策の目標値を持たない 52 項目以外の施策について、平成 29 年度までの成果実績を数値化し、実績値及び達成状況の把握を行います。

#### IV 学識経験者の知見の活用

点検及び評価の実施にあたっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」に関して、下記の4名からご意見をいただき、点検及び評価の内容に反映させていただきました。

五十音順 敬称略

氏 名	役 職
池 田 優 子	川越市 PTA 連合会広報委員長
大 野 政 己	元川越市立博物館長
島 田 祐	元川越市立小学校長
眞 下 英 二	尚美学園大学教授

#### V 施策評価の基準

各細施策、施策の柱の点検及び評価は、次の4区分により達成度の評価を行う。

A 施策、事業の達成度、進ちよくが順調である。

目標値に対し達成度が非常に高い。

目標値の場合、基準値(平成26年度)を基本とし目標値から見て実績値の達成状況が80%以上。

B 施策、事業の達成度、進ちよくがおおむね順調である。

目標値に対し達成度が高い。

目標値の場合、基準値(平成26年度)を基本とし目標値から見て実績値の達成状況が60%以上80%未満。

C 施策、事業の達成度、進ちよくがあまり順調でない。

目標値に対し達成度がやや低い。

目標値の場合、基準値(平成26年度)を基本とし目標値から見て実績値の達成状況が40%以上60%未満。

D 施策、事業の達成度、進ちよくが順調でない。

目標値に対し達成度が低い。

目標値の場合、基準値(平成26年度)を基本とし目標値から見て実績値の達成状況が40%未満。

○目標値は、その施策の目標・目的の中で数値化できるものを表したものです。

施策の評価は、指標の進ちよくだけでなく、その他の事業実績等も包含した上で総合的に評価しています。

## VI 第二次川越市教育振興基本計画の施策目標値「達成状況総括表」

方向性	施策数	施策の 柱 数	細施策数(うち 指標設定のない 細施策数)	目標値の ある指標数	現時点で 目標を 達成済	未達成	
						H28年度より 改善が見られ ている指標	H28年度より 改善が見られ ていない指標
方向性Ⅰ	3	16	51 (27)	26	6	8	12
方向性Ⅱ	2	10	26 (16)	13	3	6	4
方向性Ⅲ	1	5	17 (11)	7	1	3	3
方向性Ⅳ	1	3	6 (2)	4	3	0	1
方向性Ⅴ	1	2	5 (3)	2	0	1	1
合 計	8	36	105 (59)	52	13	18	21

(注) 『達成状況一覧』は、5～7ページに掲載しています。

## Ⅶ 第二次川越市教育振興基本計画の施策目標値「達成状況一覧」

方向性	施策	担当課	指標	単 位	現在値 (H26)	H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値	達成状況 及び傾向	
						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	H32		
I	1 確かな学力と自立する力の育成	教育指導課	勉強は大切と考える児童生徒の割合	%	91.9	92.6	90.3	90.0				92.5		
		教育指導課	各種連携会議の参加者数	人	303	307	324	343				320		
		教育センター	A E T 配置実績	人	22	23	24	24				32		
		教育センター	授業における英語担当教員の英語使用状況	%	51.6	20.0	71.0	77.6				85.0		
		教育センター	情報モラルに関する指導ができる教員の割合	%	90.0	87.0	83.3	85.3				100.0		
		教育センター	授業におけるICT(情報通信技術)活用授業回数	回	51.1	74.8	84.4	90.7				75.0		
		教育センター	就学相談での判断と実際の就学状況一致率	%	75.0	79.2	86.6	82.7				80.0		
		教育センター	特別支援教育支援員一人あたりの児童生徒数	人	10.5	13.9	10.3	9.2				6.0		
		教育センター	特別支援学級授業公開参加者数	人	299	292	284	282				320		
	2 豊かな心と健やかな体の育成	教育指導課	「規律ある態度」達成率80%以上の項目数(小学校)	項目	67/72	69/72	67/72	67/72					72/72	
		教育指導課	「規律ある態度」達成率80%以上の項目数(中学校)	項目	33/36	34/36	33/36	33/36					36/36	
		教育指導課	児童一人あたりの読書冊数	冊	54.9	57.9	60.7	63.4					56.0	
		教育指導課	生徒一人あたりの年間読書冊数	冊	12.1	12.1	11.5	12.7					13.0	
		中央図書館	図書館職員による学校訪問等の学級数	学級	96	96	103	107					110	
		中央図書館	学校への団体貸出数	冊	7,833	8,494	8,701	7,332					11,000	
		教育指導課	いじめは、どんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合	%	96.1	95.7	95.8	95.3					100.0	
		教育センター	スクールカウンセラーが関わりを持ち、解決した割合	%	77.5	77.5	79.0	89.6					85.0	
		教育センター	さわやか相談員が関わりを持ち、解決した割合	%	87.3	85.0	82.9	90.3					90.0	
		教育センター	学生が関わったことによって、何らかの形で学校復帰が図れている児童生徒の割合	%	78.9	78.3	61.1	61.1					85.0	
		教育指導課	新体力テスト総合評価におけるA～C評価の生徒の割合	%	84.9	84.4	84.0	83.6					85.5	
	3 質の高い教育を支える教育環境の充実	教育センター	専門研修(奨励研修)参加率	%	48.0	47.9	50.5	41.1					55.0	
		学校管理課	研修参加教員数	人	25	29	30	30					49	
		教育財務課	大規模改造工事の推進	%	59.8	61.4	62.9	64.6					81.0	
		教育指導課	小学校における学校図書館図書標準の達成率	%	83.3	86.9	89.2	91.5					92.4	
		学校給食課	学校給食における地場産物の使用割合	%	8.1	22.9	18.5	21.4					22.0	
		教育センター	保護者・地域との連携研修参加者数	人	103	107	99	89					120	

方向性	施策担当課	指標	名	単	位	現在値 (H26)	H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値	達成状況 及び傾向	
							実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	H32		
II	1 家庭・地域の教育力の向上	地域教育支援課	子どもサポート事業への参加者数	人	32,935	41,765	50,841	43,368					33,330		
		中央公民館	講座数	講座	292	280	237	256					300		
		中央公民館	講座参加者数	人	24,907	29,306	28,087	29,809					25,000		
	2 生涯学習活動の推進	中央公民館	公民館主催事業の講座数	講座	128	130	103	107					130		
		中央公民館	公民館主催事業の講座参加者数	人	20,152	17,963	7,609	7,220					21,000		
		中央図書館	図書館の貸出冊数	冊	1,845,426	1,848,799	1,803,754	1,758,562					1,950,000		
		中央図書館	図書館の蔵書数	冊	836,315	843,893	852,908	858,306					860,000		
		中央図書館	図書館の事業開催回数	回	456	472	479	501					470		
		博物館	博物館の入館者数	人	98,205	98,025	96,516	89,563					100,000		
		博物館	博物館の収蔵資料点数	点	37,746	37,816	37,985	38,161					40,000		
		博物館	博物館講座・教室受講満足度	%	95.3	95.1	93.1	95.0						97.0	
		博物館	教育課程に位置付けた博物館活用の学校数	校	358	354	376	349						370	
		文化芸術振興課	川越大学間連携講座の受講者数	人	251	362	193	255						280	
		III	1 文化財の保護と文化芸術活動の充実	文化財保護課	文化財数	件	264	266	265	265					276
都市景観課	伝統的建造物の修理件数			件	57	61	64	69					76		
文化芸術振興課	協働による文化芸術事業件数			件	7	8	9	8					10		
文化芸術振興課	文化施設の利用者数			人	311,899	309,023	301,354	280,143					321,000		
美術館	美術館の常設展観覧者数			人	38,934	33,269	41,917	41,431					39,000		
美術館	美術館の特別展観覧者数			人	28,718	23,653	27,819	29,472					30,000		
美術館	川越市立中学校美術部の祭典の参加校数			校	20	21	20	21						22	



方向性	施策	担当課	指標	名	単	位	現在値 (H26)	H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値	達成状況 及び傾向
								実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	H32	
IV	1 多文化共生と国際交流・協力の推進	国際文化交流課	外国籍市民と日本人市民との年間交流者数	人	7,722	7,722	8,555	10,014	9,137					8,500	
							3,373	3,604	4,711	3,767				3,900	
							982	1,738	1,861	2,340				1,500	
							2,666	2,795	3,154	3,322				3,000	
V	1 生涯スポーツの推進	スポーツ振興課	総合型地域スポーツクラブ設置数	件	3	3	3	4	4				5		
							287,170	291,840	259,539	267,107				293,500	

(注) 達成状況及び傾向についての見方

指標の改善傾向	内 容
	現時点で目標が達成されている指標
	H28年度より改善が見られている指標
	H28年度より改善が見られていない指標 (数値が変わらなかったもの)
	H28年度より改善が見られていない指標 (数値が悪化・減少したもの)

## Ⅷ 第二次川越市教育振興基本計画 「施策評価総括表」

方向性	施策数	施策の 柱数	総合評価内容				(施策の柱) 施策評価内容				細 施策 数	(細施策) 施策評価内容			
			A	B	C	D	A	B	C	D		A	B	C	D
方向性 Ⅰ	3	16	5	11	0	0	5	11	0	0	51	21	29	1	0
方向性 Ⅱ	2	10	6	4	0	0	6	4	0	0	26	12	11	3	0
方向性 Ⅲ	1	5	2	3	0	0	2	3	0	0	17	4	13	0	0
方向性 Ⅳ	1	3	3	0	0	0	3	0	0	0	6	5	1	0	0
方向性 Ⅴ	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	5	1	4	0	0
合計	8	36	17	19	0	0	17	19	0	0	105	43	58	4	0

## Ⅸ 第二次川越市教育振興基本計画 「施策評価一覧」

### 方向性Ⅰ 生きる力を育む学校教育の推進

施策1 確かな学力と自立する力の育成					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 確かな学力の育成	B	B	B ①学力向上対策の推進	14	教育指導課
			B ②各学校の課題に応じた学校支援事業の推進	14	学校管理課
			A ③科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	15	教育指導課
(2) 校種間連携の推進	B	B	B ①小学校・中学校連携の推進	16	学校管理課
			B ②中学校・市立川越高等学校連携の推進	16	
			A ③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	17	教育指導課
(3) グローバル化に対応する教育の推進	A	A	B ①英語指導助手（AET）の配置事業の充実	18	教育センター
			A ②小学校外国語活動の推進	18	
			A ③小学校・中学校英語教育の充実	19	
			A ④国際理解教育の推進	19	
(4) 進路指導・キャリア教育の充実	A	A	A ①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	21	教育指導課
(5) 情報教育の推進	B	B	B ①ICT教育の推進	22	教育センター
			B ②情報モラル教育の推進	22	
			A ③コンピュータ施設・設備の充実と活用	23	
(6) 特別支援教育の充実	B	B	A ①就学支援委員会の充実	24	教育センター
			B ②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	24	
			B ③特別支援教育の理解・啓発の推進	25	
			B ④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	25	教育センター 特別支援学校

施策2 豊かな心と健やかな体の育成					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 豊かな心を育む教育の推進	B	B	B ①道徳教育の充実	27	教育指導課
			B ②規律ある態度の育成の推進	27	
			A ③読書活動の充実	28	
			A ④市立図書館司書等による読み聞かせの推進	28	
			B ⑤市立図書館から学校への図書貸出の推進	29	
(2) 生徒指導の充実	B	B	B ①いじめ防止対策の推進	30	教育指導課
			B ②不登校対策の推進	30	
			A ③教育相談の充実	31	
			B ④いきいき登校サポートプランの推進	31	
(3) 健康の保持増進と安全・体力向上の推進	A	A	A ①学校保健活動の推進	33	教育指導課
			A ②食育の推進	33	教育指導課 学校給食課
			B ③体力向上の推進	34	教育指導課
			B ④安全・防災教育の推進	34	

施策3 質の高い教育を支える教育環境の充実					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 教職員の資質向上	B	B	A ①経験・職能別研修の充実 (平成29年度より、経験者・特定研修の充実として実施)	36	教育センター
			B ②管理職等研修の充実	36	学校管理課
			B ③奨励研修の充実 (平成29年度より、専門研修の充実として実施)	37	教育センター
			B ④若手・中堅教員の育成	37	学校管理課 教育センター
			B ⑤大学等進学指導力向上研修の推進	38	学校管理課 市立川越高等学校
(2) 学習環境の整備・充実	B	B	C ①大規模改造工事等学校施設の整備の推進	39	教育財務課
			A ②普通教室への空調設備の設置	39	
			B ③学校図書館の充実	40	教育指導課
			A ④教育機会均等化のための支援	40	教育総務課 教育財務課

## IX 第二次川越市教育振興基本計画 「施策評価一覧」

### 方向性Ⅰ 生きる力を育む学校教育の推進

施策3 質の高い教育を支える教育環境の充実					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(3) 学校給食の充実	A	A	A ①給食内容の充実	42	学校給食課
			A ②学校給食施設の整備	42	
(4) 市立川越高等学校の改革・充実	B	B	B ①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	44	学校管理課 市立川越高等学校
			B ②市立川越高等学校教育環境の整備・充実	44	市立川越高等学校
(5) 教育センターの充実	B	B	B ①教育センターの整備・開放の充実	46	教育センター
			B ②保護者・地域との連携研修の充実	46	
(6) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	A	A	A ①学校評議員制度の充実	48	学校管理課
			A ②地域人材活用事業の充実	48	
			A ③日本語指導ボランティアの充実	49	
			B ④学校評価の活用	49	
(7) 小・中学校の適正規模・適正配置	B	B	B ①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討	51	学校管理課

### 方向性Ⅱ 活力ある地域を創る生涯学習の推進

施策1 家庭・地域の教育力の向上					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 家庭への支援	A	A	A ①家庭教育の支援	52	地域教育支援課
			B ②学童保育の充実	52	教育財務課
(2) 地域の教育力の向上	A	A	A ①学校・家庭・地域の連携推進	54	地域教育支援課
			A ②社会教育関係団体への支援	54	
			B ③地域の教育活動への支援	55	中央公民館

施策2 生涯学習活動の推進					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 生涯学習を推進する基礎づくり	B	B	B ①生涯学習を推進するための体制の充実	56	文化芸術振興課 中央公民館
			B ②市民参加の体制の充実	56	
(2) 市民の学習ニーズの把握及び生涯学習情報の充実	A	A	A ①学習ニーズの把握	58	文化芸術振興課
			A ②市民が利用しやすい生涯学習情報の提供	58	
(3) 社会の変化に応じた学習機会の提供	B	B	B ①ライフステージにおける課題の学習	60	中央公民館
			C ②現代的課題の学習	60	
(4) 人権施策の推進	A	A	A ①人権教育の充実	62	地域教育支援課
			A ②人権啓発資料の活用	62	
			A ③人権教育指導者の養成	63	
			A ④関係機関・団体等との連携	63	
(5) 身近な学習施設の整備・運営	B	B	B ①公民館の設置	65	地域教育支援課
			B ②既存公民館の整備・運営	65	中央公民館
(6) 市立図書館の充実	A	A	C ①図書館サービスの充実	67	中央図書館
			A ②図書館資料・情報提供サービス機能の充実	67	
			A ③図書館を活用した学習活動の推進	68	
(7) 博物館の整備・充実	B	B	C ①展示機能の充実	69	博物館
			B ②郷土資料の収集・保存	69	
			B ③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化	70	
			B ④博物館・蔵造り資料館の整備	70	
(8) 高等教育機関との連携の推進	A	A	B ①高等教育機関との連携体制の充実	72	文化芸術振興課
			A ②共催による講座等の充実	72	

## Ⅸ 第二次川越市教育振興基本計画 「施策評価一覧」

### 方向性Ⅲ 歴史文化の継承と新しい市民文化の創造

施策1 文化財の保護と文化芸術活動の充実					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 文化財の保護	B	B	B ①文化財指定等による保護	74	文化財保護課
			B ②文化財保護意識の啓発	74	
			B ③無形民俗文化財の保存と後継者の育成	75	
			B ④有形文化財の保存と活用	75	
			A ⑤重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実	76	都市景観課
			B ⑥河越館跡の整備・活用	76	文化財保護課
			B ⑦山王塚古墳の整備	77	
(2) 文化芸術の振興	B	B	B ①連携・協働による新たな文化芸術の創造	78	文化芸術振興課
			B ②若い世代が文化芸術事業に参加しやすいしくみづくり	78	
(3) 文化芸術に触れる機会づくり	A	A	B ①文化芸術が身近にある環境づくり	80	文化芸術振興課
			A ②子どもたちが文化芸術に親しむ機会づくり	80	
(4) 文化芸術活動への支援と文化交流の促進	B	B	B ①文化芸術活動への支援	82	文化芸術振興課
			B ②文化芸術活動の場の整備	82	
			B ③文化交流の促進	83	
(5) 美術館の充実	A	A	A ①展覧会等の充実	84	美術館
			B ②創作活動・発表の場の提供	84	
			A ③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化	85	

### 方向性Ⅳ 多文化共生と国際交流・協力の推進

施策1 多文化共生と国際交流・協力の推進					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) 誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりの推進	A	A	A ①共生意識を醸成するための相互理解の推進	86	国際文化交流課
			B ②外国籍市民への支援	86	
(2) 国際感覚に優れた市民の育成	A	A	A ①人材の発掘と育成	88	国際文化交流課
			A ②国際交流に関係する市民団体等との協力と連携	88	
(3) 姉妹・友好都市交流の充実	A	A	A ①姉妹・友好都市との交流事業の充実	90	国際文化交流課
			A ②さまざまな地域との新たな交流の創出	90	

### 方向性Ⅴ 生涯スポーツの推進

施策1 生涯スポーツの推進					
施策の柱	総合評価	施策評価	細施策	掲載ページ	担当課
(1) スポーツ活動の推進	A	A	A ①総合型地域スポーツクラブの設置・育成	92	スポーツ振興課
			B ②スポーツ教室・大会等の充実	92	
(2) スポーツ環境基盤整備	B	B	B ①スポーツ指導者等の養成・活用	94	スポーツ振興課
			B ②スポーツ施設の整備・充実	94	
			B ③学校体育施設の活用	95	

※網掛け  は文化スポーツ部  
 ※網掛け  は都市計画部



# X 進行管理(点検評価) シート

細 施 策	①学力向上対策の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	・「川越市小・中学生学力向上プラン」に基づき、教育委員会と各市立小・中学校が一体となって本市の学校教育の充実を図ります。 ・学力向上研究委員会の活動を推進し、児童生徒の学力を継続的に把握・分析し、さまざまな学力向上対策を推進します。								
前年度の改善の方策等	・教育委員会と、各小・中学校が目標を共有し、児童生徒一人ひとりの学力向上に向けた計画的・継続的な取組を推進してまいります。 ・学力向上研究委員会において、「思考力・判断力・表現力の育成」に向けた、教職員の指導力向上のための研究を継続してまいります。 ・モデル授業プランの取組を推奨し、児童生徒が勉強が好きになり、大切であるという意識が高まるよう努めます。								
平成29年度実績	・基礎的・基本的な定着をねらいとして確認テストを計画的・継続的に行い、学力向上に向けた取組を推進しています。 ・授業の流れ(課題の設定、言語活動の重視、児童生徒の言葉によるまとめと振り返り)について共通認識をもち指導する研究を推進しました。 ・モデル授業プランを踏まえた検証授業で使用した「学習指導案」の共有を推進しています。								
指標及び説明	【指標】 勉強は大切と考える児童生徒の割合				【説明】 全国学力・学習状況調査質問紙において、「国語や算数・数学の勉強は大切だと思う」と回答した児童生徒の割合(対象:小学校第6学年・中学校第3学年)				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	91.9	H27	H28	H29	H30	H31	H32	92.5
現状・課題	・小学校6年生、中学校3年生とも正答率で全国平均を下回る結果となり、特に、知識を活用する力、思考力・判断力・表現力の向上が課題となっています。 ・指標となる実績数値について対象教科・学年でのばらつきがあり、自己肯定感を育成し、学ぶことの大切さを実感できるよう、指導方法の工夫が課題となっています。								
改善の方策等	・学校の訪問等の機会を増やし、各学校の実態に則した支援をしていきます。 ・モデル授業プランを活用した授業公開を実施し、回数、のべ参加人数を増やし、学び合い、高め合いを継承した授業改善を支援していきます。								

細 施 策	②各学校の課題に応じた学校支援事業の推進				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施策の内容	子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止等、各学校におけるさまざまな課題に応じ、オールマイティーチャー(臨時講師)を配置し、課題解決を図ります。					
前年度の改善の方策等	配置した学校での効果を検証しながら、必要とする学校に対し、各課題に応じて教員を配置し、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進してまいります。また、課題解決につながるよう、各学校での活用方法について指導したり、配置の工夫をするなどして、効果的かつ柔軟な運用により、学校の多様なニーズに対応してまいります。					
平成29年度実績	校長が作成した企画書に基づき、学力向上の推進や、生徒指導体制の充実など各学校の課題に応じて、市内の小学校3校に3人、中学校11校に11人(国語3人、社会1人、数学1人、理科2人、英語2人、保健体育2人)の市費による教員を配置しました。これにより、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進することができました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	臨時講師配置状況(人)	14	14	14		
	配置校の内、課題の解消率が60%以上の学校の割合(%)	84.6	71.4	85.7		
現状・課題	各学校の課題に応じた活用により、きめ細やかな指導ができました。配置校では、加配により少人数指導やティーミングなどの指導が充実し、学力向上が図られたり、不登校傾向にある生徒に対する支援の強化が図られたりするなど、成果を上げています。課題の解消率は向上しておりますが、課題の解決が図れた場合でも、改善された状況を維持・向上していくため、継続的な配置を行う必要があります。					
改善の方策等	課題解決につながるよう、各学校での活用方法について校長に指導したり、学校を訪問して、オールマイティーチャーの教科指導方法について直接指導するなどして、改善につなげていきます。また、効果的かつ柔軟な運用により、学校の多様なニーズに対応してまいります。配置した学校での効果を検証しながら、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人ひとりに応じたきめ細かな教育活動を推進してまいります。					



【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

【施策の柱】 (1)確かな学力の育成

細 施 策	③科学わくわくラーニングプログラム事業の推進			担当課	担当課評価
				教育指導課	A
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校6年生を対象に、小学生科学体験事業を実施し、講演会、実験実習、科学施設の見学や体験活動の取組の充実を図ります。</li> <li>・理科実験助手派遣事業、小・中・大学連携理科ふれあい事業を推進します。</li> </ul>				
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学体験事業において、科学の講演会に係る講師や科学体験指導員による実験・実習指導の充実を図り、児童生徒の理科に関する知的好奇心や探究心を深めるようにします。</li> <li>・小学校に理科実験助手を計画的に派遣し、市内小学校の実験準備を円滑にするとともに教員の指導技術を高められるようにします。</li> <li>・小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学との連携を積極的に進め、児童生徒の理科に関する興味・関心を広げるようにします。</li> </ul>				
平 成 2 9 年 度 実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生科学体験事業として、市内小学校6年生80名を対象に、1日目に講演会、2日目に日本科学未来館の見学、3日目に実験・実習を行いました。</li> <li>・理科実験助手派遣事業により、小学校16校に理科実験助手を派遣しました。</li> <li>・小・中・大学連携理科ふれあい事業を小学校13校で実施しました。</li> </ul>				
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	小学校科学事業実施後アンケートにおいて「体験学習等を通じて科学的に考えることができた」と回答した児童の割合(%)	97.40%	96.20%	98.70%	
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学体験事業に参加した児童や小・中・大学連携理科ふれあい事業を実施した学校の児童生徒から、理科に対する興味・関心や知的好奇心が高まったという感想が寄せられています。</li> <li>・理科実験助手を配置することで、理科授業の工夫・改善や理科室の環境整備を進めています。一方で、現状の予算では、配置申請があがったすべての学校に配置をすることが難しい状況にあります。</li> <li>・小学生科学体験事業において、学習内容が参加した児童にとどまる傾向がみられます。</li> </ul>				
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学体験事業において、科学の講演会に係る講師や科学体験指導員による実験・実習指導の充実を図り、児童生徒の理科に関する知的好奇心や探究心を深めるようにします。</li> <li>・理科実験助手の配置が拡大できるよう、配置校や配置回数の工夫を継続します。</li> <li>・小・中・大学連携理科ふれあい事業において、大学との連携を積極的に進め、児童生徒の理科に関する興味・関心を広げるようにします。</li> </ul>				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施 策 の 柱	(1)確かな学力の育成				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①学力向上対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②各学校の課題に応じた学校支援事業の推進	学校管理課	B		
	③科学わくわくラーニングプログラム事業の推進	教育指導課	A		
学 識 経 験 者 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学3年生から理科が始まり、観察や実験を初めて行うことになるので、3年生の理科はとても重要である。今後とも事業の推進を図っていただきたい。</li> </ul>				B

細 施 策	①小学校・中学校連携の推進			担当課	担当課評価
				学校管理課	B
施策の内容	・市内全小・中学校を8つのブロックに分け、それぞれのブロックごとに情報や課題等を共有しながら、接続校同士の連携を一層深めていきます。 ・校長のリーダーシップのもと、教育委員会から各ブロックに指導主事を配置する等サポートをしながら、これまでの取組の見直しや改善を図り、より一層の充実・活性化を図ります。				
前年度の改善の方策等	今後、小・中学校で育てたい児童・生徒像を共有し、小中9年間を見通した年間指導計画を作成し、実施するなど、小・中一貫教育を意図した連携事業の改善・深化に努めます。また、平成29年度に小中一貫教育推進モデル校に小学校1校、中学校1校を指定し教育課程や目指す児童生徒像の研究を進めます。				
平成29年度実績	連携事業として、教員間では、授業の参観及び研究協議を行い、教育課程や特別支援教育などの合同研修会を実施しました。児童生徒間では、小学校6年生の「部活動体験」や「1日体験入学」(説明会)を実施しました。行事での交流では、音楽祭、体育祭での交流が図られました。一貫教育の取組では、一小一中型のモデル校における実践、研究成果を市内研修会において発表することができました。今後、この実践を基に教育課程での連携をさらに進めて行くようにします。				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	中学校1年生全体に占める不登校者数の割合(%)	1.89	1.69	2.66	
	小中9年間を見通した年間指導計画を作成・実施した学校の割合(%)	—	—	5.6	
現状・課題	平成29年度の実績では、中学校1年生の不登校数の割合が増加しました。これは、平成29年度の一年間で、教育センター(リベアラ)が、これまで長期欠席の理由が「病気」「その他」となっていた児童生徒の中には「不登校」と捉えた方がよいと判断ができる者もいたためです。その上で保護者とともに学校復帰に向けた取組を行ったためです。これまで小・中連携が中一ギャップの解消に果たしてきた役割を鑑み、今後も合同研修会、授業公開・研究協議、連絡会・情報交換会を通して教職員の指導力向上を図り、未然防止に努めます。				
改善の方策等	今後、小・中学校で育てたい児童・生徒像を共有し、小中9年間を見通した年間指導計画を作成し、実施するなど、小・中一貫教育を意図した連携事業の改善・深化に努めます。また、平成30年度に小中一貫教育推進モデル校を新たに指定し、市内全域にその成果を広めていきます。				

細 施 策	②中学校・市立川越高等学校連携の推進			担当課	担当課評価
				学校管理課	B
施策の内容	中学校と市立高等学校が一層連携し、双方の円滑な交流や相互理解、授業改善や教員の指導力向上に向けた取組を推進します。				
前年度の改善の方策等	平成29年度は、より多くの中学校との連携が実施できるようブロック内の連携校の見直しを行いました。系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす校種間連携を目指し、さまざまな取組を実施してまいります。				
平成29年度実績	市立川越高等学校と近隣及び遠方の中学校の平成29年度研究委嘱校間では、授業や体育祭などの学校行事の参観、高校教員による中学校での出前授業や進路に関する説明、中学生による上級学校訪問や生徒相互の部活動交流等を実施しました。中学生による高校の体験授業では、学年全体で参加することも行われ、連携が深められました。				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	教員・保護者間の交流活動件数(件)	28	25	24	
	生徒間の交流件数(件)	12	12	12	
現状・課題	出前授業や体験授業、部活動の相互交流や合同練習などが積極的に取り組まれ、教員の意識も高くなり、おおむね順調に進捗しています。今後、より多くの市内各中学校との連携を拡大することが課題となっています。				
改善の方策等	平成30年度も引き続き、より多くの中学校との連携が実施できるようブロック内の連携校の見直しを行いました。系統的な学習指導・生徒指導・進路指導に生かす校種間連携を目指し、さまざまな取組を実施してまいります。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

【施策の柱】 (2)校種間連携の推進

細 施 策	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小連絡懇談会を実施し、幼稚園、保育園、小学校の連携の在り方について話し合い、幼・保・小の円滑な接続を図ります。</li> <li>・教育委員会主催の研修会に幼稚園、保育園からの参加者を募り、共通のテーマで学び合い、それぞれの役割についての理解を深めます。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校へ周知し、今後も参加園・参加者の拡充を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを「子どもの発達と学びの連続性を育む幼保小の連携」とし、「子どもの興味・関心を育む活動」に視点をあてて実践事例集を作成しました。</li> <li>・幼保小連絡懇談会を6会場で実施し、授業公開や実践事例集に基づいた協議を行いました。</li> <li>・各会場での記録を冊子にまとめ、関係者に配布するとともに、公民館等に閲覧用として配布しました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 各種連携会議の参加者数				【説明】 市内の幼稚園、保育園、小学校(中学校)から市教委主催の懇談会・研修会等に参加した教職員の延べ人数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	人	303	H27 307	H28 324	H29 343	H30	H31	H32	320
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小連絡懇談会に114の園・校が参加し、年間を通してテーマに基づき連携を推進することができ、順調に進捗しています。</li> <li>・研究の視点を他者との関係を育む活動に絞ることで、幼保小の課題解決に向けた情報共有が可能となり、順調に進捗しています。</li> </ul>								
改善の方策等	幼保小連絡懇談会の成果を各幼稚園・保育園・小学校へ周知し、今後も参加園・参加者の拡充を図り、幼保小の円滑な連携を図ります。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施策の柱	(2)校種間連携の推進				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①小学校・中学校連携の推進	学校管理課	B	B	B
	②中学校・市立川越高等学校連携の推進	学校管理課	B		
	③幼稚園・保育園・小学校連携の推進	教育指導課	A		
学識経験者等意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な指導計画を立てられるように、小中9年間を見通した年間指導計画の策定を推進していただきたい。また、計画の策定のあたって、各学校の独自性を出せるように各学校に任せるべきところは任せるべきであるとする。</li> <li>・川越市は地域が広いので、市内全小・中学校を8つのブロックに分けて、それぞれのブロックで情報や課題等を共有しながら、接続校同士の連携を深めるという考え方は評価できる。</li> <li>・長期欠席の理由が「病気」、「その他」となっていた児童生徒の中に「不登校」と捉えるべき者がいた、ということは、これまでわからなかったことがわかったということであり、評価できる。</li> <li>・幼保小連絡懇話会や研修会は、小学校の教員が幼稚園や保育園の実態を直接把握できる機会なので、今後も引き続き実施していただきたい。</li> <li>・本市には市立の高等学校があるので、中学校との連携を今後さらに推進していただきたい。</li> </ul>				B

細 施 策	①英語指導助手（AET）の配置事業の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、「聞くこと」「話すこと」等の技能を伸ばすため、小・中・市立高等学校及び特別支援学校に配置されている英語指導助手(AET)の充実を図ります。								
前年度の改善の方策等	直接雇用の質の高いAETの人数を段階的に増やしていくとともに、小学校中学年における外国語活動、小学校高学年における英語科導入に向け、増員したAETは小学校に積極的にAETを配置していくように努めます。								
平成29年度実績	KET英語指導助手(川越市姉妹都市交流事業により招致された英語指導助手)2人、市内在住英語指導助手(教育委員会との契約による英語指導助手)5人、派遣契約の英語指導助手17人、合計24人のAETを配置しました。 <訪問実績> 英語指導助手(AET)24人 小学校 1,125日 中学校 2,539日 市立川越高等学校 160日 合計 3,824日								
指標及び説明	【指標】 AET配置実績				【説明】 英語指導助手(AET)の配置人数				
	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
指標の推移	人	22	H27 23	H28 24	H29 24	H30	H31	H32	32
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校においては学級担任とAETの共同授業、中学校においては英語科教員とAETとの共同授業において、AETを効果的に活用できる配置をし、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>・平成32年度新学習指導要領全面実施に向けて、小学校での外国語活動と外国語科の授業時数増加に伴い、特に小学校におけるAETの配置を増やすことが喫緊の課題です。</li> </ul>								
改善の方策等	直接雇用の質の高いAETや多くの人数を確保することができる派遣によるAETを段階的に増やしていくとともに、平成30年度は小学校中学年における外国語活動15時間の新設、小学校高学年における外国語活動15時間増に対応し、JETプログラムによりAETを6名増員しました。さらに平成32年度の新学習指導要領全面実施への対応のため、計画的に増員を図ります。								

細 施 策	②小学校外国語活動の推進				担当課	担当課評価
					教育センター	A
施策の内容	平成32(2020)年の学習指導要領の改訂において、外国語活動が小学校中学年から導入されることを視野に入れ、児童の外国語活動におけるコミュニケーション能力を伸ばす等の教員の指導力向上を図ります。					
前年度の改善の方策等	平成29年度は、AETは増員されず、現人数のままの配置が予想される中、担任とAETの効果的な授業が展開できるよう、さらに研修会を充実させ、教職員の指導力・英語力の向上を図ります。					
平成29年度実績	新学習指導要領における小学校外国語の教科化を鑑み、配置されたAETと担任の教員が、効果的に授業を展開し児童が英語に親しめるよう、市内全小学校の教員参加とする小学校外国語指導力向上研修会、市内全小・中・高等学校の教員全参加とする授業研究協議会等の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図り、小学校外国語活動の充実を推進しました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	AETの共同授業による1日平均授業時数(時間)	4.57	4.63	4.89		
	小学校5・6年1学級当たりのAETの年間訪問回数(日)	5.48	6.20	6.42		
現状・課題	特に小学校においては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域の人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うことが新学習指導要領に明記されています。英語を用いたコミュニケーションを積極的に取り入れ、さらに配置されたAETと担任の教員が、チーム・ティーチングを行いながら授業をすることで、児童の英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲をいっそう高めています。					
改善の方策等	平成32年度の新学習指導要領全面実施に向けて、小学校第3学年から第6学年を担当する小学校の担任の教員の指導力・英語力を高める必要があります。平成30年度と平成31年度の移行期間については、特に小学校教員の研修を質的・量的に充実させていきます。さらに、平成30年7月までに小学校への外国語活動の授業訪問を計画しています。					

細 施 策	③小学校・中学校英語教育の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施策の内容	平成32(2020)年の学習指導要領の改訂において、小学校高学年の英語の教科化や中・高等学校の英語教育の高度化が図られることを視野に入れ、児童生徒の英語力の強化を目指し、教員の指導力向上や外部人材の活用促進を図ります。								
前年度の改善の方策等	小学校高学年の英語の教科化や中学校の英語教育の高度化が図られることを視野に入れ、英語の研修を増やすことにより、今後、特に小学校教員の指導力の向上を図る研修の充実に努めます。								
平成29年度実績	<小学校研修実績> 小学校外国語活動指導者研修会(1回)、小学校外国語活動授業力アップ研修会(1回)、 小学校外国語活動授業づくり(1回)、英会話自主研修会(3回)、英会話初級研修会(1回) <中学校研修実績> 英語科指導力向上研修会(1回)、英語科授業づくり研修会(1回)、英会話中・上級研修会(1回)								
指標及び説明	【指標】 授業における英語担当教員の英語使用状況				【説明】 授業を英語で行う英語担当教員の割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	%	51.6	H27 20.0	H28 71.0	H29 77.6	H30	H31	H32	85.0
現状・課題	・教員の指導力向上に向け、授業における英語担当教員の英語の使用状況はおおむね順調に進捗しています。 ・今後は、平成32年度の小学校高学年の英語の教科化に向け、中学校の教員だけでなく小学校の教員の英語の指導力向上が喫緊の課題です。								
改善の方策等	・平成30年7月までに小学校へ訪問し、外国語活動の授業を参観するとともに、校内指導体制等の確認を行います。 ・外部人材の活用として、平成30年度から東京国際大学の学生を市内の小学校へ派遣します。(希望制)								

細 施 策	④国際理解教育の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施策の内容	・外国籍の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進していきます。 ・グローバル化に対応した教育環境づくりを推進し、国際理解教育の推進を図ります。								
前年度の改善の方策等	平成29年度より、名称を改め、さらに参加対象者を「英会話初級研修会」「英会話中・上級研修会」に分けて実施します。								
平成29年度実績	・教職員の英語力向上を図るとともに、グローバル化に対応できるよう、外国の文化に対する理解を深め、児童・生徒の発達段階や実態に即して国際理解教育を進められるよう、校種を分けて研修会を実施しました。 <研修実績> 英会話初級研修会(1回)、英会話中・上級研修会(1回)								
成果実績	項目名(単位)		H27	H28	H29				
	AETと楽しむ英会話研修会参加者数(人)		12	13	—				
	英会話初級研修会参加者数		—	—	15				
	英会話中・上級研修会参加者数		—	—	7				
現状・課題	グローバル化が進展し、異なる考え方や価値観をもつ人々と共生していくことが課題であり、これまで以上に国際理解教育を推進することが必要となります。国際理解教育を推進するためには、小学校や中学校の校種関係なく、研修を通して、教職員が日本及び諸外国の伝統や文化等について深い理解をもつことが重要であると考えます。								
改善の方策等	平成30年度より、名称を改め、「英会話研修会」として実施します。研修の中で、英語を通して日本及び諸外国の伝統や文化等に触れる機会を多く設定し、小学校における外国語活動や中学校における英語科の授業、国際理解教育の授業の中で、異文化理解や積極的にコミュニケーションを態度を育成できるよう支援していきます。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施策の柱		(3) グローバル化に対応する教育の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①英語指導助手(AET)の配置事業の充実	教育センター	B	A	A
	②小学校外国語活動の推進	教育センター	A		
	③小学校・中学校英語教育の充実	教育センター	A		
	④国際理解教育の推進	教育センター	A		
学識経験者等	<p>・中学校と違い、教科担任制ではない小学校において、教育センターが間に入り、授業の進め方やAETとのコミュニケーションのとり方を支援することにより、教員の負担軽減を図るとともに、英語教育の充実を図っていただきたい。</p>				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策の柱】 (4)進路指導・キャリア教育の充実

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

細 施 策	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	担当課		担当課評価
		教育指導課		A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の発達段階に応じた進路指導・キャリア教育の充実に努めます。</li> <li>・川越市中学生社会体験事業を実施し、地域の事業所等での体験活動を通して勤労観や職業観を養う機会の充実に努めます。</li> </ul>			
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験活動の事後指導を確実にを行い、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。</li> <li>・校区内の事業所等の開拓、確保に努めます。</li> </ul>			
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市中学生社会体験事業を、市立全中学校で実施し、事後のアンケート調査を行いました。その結果を、事業実施以降の指導に活用しました。</li> <li>・「進路指導・キャリア教育研修会」を実施しました。「キャリア教育の現状と課題について」をテーマとし、前半の講義に加え、後半は参加者によるグループ協議等を行いました。</li> <li>・関係団体等との連携を図り、本事業を円滑に運営することができました。</li> </ul>			
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29
	社会体験事業実施後のアンケートで「自分の将来の夢や希望について考える機会となった」と回答した生徒の割合(%)	89.20%	93.58%	93.68%
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後のアンケート調査によると、「働くことの大切さや意味を考える機会となりましたか」「仕事をするために、周りの人との協力が大切なことが理解できましたか」「あいさつや時間など社会のきまりを守ることの大切さを理解できましたか」「働くことの厳しさ、大変さを知ることができましたか」の項目で、98%以上の生徒が肯定的な回答を示し、本事業は順調に進捗しています。</li> <li>・事業の実施時期、生徒の希望にあった事業所の確保、事業所までの通勤方法が課題として挙げられています。</li> </ul>			
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験活動の事後指導を確実にを行い、体験を今後の生活に生かす視点を取り入れるようにしていきます。</li> <li>・校区内の事業所等の開拓、確保に努めます。</li> </ul>			

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施策の柱	(4)進路指導・キャリア教育の充実				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①地域・関係機関と連携した社会体験活動の充実	教育指導課	A	A	A
学識経験者意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒が校区内の事業所で社会体験活動を行うことができるように、地域との連携を図り、校区内の事業所等の開拓、確保に努めていただきたい。</li> </ul>				

細 施 策	① ICT教育の推進				担当課	担当課評価
					教育センター	B
施策の内容	児童生徒がコンピュータやインターネット等のICTを活用し、情報活用能力を身に付け、主体的な学びができるよう推進します。					
前年度の改善の方策等	教職員一人一人の能力や適性に合った研修会を引き続き計画的に実施することによって、ICT教育の効果や必要感を周知し、授業でのICT活用を推進していきます。					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校の授業におけるICT(情報通信技術)活用回数は、平成28年度は1学級あたり小学校で70.1回、中学校で90.8回に対し、平成29年度は小学校で74回、中学校で107.8回と増加傾向は続いています。</li> <li>・デジタル教科書の1校あたりの活用回数は、平成28年度は392.6回、平成29年度は493回となっており、大きく伸びたことがうかがえます。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	ICTを活用して学習指導ができる教員(%)	78.5	78.0	77.7		
	児童生徒にICT活用を指導できる教員(%)	73.9	72.1	67.1		
現状・課題	デジタル教科書の活用を含め、ICT機器の活用は大きく増加しています。しかし、ICTを活用して学習指導ができる教員や、児童生徒にICT活用を指導できる教員の割合が伸び悩んでいます。このことから、ICT機器を活用できる教員と、そうでない教員の二極化が進んでいることが考えられます。					
改善の方策等	機器の実態に合わせて具体的な事例の紹介や、ICT教育の有用性だけでなく効果や必要性が感じられるような研修会を引き続き計画的に実施することに努めます。そして、ICT機器の活用を得意としない教員を対象に、校内でICT機器の活用の実践について研修したり、授業公開を行ったりして、具体的な実践例を示すなどし、各学校に活用を働きかけていきます。					

細 施 策	②情報モラル教育の推進						担当課	担当課評価	
							教育センター	B	
施策の内容	児童生徒の情報の安全管理や情報モラル等の育成を一層推進するために、管理職や情報化推進リーダー等を対象にした情報モラル教育の研修の充実を図ります。								
前年度の改善の方策等	情報モラル教育に関する研修の内容を充実させ、教職員の情報モラルに対する指導力の向上に努めます。また、保護者を対象とした研修会においても情報モラルについて扱い、情報の安全管理や情報モラルについて一層啓発してまいります。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教育に関しては、小学校では主に総合的な学習の時間、中学校では技術家庭科(情報分野)の年間指導計画に位置付け、実施しています。</li> <li>・平成29年度小・中学校の情報モラルに関する授業の実施回数は、1校あたり23回となっています。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合			【説明】 情報モラルに関する指導ができる教員の割合(文部科学省及び川越市独自調査)					
	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
指標の推移	%	90.0	H27 87.0	H28 83.3	H29 85.3	H30	H31	H32	100.0
現状・課題	情報モラルに関する指導ができる教員の割合が少し回復傾向にあります。しかし、児童生徒の実態を鑑み、著作権、肖像権のみならず、SNS等のコミュニケーションツールでのトラブル回避等について、全教職員が指導できる力を身に付けることが必要です。								
改善の方策等	外部機関と連携しながら、情報資産の安全管理のための研修と、児童生徒の実態に合わせた現代的な諸課題に対する研修を、ねらいを明確にして実施し、教職員の情報モラル教育の指導力向上に努めます。また、研修会において、外部機関を利用した出前授業や校内研修を実施していくよう促していきます。								



【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

【施策の柱】 (5)情報教育の推進

細 施 策	③コンピュータ施設・設備の充実と活用							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施 策 の 内 容	情報化の進展に対応する児童生徒を育成するためにコンピュータ室等の教育用パソコンを計画的に更新するとともに、校内LANを計画的に整備し、コンピュータ施設・設備の充実と活用を図ります。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	平成29年度は、校内LAN敷設工事を中学校10校で実施し、合わせて500台のコンピュータ(タブレット含む)を導入予定です。平成29年度から平成31年度まで、計画的に全小・中学校に校内LAN敷設工事とともにコンピュータの導入も実施し、設備の充実を図っていきます。								
平 成 2 9 年 度 実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は中学校10校の校内LAN環境を整備し、児童生徒用のコンピュータ(タブレット)を500台導入しました。また、小中学校54校の校務用プリンタを導入しました。</li> <li>学校に設置されている教育用コンピュータの活用を図るため、教職員に対してデジタル教科書や電子黒板、タブレット端末の活用に関する研修会を実施し、教職員の指導力の向上を図りました。</li> </ul>								
指 標 及 び 説 明	【指標】 授業におけるICT(情報通信技術)活用 授業回数				【説明】 児童生徒が授業の中でICTを活用して学ぶ授業の年 間実施回数				
	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
指 標 の 推 移		H27	H28	H29	H30	H31	H32		
	回	51.1	74.8	84.4	90.7			75.0	
現 状 ・ 課 題	平成26年度からICTを活用した授業を行う回数が増加傾向にあります。タブレット型コンピュータ等のICT機器の導入を計画的に進めています。しかし、コンピュータ1台当たりの児童生徒数については、依然として国や県よりもかなり開きがあります。計画的なコンピュータの導入と同時に、児童生徒が活用の幅を広げられる教職員の指導力の向上が課題となっています。								
改 善 の 方 策 等	平成30年度は、校内LAN敷設工事を小学校15校で実施し、合わせて600台のコンピュータ(タブレット含む)を導入予定です。平成30年度から平成31年度まで、計画的に全小・中学校に校内LAN敷設工事とともにコンピュータの導入も実施し、設備の充実を図っていきます。また、教職員の指導力向上においては、新しい機器を効果的に使用するために、タブレット型コンピュータ等のICTを活用した授業づくりに関する研修会を進めていきます。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施 策 の 柱	(5) 情報教育の推進				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①ICT教育の推進	教育センター	B	B	
	②情報モラル教育の推進	教育センター	B		
③コンピュータ施設・設備の充実と活用	教育センター	A			
学 識 経 験 者 等 意 見	なし				B

細 施 策	①就学支援委員会の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施策の内容	小・中学校への就学予定者及び小・中学校に在籍する児童生徒のうち、特別な支援を必要とする子どもに対して、一人ひとりのニーズに応じた学びの場と学習内容の判断を行い、就学の適正化を図る、学識経験者、専門医、学校教育機関の代表、関係行政機関の職員で構成する就学支援委員会の充実を図ります。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対し、必要とする十分な情報提供を今後も行っていきます。</li> <li>・児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。</li> </ul>								
平成29年度実績	就学相談が必要な幼児、児童生徒に対して、本人の観察や保護者との面談、諸検査の実施、学校・就学前施設からの聞き取り等を通して、児童生徒一人ひとりに合った学びの場の判断を行い、具体的な支援方法等について保護者に情報提供を行いました。就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対しては、必要とする十分な情報提供を行い、適切な就学先を決定できるように努めました。								
指標及び説明	【指標】 就学相談での判断と実際の就学状況一致率				【説明】 就学支援委員会の判断結果と保護者、本人が決めた就学場所が一致した割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	%	75.0	H27 79.2	H28 86.6	H29 82.7	H30	H31	H32	80.0
現状・課題	定期の就学相談のほか、相談の内容や重ねて相談が必要な状況に応じて、臨時的就学相談を実施しました。児童生徒について多くの情報をもとにした、適切な就学先の判断や継続的な相談が進められており、順調に進捗しています。								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学支援委員会の判断と異なる就学先を希望する保護者に対し、必要とする十分な情報提供を今後も行っていきます。</li> <li>・児童生徒の様子を適切に把握できるよう、就学前施設、小・中学校とより一層の連携を図ります。</li> </ul>								

細 施 策	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、自立支援サポーターの活用促進や、通常の学級における支援の推進に努めます。</li> <li>・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、障害の程度に応じた支援の充実を図ります。</li> <li>・小・中学校に設置している特別支援学級の子ども一人ひとりの障害の特性等に配慮した指導・支援の充実を努めます。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	自立支援サポーター一人ひとりが、児童生徒の多様な状況に対応できるようにするため、支援の仕方に関する研修の充実を図ります。								
平成29年度実績	自立支援サポーターのニーズも勘案しながら研修の内容を見直し、児童生徒の発達段階、障害の特性に応じた支援等、実際に児童生徒と接する上で必要な知識や方法について、研修を実施しました。各小・中学校からの自立支援サポーターの配置にあたり、平成29年度は延べ1,535名の児童生徒の申請がありました。通常学級に在籍する児童生徒の中で、学習障害(LD)や注意欠如多動性障害(ADHD)・自閉症スペクトラム障害等の発達障害等、個別の支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、申請のあった学校には、週1～2日の範囲での配置となりました。								
指標及び説明	【指標】 特別支援教育支援員一人あたりの児童生徒数				【説明】 特別支援教育の臨時指導員と自立支援サポーター一人あたりの児童生徒の割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
	人	10.5	H27 13.9	H28 10.3	H29 9.2	H30	H31	H32	6.0
現状・課題	自立支援サポーター一人ひとりが研修内容を生かした実践をしています。また、平成29年度の特別支援教育支援員一人あたりの児童生徒数は、前年度よりも少なくなっています。しかし、学校からの申請児童生徒数は毎年増加しており、週1～2日で配置の中で児童生徒との信頼関係を図りながら個に応じた支援を行っていくのは、難しい状況です。また、臨時指導員による支援を充実させることも、今後より一層取り組んでいく必要があります。								
改善の方策等	各学校の児童生徒の実態に応じ、特別支援教育支援員(自立支援サポーターや臨時指導員)の効果的な配置を進めるとともに、特別支援教育支援員同士が情報共有や意見交換をしながら児童生徒の様々な実態に応じた支援について学ぶことができるよう研修の充実を図ります。また、より多くの児童生徒が支援を受けることができるよう、自立支援サポーターのよりよい活用の仕方について検討していきます。								

細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	・障害のある児童生徒理解のためのパンフレットを作成し、特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・心のバリアフリーを育む交流及び共同学習等の充実を図り、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進します。								
前年度の改善の方策等	セミナーやリーフレットをさらに活用し、障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。また、セミナーの内容について、参加する方のニーズに合わせた内容を工夫し、特別支援教育の理解を図ります。								
平成29年度実績	「就学相談セミナー」「発達障害セミナー」の開催により、セミナーに参加した保護者が、就学相談や教育相談を希望する等、児童生徒のよりよい成長のための支援の在り方を共に考えることができました。特別支援学級の授業公開では、29年度は前年度と同程度の参加がありました。また、リーフレットは児童生徒や保護者、教職員にとってわかりやすい内容となるよう見直し、配布しました。								
指標及び説明	【指標】 特別支援学級授業公開参加者数				【説明】 特別支援学級の公開授業に参加する保護者の人数				
	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
指標の推移	人	299	H27 292	H28 284	H29 282	H30	H31	H32	320
現状・課題	特別支援学級の授業について関心のある保護者は多く、毎年250～300名の方が申し込んでいます。保護者向けセミナーや特別支援学級の授業公開日进行することで、発達障害や特別支援教育、子供の就学など、具体的な理解につなげることはできています。しかし、特別支援教育への理解は、現状として広く一般市民まで啓発できていない面があります。特別支援教育に対するニーズが高まっている今、学校教育での交流及び共同学習等の充実を今後もより一層図っていく必要があります。								
改善の方策等	セミナーやリーフレットをさらに活用し、障害のある児童生徒の保護者だけでなく、一般市民にも理解を得られるような広報活動を積極的に行います。また、セミナーの内容について、参加する方のニーズに合わせた内容を工夫します。学校教育では、特別支援学級の教員だけでなく、教職員全体の特別支援教育に対する理解、指導力の向上につなげられるよう、研修の内容を充実させてまいります。なお、平成28年度4月から障害者差別解消法の施行等を踏まえ、さらに、障害のある児童生徒とない児童生徒が共に学ぶことを目指すインクルーシブ教育システムの構築に努めます。								

細 施 策	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実							担当課	担当課評価
								教育センター・特別支援学校	B
施策の内容	市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割を担えるよう支援体制の整備を推進します。								
前年度の改善の方策等	特別支援教育の理解・啓発をより一層推進してまいります。								
平成29年度実績	平成29年度 市立特別支援学校のセンター的機能の活用実績 20件 (内訳) 保護者との面接相談 2件 特別な配慮が必要な児童生徒についての小・中学校への指導援助 11件 小・中学校における配慮が必要な児童生徒への支援に関する研修会の実施 5件 その他(進路学習、専門機関の情報提供) 2件								
成果実績	項目名(単位)	H27		H28		H29			
	特別支援学校のセンター的機能による対応数(件)	保護者	3	保護者	11	保護者	2		
		学校	4	学校	9	学校	11		
		研修	3	研修	5	研修	5		
		その他	4	その他	2	その他	2		
合計	14	合計	27	合計	20				
現状・課題	保護者、小・中学校への指導助言、研修会等では、地域の特別支援教育推進を支援し、特別支援学校の専門性を生かしたセンター的機能が発揮されています。しかし、配慮が必要な児童生徒が増えてきている現状があり、特別支援教育へのニーズが高まってきている中、センター的機能の役割について広く周知し、これまで以上に活用していく必要があります。								
改善の方策等	特別支援教育の理解・啓発を図るため、コーディネーター研修会でセンター的機能の活用実践例を紹介していきます。また、各学校の児童生徒の実態に応じ、市立特別支援学校のセンター的機能を生かした学校訪問を行い、小・中学校への指導援助を充実させてまいります。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 1 確かな学力と自立する力の育成

施策の柱		(6) 特別支援教育の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①就学支援委員会の充実	教育センター	A	B	B
	②一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	教育センター	B		
	③特別支援教育の理解・啓発の推進	教育センター	B		
	④市立特別支援学校のセンター的機能の充実	教育センター 特別支援学校	B		
学識経験者等 意見	・自立支援サポーター及び臨時指導員による支援の充実に、より一層取り組んでいただきたい。				

細 施 策	①道徳教育の充実				担当課	担当課評価
					教育指導課	B
施策の内容	豊かな心を育む道徳教育の一層の充実と道徳的実践力の向上を、学校の教育活動全体で推進します。					
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師を中心とした校内組織を整備するとともに、家庭・地域との連携した取組や「私たちの道徳」や埼玉県資料を積極的に活用し、道徳教育の充実を推進します。</li> <li>・作成した「川越市の道徳教育」を活用し、さらなる道徳教育の充実を図ります。</li> </ul>					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校訪問で公開授業を実施し、授業や分科会の協議を通して指導力の向上を図りました。</li> <li>・教科化に向けて、指導と評価の一体化を目指した道徳教育の冊子「川越市小学校教育課程指導・評価資料(道徳)」を作成しました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	道徳の時間を楽しい、あるいはためになると思う児童がクラスのほぼ全員である小学校数(全32校)	19	13	22		
	道徳の時間を楽しい、あるいはためになると思う生徒がクラスのほぼ全員である中学校数(全22校)	1	2	5		
現状・課題	道徳教育推進教師研修会や学校指導訪問等を通して、指導力の向上を図ることができ、おおむね順調に進捗しています。					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科化を契機に、道徳教育推進教師を中心とした校内組織をより一層整備するとともに、家庭・地域との連携した取組や「私たちの道徳」や埼玉県資料を積極的に活用し、道徳教育をより充実させます。</li> <li>・作成した「川越市の道徳教育」及び「川越市小学校教育課程指導・評価資料(道徳)」等を活用し、さらなる道徳教育の充実を図ります。</li> </ul>					

細 施 策	②規律ある態度の育成の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	学校が家庭や地域と連携を密にし、児童生徒の基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図ります。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校指導訪問等の機会をとらえ、各学校の実態に即した取組を支援してまいります。</li> <li>・学力向上研究委員会において、特別活動部会を計画的に行い、コミュニケーション能力の育成を目指した具体策等を検討してまいります。</li> </ul>								
平成29年度実績	各小・中学校での校種間連携をさらに密にし、子どもの実態に則した指導が9年間を見通して行えるよう支援しました。								
指標及び説明	【指標】 「規律ある態度」達成率80%以上の項目数 ①小学校:各学年12項目×6学年 ②中学校:各学年12項目×3学年				【説明】 埼玉県学力・学習状況調査質問紙において達成率が80%以上であった項目の数				
	指標の推移	単位	実 績 値						
現在値(H26)		H27	H28	H29	H30	H31	H32	(H32)	
① 項目		67/72	69/72	67/72	67/72				72/72
② 項目	33/36	34/36	33/36	33/36				36/36	
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「時刻を守る」の質問項目はおおむね90%以上の達成率を示し、順調に推移していますが、他の質問項目において90%を下回る結果となり、学校だけではなく家庭とも連携した取組が必要となっています。</li> <li>・「話を聞き発表する」の質問項目は昨年度に引き続き同様の傾向(年を重ねるごとに達成率が低下していく)を示しているため、特に授業等において話し合い活動を取り入れた指導方法の見直しが課題となっています。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会、学校説明会において、直接保護者に説明したり、学校だより等においてお願いしたりして、家庭に働きかけていきます。</li> <li>・「話を聞き発表する」場面を意図して作り出す学習活動の推進を支援していきます。</li> <li>・校種間連携等で学校に訪問する機会を昨年度よりも増やし、各校の課題に則した支援を行います。</li> </ul>								

細 施 策	③読書活動の充実							担当課	担当課評価
								教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生は「小江戸読書マラソン」の取組、中学生は「小江戸中学生読書手帳」の活用を通して、児童生徒の読書活動を推進します。</li> <li>小学校入学時に読書活動啓発リーフレットを配布し、家庭における読書活動の啓発に努めます。</li> <li>司書教諭・図書整理員の配置により、学校図書館経営を充実させ、読書活動の推進を図ります。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書マラソンカードを活用した読書啓発の実践を進めることで、今後の読書冊数の増加が期待できます。</li> <li>読書手帳に掲載されている作品について授業を通じて更に活用し、今後の読書冊数の増加に努めます。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生には「小江戸読書マラソン」を配布し、意欲的な読書活動が進められるようにしました。</li> <li>中学生には「小江戸中学生読書手帳」を配布し、生徒の興味・関心を踏まえ、取り上げる本を見直すなど内容を改善しました。</li> <li>読書活動啓発リーフレットについて、内容を見直し、改善を図りました。</li> </ul>								
指標及び説明	<b>【指標】</b> ①児童一人あたりの読書冊数 ②生徒一人あたりの年間読書冊数(読んだ本の感想等を記入した冊数)				<b>【説明】</b> ①川越市小江戸読書マラソン実施状況調査における実施期間中の平均読書冊数 ②川越市小江戸中学生読書手帳活用状況調査において読書手帳に記入された平均読書冊数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	① 冊	54.9	57.9	60.7	63.4			56.0	
② 冊	12.1	12.1	11.5	12.7			13.0		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校では読書マラソンカードの積極的な活用により、平均読書冊数は向上しており、順調に進捗しています。</li> <li>中学校でも読書冊数が増加していますが、引き続き、読書手帳について全校読書や授業での活用を継続して、読書冊数増加に努める必要があります。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、読書マラソンカードを活用した読書啓発の実践を進めます。</li> <li>読書手帳に掲載されている作品について授業を通じて更に活用し、今後の読書冊数の増加に努めます。</li> </ul>								

細 施 策	④市立図書館司書等による読み聞かせの推進							担当課	担当課評価
								中央図書館	A
施策の内容	図書や図書館への興味・関心を持たせるため、市立図書館職員の学校訪問等を通じ、読書活動の推進に努めます。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行います。</li> <li>文字の習得により児童自身の読書活動が活発になる小学校1年生へ本の紹介を行います。</li> <li>市内小中学校の教員に事業のPRをします。</li> </ul>								
平成29年度実績	全市立小学校3年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。また、市立小学校5校の1年生の各学級を訪問・招待し、本の紹介を行いました。								
指標及び説明	<b>【指標】</b> 図書館職員による学校訪問等の学級数				<b>【説明】</b> 学校訪問等により本などの紹介を実施した市内小・中学校の学級数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	学級	96	96	103	107			110	
現状・課題	市立図書館司書等による全市立小学校3年生への学級訪問等の実績は順調です。しかし、他学年への学級訪問等の数が少ないことが課題です。								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き文字の習得により児童自身の読書活動が活発になる小学校1年生への本の紹介を行います。また未実施の学級への訪問等が実施できるよう努めます。</li> <li>市内小中学校の教員に事業のPRをします。</li> </ul>								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

【施策の柱】 (1)豊かな心を育む教育の推進

細 施 策	⑤市立図書館から学校への図書貸出の推進						担当課	担当課評価	
							中央図書館	B	
施 策 の 内 容	児童生徒の調べ学習等の要望に応えるため、市立図書館から学校への図書貸出を推進します。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	引き続き市内小中学校の教員に事業のPRをします。また、高校の教員にも事業のPRをします。								
平 成 2 9 年 度 実 績	児童・生徒たちへの「テーマ」に沿った図書を市内小学校に6,274冊、中学校に1,058冊貸し出しました。 また、市立小学校3年生の各学級を訪問・招待した際に、2,876冊、市立小学校1年生の各学級を訪問・招待した際に472冊の図書を貸し出しました。								
指 標 及 び 説 明	【指標】 学校への団体貸出数				【説明】 市内小中高校の各学級に団体貸出(100冊を上限に1か月間貸し出す)により貸し出した冊数				
	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値					目 標 値 (H32)	
指 標 の 推 移	冊	7,833	H27 8,494	H28 8,701	H29 7,332	H30	H31	H32	11,000
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度実績は7,332冊で昨年度実績値を下回りましたが、中学校への貸し出しは昨年度の385冊から大幅に上回りました。</li> <li>高校の教員への事業PR方法について課題があります。</li> </ul>								
改 善 の 方 策 等	引き続き市内小中学校に事業のPRをします。また、高校の教員への事業PR方法を検討します。								

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

施 策 の 柱	(1)豊かな心を育む教育の推進				
施 策 評 価	細 施 策	担 当 課	施 策 評 価		総 合 評 価
			細 施 策	施 策 の 柱	
	①道徳教育の充実	教育指導課	B	B	
	②規律ある態度の育成の推進	教育指導課	B		
	③読書活動の充実	教育指導課	A		
	④市立図書館司書等による読み聞かせの推進	中央図書館	A		
⑤市立図書館から学校への図書貸出の推進	中央図書館	B			
学 識 経 験 者 意 見 等	・学校における読み聞かせのニーズはあると思われるので、さらに周知を図っていただきたい。				

細 施 策	①いじめ防止対策の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市立小・中学校におけるいじめ問題の実態を把握し、いじめの根絶に向けた取組を推進します。</li> <li>・いじめ問題対策委員会の意見を踏まえ、具体的な取組を推進します。</li> <li>・児童相談所等の関係機関と連携し、情報交換や対応策を検討します。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。</li> <li>・いじめは、どんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合を高めるため、川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。</li> <li>・児童生徒への具体的な支援策を検討するための関係機関との連携について、体制の強化を図ってまいります。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ未然防止対策では、各学校のいじめ防止対策推進体制の進捗状況を定期的に確認して取り組みました。また、いじめ・不登校対策検討委員会では、リーフレット「児童生徒の手で築く『いじめをしない学校』を目指して」を作成し、市内全教員へ配布しました。</li> <li>・いじめ問題対策委員会(定例年3回)を開催し、いじめ防止に向けた各施策、取組等についての意見に基づいていじめ防止対策を推進しました。</li> <li>・生徒指導上の支援を必要とする児童生徒について、学校及び児童相談所やこども家庭課等とのケース会議等で連携し情報の共有を図りました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 いじめは、どんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合				【説明】 全国学力・学習状況調査質問紙において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童生徒の割合(対象:小学校第6学年・中学校第3学年)				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	96.1	H27 95.7	H28 95.8	H29 95.3	H30	H31	H32	100.0
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止対策の推進のため、施策や取組を含む「川越市いじめの防止等のための基本的な方針」について、平成30年度中に改定します。</li> <li>・いじめ未然防止に向け、各学校と関係機関との連携をより円滑にすることが大切です。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「川越市いじめの防止等のための基本的な方針」の改定を受け、全市立学校で「学校いじめ防止基本方針」の見直しを進め、いじめ問題への早期対応と、いじめの未然防止に向けた取組の充実を図ります。</li> <li>・いじめ問題の早期発見に向け、定期的に児童生徒アンケート及び保護者アンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に万全を期してまいります。</li> <li>・川越市児童生徒連絡協議会と連携し、各学校の児童生徒が主体となったいじめ撲滅に向けた取組を推進してまいります。</li> <li>・児童生徒への具体的な支援策を検討するための関係機関との連携について、体制の強化を図ってまいります。</li> </ul>								

細 施 策	②不登校対策の推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校対策検討委員会において、協議内容や成果物をもとに不登校問題の防止や対応に向け、具体的な取組を推進します。</li> <li>・臨床心理士やスクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した相談体制の充実を図るとともに、不登校児童生徒や保護者を支援し、不登校児童生徒の減少を目指します。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を深め、支援の充実を図ります。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回から2週間に1回の割合で県から配置されているスクールカウンセラーが、生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて6,794回の相談を行いました。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーを活用し、福祉関連機関との連携を図っています。</li> <li>・教育センター分室配置の臨床心理士が学校訪問やリバーラでの面接相談のスーパーバイズを行い、支援の充実を図っています。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 スクールカウンセラーが関わりを持ち、解決した割合				【説明】 中学校に配置されているスクールカウンセラーが関わりを持ち、解決した割合				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	77.5	H27 77.5	H28 79.0	H29 89.6	H30	H31	H32	85.0
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーが相談に応じ、不登校が解決(改善)した割合は89.6%となっています。また、スクールソーシャルワーカーが、福祉関連機関との連携を図り、課題解決を図っています。</li> <li>・今後は、不登校児童生徒数の増加や不登校の要因が複雑化していることを鑑み、専門家がより連携を深め、支援の充実に努めることが必要です。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を深め、支援の充実を図ります。</li> </ul>								



細 施 策	③教育相談の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	A
施策の内容	・市内全中学校に配置している、さわやか相談員の活用を図り、不安や悩みを持つ児童生徒が相談しやすい教育相談体制を推進します。 ・スクールカウンセラーや教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士など、専門的知識を有する人材を活用し、児童生徒、保護者に対する教育相談体制の充実を図ります。								
前年度の改善の方策等	今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を図るとともに、特に不登校や不登校傾向にある児童生徒、および保護者への支援の充実を図っていきます。								
平成29年度実績	中学校に配置のさわやか相談員が、小・中学生や保護者等延べ13,992人の相談に対応しました。週1回から2週間に1回の割合で県から配置されているスクールカウンセラーが、児童生徒やその保護者への面接、教職員への助言など、併せて6,794回の相談を行いました。スクールソーシャルワーカーを活用し、福祉関連機関との連携を図っています。								
指標及び説明	【指標】さわやか相談員が関わりを持ち、解決した割合				【説明】中学校に配置されているさわやか相談員が関わりを持ち、解決した割合				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	87.3	H27	H28	H29	H30	H31	H32	90.0
現状・課題	さわやか相談員が対応した相談内容が複雑化していますが、解決した割合は90.3%となっています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士を活用しながら、より専門的な立場からの支援を充実していくことが課題となります。								
改善の方策等	今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育センター分室(リバーラ)の臨床心理士の活用を一層図り、学校、家庭、および福祉関連機関との連携を図るとともに、特に不登校や不登校傾向にある児童生徒、および保護者への支援の充実を図っていきます。								

細 施 策	④いきいき登校サポートプランの推進							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	市内小・中学校における不登校問題の解消に向けて、大学生による不登校児童生徒支援事業等の「いきいき登校サポートプラン」をさらに推進し、学校、専門家、地域が連携し、一体となった取組を進めます。								
前年度の改善の方策等	スチューデントサポーターの配置について、関係の大学と連携し、大学生への事前研修や活動中の学生への指導の充実を一層図るとともに、対応するケースによって、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さらに教育センター分室(リバーラ)の教育相談との連携を深めていきます。								
平成29年度実績	平成29年度は18人のスチューデントサポーターが、延べ276回の活動を行いました。臨床心理士を週1日、年間45日、教育センター分室に配置し、特に配慮を要する難しいケースについてより専門的な対応を行いました。スクールソーシャルワーカーが学校、家庭、福祉関連機関と連携し、157件のケースに対応しました。								
指標及び説明	【指標】学生が関わったことによって、何らかの形で学校復帰が図れている児童生徒の割合				【説明】スチューデントサポーターの学生が関わったことで、何らかの形で学校復帰が図れている児童生徒の割合				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	78.9	H27	H28	H29	H30	H31	H32	85.0
現状・課題	スチューデントサポーターの小中学校での活動や家庭訪問など、活動回数は270回を越え、学校復帰が図られている児童生徒の割合は昨年度と同様であり、ここ3年間の割合が平成26年度の現在値より下回っています。不登校児童生徒数が増加しており、また、スチューデントサポーターが対応したケースの中には引きこもりなど難しいケースもあるため、より一層対象児童生徒の状況に応じた活動を進めることが必要です。								
改善の方策等	スチューデントサポーターの配置について、関係の大学と連携し、大学生への事前研修や活動中の学生への指導の充実を一層図るとともに、対応するケースによって、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さらに教育センター分室(リバーラ)の教育相談との連携を深めていきます。								

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

施策の柱		(2) 生徒指導の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①いじめ防止対策の推進	教育指導課	B	B	B
	②不登校対策の推進	教育センター	B		
	③教育相談の充実	教育センター	A		
	④いきいき登校サポートプランの推進	教育センター	B		
学識経験者等意見	<p>・様々な視点から、いじめ問題の早期発見、早期解決に向けて取り組んでいただきたい。</p> <p>・川越市PTA連合会では平成29年度から「スマイルチャレンジ」事業を実施している。具体的には「子どもを愛し、たくさん褒めます。」、「家族一緒の時間を大切にします。」といった内容の8か条を定めて、保護者に周知したり、児童生徒を対象に笑顔あふれるポスターづくりを行ったりして、啓発活動に取り組んでいる。いじめの防止や不登校対策については、子どもたちの生活基盤である「家庭」が明るく健全であることが大切である。今後とも家庭と学校の連携を推進していただきたい。</p>				B

細 施 策	①学校保健活動の推進				担当課	担当課評価
					教育指導課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・家庭・地域との連携を図りながら、健康診断や学校環境衛生活動等の保健管理の徹底に努めます。</li> <li>・歯・口の健康づくりや食物アレルギー・アナフィラキシー対応、薬物乱用防止教育や性に関する指導等の保健教育を推進します。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境衛生検査を実施し、衛生的で安全な学習環境の把握に努めます。</li> <li>・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。</li> <li>・食物アレルギー・アナフィラキシーに対して適切な対応がとれるよう更なる定着を図ります。</li> </ul>					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における定期健康診断を実施しました。</li> <li>・学校環境衛生検査として、飲料水検査、プール水検査、学校環境衛生検査、ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物検査、砂場の細菌検査、ダニまたはダニアレルゲン量検査を実施しました。問題があった場合には、指導により改善を図りました。</li> <li>・歯・口の健康づくりや性に関する教育等は、学習指導要領に基づき適切に実施しました。</li> <li>・薬物乱用防止教育研修会を開催するとともに、全校で薬物乱用防止教室を実施し、保護者へも周知を図り、健全な心身の育成に向けた取組を行いました。</li> <li>・養護教諭研修会で食物アレルギー・アナフィラキシー発生時の緊急対応を含めた、食物アレルギーを持つ児童、生徒への取組について各学校の事例発表や情報交換を行い、更なる共通理解を図りました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	薬物乱用防止教室の実施校数(校)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)	全校実施 (小32 中22 高1 特1)		
	上記のうち、保護者参加の学校数(校)	—	24	25		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定された全ての検査を適切に実施し、問題があった場合は改善を指導し、再検査で状況を確認しています。</li> <li>・全校で児童、生徒の発達段階に応じた薬物乱用防止の指導を実施しています。</li> </ul>					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校環境衛生検査を実施し、衛生的で安全な学習環境の把握に努めます。</li> <li>・薬物乱用防止教育を更に充実させ、児童生徒の健全な心身の育成に取り組みます。</li> <li>・食物アレルギー・アナフィラキシーに対して適切な対応がとれるよう更なる定着を図ります。</li> <li>・保護者の参加については、全校で周知を図っていきます。</li> </ul>					

細 施 策	②食育の推進				担当課	担当課評価
					教育指導課・学校給食課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が生涯健康で充実した生活を送るために、食に関する指導の推進に努めます。</li> <li>・効果的に食に関する指導を推進するため、栄養教諭の指導体制の整備を推進するとともに、学校・家庭・地域への啓発、情報提供など、学校給食センターと連携した取組を目指します。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	小学校の早い段階から食の大切さを理解してもらうため、今後も計画的に食に関する指導を実施していきます。					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科や家庭科、体育科、総合的な学習の時間等において、食に関する指導を全校で実施する中で、食事の重要性や食文化について指導しました。</li> <li>・学校給食センターと学校給食課の栄養士が、全小学校の2年生を対象に、3大栄養素、ビタミン、ミネラルの働きやバランスのとれた食事の大切さ等について、食に関する指導を行いました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	食に関する指導の実施回数(回)	2,398	2,526	2,601		
	食に関する指導を実施した小学校数(全32校)	32	32	32		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校において食育における年間指導計画を踏まえた指導を行っており、順調に進捗しています。</li> <li>・児童がより理解しやすい授業になるよう、指導媒体を研究し改善を行う等しており、順調に進捗しています。</li> </ul>					
改善の方策等	小学校低学年段階から食の大切さを伝える授業を展開したり、学校給食との関連を図った授業を積極的に推進していきます。					

細 施 策	③体力向上の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒体力向上推進委員会により、児童生徒の発達段階に応じた体力向上策を推進します。</li> <li>・近隣大学との連携による「トップアスリートふれあい事業」等の実施を通して、児童生徒の体力向上の推進に取り組みます。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き小中連携した授業での指導の工夫・改善に取り組み、運動好きな児童生徒の育成や技能の向上を図っていきます。</li> <li>・児童生徒の体力向上に向けて、体力向上推進委員会において、今後も効果的な指導方法の研究を推進します。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上推進委員会では、小・中連携を図るために小学校に中学校の教諭を招き、運動好きな児童を育成する指導や児童の技能向上を図る指導の工夫・改善に取り組みました。また、アンケート調査で、本市児童生徒の生活習慣の実態を把握しました。</li> <li>・トップアスリートふれあい事業を小学校6校で実施し、延べ1,704名の児童が参加しました。</li> <li>・課題となっていた「ボール投げ」に関しては、小・中学校ともに若干ではありますが、記録が伸びている傾向にあります。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 新体力テスト総合評価におけるA～C評価の生徒の割合				【説明】 5段階評価で示される新体力テスト総合評価において上位3段階の評価(A・B・C)である生徒の割合				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	%	84.9	H27 84.4	H28 84.0	H29 83.6	H30	H31	H32	85.5
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テスト総合評価(5段階)の3段階以上の実績値の推移は、低下しています。課題となっていた「ボール投げ」の記録は男子は県平均値に達していました。</li> <li>・平成29年度の新体力テストの結果から、本市児童生徒の体力課題は、「握力」「立ち幅とび」「50m走」です。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き小中連携した授業を実施するとともに、授業や業前、業間運動などのより一層の工夫・改善に取り組み、運動好きな児童生徒の育成や技能の向上を図っていきます。</li> <li>・児童生徒の体力向上に向けて、体力向上推進委員会において、今後も効果的な指導方法の研究をさらに推進します。</li> </ul>								

細 施 策	④安全・防災教育の推進							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒、地域の実態に応じた安全教育を推進します。</li> <li>・児童生徒の安全確保のため通学路安全点検の実施、スクールガード・リーダーの配置等、地域及び関係機関等と連携を図り、安全・安心の取組を推進します。</li> <li>・地震や火災等を想定した避難訓練を各学校の年間行事に位置付け、児童生徒の防災意識を高め、自ら危険を回避する能力の育成を図ります。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車の乗り方による問題が多く、重大な事故につながるよう、交通安全指導を継続的にを行います。</li> <li>・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、通学路の危険個所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガード・リーダー養成講習会を実施しました。</li> <li>・各学校からの通学路改善要望をとりまとめ、防犯・交通安全課に提出しました。</li> <li>・青色回転灯パトロールカーによる市内の巡回を106回実施しました。</li> <li>・地震や火災等を想定した避難訓練を各学校で実施しました。</li> </ul>								
成果実績	項目名(単位)		H27	H28	H29				
	スクールガード・リーダーの平均年間活動回数(回)		—	197	196				
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・32名にスクールガード・リーダーを委嘱し、市立全小学校に配置しました。</li> <li>・スクールガード・リーダー養成講習会の実施時期と内容を改善し、より多くの方が参加できるようにするとともに、効果的な講習ができるようにしました。</li> <li>・関係課との連携により、通学路の整備が進められ、おおむね順調に進捗しています。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の交通事故の原因は、歩行時の飛び出しや自転車の乗り方による問題が多く、重大な事故につながるよう、交通安全指導を継続的にを行います。</li> <li>・学校からの要望書を受け、関係課と連携することで、通学路の危険個所の把握及び改善をより速やかに進めてまいります。</li> </ul>								

- 【方向性】 1 ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 2 豊かな心と健やかな体の育成

施策の柱		(3) 健康の保持増進と安全・体力向上の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校保健活動の推進	教育指導課	A	A	A
	②食育の推進	教育指導課 学校給食課	A		
	③体力向上の推進	教育指導課	B		
	④安全・防災教育の推進	教育指導課	B		
学識経験者等 意見	<p>・食生活はとても大切である。給食センターの栄養士が学校に来て低学年の子どもたちを対象に食に関する指導を行っていることは評価できる。今後も継続していただきたい。</p> <p>・トップアスリートふれあい事業は、一流の競技者とふれあうことで子どもたちの意欲が高まるので、今後も継続して市として取り組んでいただきたい。</p> <p>・広い校区内における登下校時の見守りを充実させるため、スクールガードリーダーを増員していただきたい。</p> <p>・学校や育成会、自治会を通じて行った通学路の改善要望に対して、関係機関から回答があった場合には、現場で活動しているスクールガードリーダーにも回答結果を周知していただきたい。</p>				A

細 施 策	①経験・職能別研修の充実 (平成29年度より、経験者・特定研修の充実として実施)				担当課	担当課評価
					教育センター	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経験段階に応じて職務遂行に必要な知識・技能等の習得を図る経験者研修の充実を図ります。</li> <li>・教職員の職務に応じた知識・技能等の習得を図る職能別研修の充実を図ります。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修体系と研修内容の見直しを行い、研修の充実を図っていきます。</li> <li>・教員のキャリアステージに応じた、教員のニーズも踏まえた研修を効果的・効率的に行っていきます。</li> </ul>					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施を見据え、研修体系を見直し、H28年度までの「職能別研修」と「重点研修」を精選、整理し、「特定研修」として実施しました。</li> <li>・1講座当たりの参加人数は、H28年度は48.9人、H29年度は58.5人で、9.6人増加しました。</li> <li>・各教職段階やキャリアステージ、各職務に応じた研修を計画的に実施し、教職員の資質向上を図りました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	講座数(回)	39	39	51		
	参加延べ人数(人)	1,746	1,907	2,981		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教職員が主体的に研修に参加し資質向上が図れるように、実技や演習を効果的に取り入れ、研修内容・研修方法の工夫を図りました。</li> <li>・経験者研修を中心に、さらにキャリアステージに応じた研修内容の工夫や指導力向上を図る研修の充実に向けていく必要があります。</li> </ul>					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の指標に基づき、よりキャリアステージに応じた経験者研修の充実を図っていきます。</li> <li>・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教員や学校のニーズに応える研修を効果的・効率的に行っていきます。</li> </ul>					

細 施 策	②管理職等研修の充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	B
施策の内容	教育に対する理念や識見を高め、管理職としてのリーダーシップを発揮できるよう管理職等研修の充実を図ります。					
前年度の改善の方策等	人事評価研修では、事例研修や演習を取り入れるなど、日々の学校運営や実務に生かせるような研修内容の改善を図ります。また、学校の組織力をさらに向上させていくために、校長を助け補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図ります。					
平成29年度実績	校長、教頭を対象とした事例研修や苦情対応の演習を取り入れた研修を実施しました。(校長研修会、教頭研修会、一人一人を大切に、信頼関係に立つ教育推進教頭研修会、生きる力をはぐくむ校種間連携教育研修会等。)また、評価結果が昇給や勤勉手当に反映されることを踏まえた、人事評価制度研修会や教職員の在校時間記録システムに係る研修会を実施しました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	研修会の実施回数(回)	23	26	26		
現状・課題	研修会に加え、学校訪問や人事評価におけるヒヤリング等において、各学校の管理職が、学校経営・学校運営に関する理解を深め、地域社会から信頼される学校づくりを目指し、リーダーシップを発揮している様子を確認することができ、おおむね順調に進捗しています。平成28年度より、人事評価の評価結果を昇給や勤勉手当に反映していることから、人事評価の評価者としてのスキルを上げるための研修を充実させてきました。今後は個別の事案に対応するための事例研究等に取り組んでいく必要があります。					
改善の方策等	人事評価研修では、導入から3年が経過したことから、より具体的な事例研修や演習を取り入れるなど、日々の学校運営や実務に生かせるような研修内容の改善を図ります。また、学校の組織力をさらに向上させていくために、校長を助け補佐する教頭や主幹教諭を対象とした研修会の充実を図ります。					

細 施 策	③奨励研修の充実 (平成29年度より、専門研修の充実として実施)							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施 策 の 内 容	教職員の資質向上を図るために、教職員自らが希望して参加できる奨励研修の充実を図ります。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市教職員のより一層の資質・能力の向上のため、研修体系の整備を図り、研修内容・研修方法の工夫改善に向けた見直しを進めていきます。</li> <li>・特に「カリキュラム・マネジメント」や「アクティブ・ラーニング」の視点から研修内容・研修方法の充実を図っていきます。</li> </ul>								
平 成 2 9 年 度 実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体系の整備を行い、H28年度の「奨励研修」を「専門研修」と改めて実施した。</li> <li>・新学習指導要領を見据えた研修内容を加えるとともに、精選も図り、教員や学校のニーズに対応する研修会となるよう整理しました。研修数は40から27に整理しました。</li> <li>・平成29年度専門研修に参加した教員の人数は、延べ861人でした。</li> <li>・市全体の教員1,384名に対し、専門研修に参加した教員が569名(41.1%)でした。</li> <li>・文科省や大学教授等の各分野における第一線の講師陣を迎え、新学習指導要領に対応する学習・指導方法等、より専門性の高い研修会を実施しました。</li> </ul>								
指 標 及 び 説 明	【指標】 専門研修(奨励研修)参加率				【説明】 市全体の教員の中で、希望による専門研修(奨励研修)に参加した教員の割合				
指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値						目 標 値 (H32)
	%	48.0	H27 47.9	H28 50.5	H29 41.1	H30	H31	H32	55.0
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門研修の数は昨年度より13減りましたが、参加した教員の延べ人数は、昨年度の904人から、43人の減少でとどまりました。しかし、同一の教員が複数回研修に参加しているため、市全体の教員数の割合での実績値は昨年度より大きく下がっています。</li> <li>・今後の課題として、キャリアステージに応じて求められる専門性の育成と合わせて、教員のニーズに応える研修内容の充実を図っていくことが必要です。</li> </ul>								
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の種類、内容について、さらに各学校に周知を図ります。</li> <li>・新学習指導要領の内容に即し、キャリアステージに応じた研修内容の充実、研修方法の工夫を図ります。</li> <li>・教員の研修への期待に応える講師の招聘を行い、研修内容の充実を図ります。</li> </ul>								

細 施 策	④若手・中堅教員の育成							担当課	担当課評価
								学校管理課・教育センター	B
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手・中堅教員の教育に対する識見を高め、資質・能力の向上を図ることを通して、学校運営の推進者となる人材を育成していきます。</li> <li>・教育フェスタKAWAGOEにおいて、優れた授業実践や研究の成果を広く発信し、一人ひとりの教員の学ぶ場を提供します。</li> </ul>								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	平成29年度も、5月下旬の開講式及び第1回研修会を皮切りに1月までに9回実施する予定になっています。充実した研修内容を各校に周知しながら、積極的に参加者を推薦するよう促していきます。また、研修内容を多様化し、継続して研修することで、スキルアップを図れるようにしていきます。								
平 成 2 9 年 度 実 績	かわごえミドルリーダー研修については、平成29年度は20名の参加がありました。研修生は、年間9回の研修をとおして、ミドルリーダーとして、ベテランや若手教員とコミュニケーションをとりながら、学校運営に積極的に参画しようとする意識が高まりました。また、研修生同士が同じ中堅教員として課題を共有し、自校の課題解決に向けて取り組むなど実践的な研修を展開することができました。								
成 果 実 績	項目名(単位)		H27	H28	H29				
	かわごえミドルリーダー研修 参加教員数(人)		35	24	20				
現 状 ・ 課 題	平成27年度からの新規事業で、29年度は3年目の実施となります。研修をとおして、参加者の学校運営への参画意識を高めるとともに、学校教育に対する視野を広げることができました。さらに、管理職選考の受考年齢に達した者のうち、今年度までに、3割程度の研修生が管理職選考を受考するなど、学校運営に積極的に参画しようとする人材が育ち、おおむね順調に進捗しています。しかし、研修への参加者が減少傾向にあるため、各校の校長を通して、参加を促していくことが課題となっています。								
改 善 の 方 策 等	平成30年度も、5月下旬の開講式を皮切りに、1月まで計9回の研修を実施する予定となっています。今年度は新たに中堅教諭等資質向上研修と合同研修を行うなど研修内容を充実させて、研修生のスキルアップを図れるようにしていきます。また、研修について各校に周知し、積極的に参加者を推薦するよう促していきます。								

細 施 策	⑤大学等進学指導力向上研修の推進							担当課	担当課評価
								学校管理課・市立川越高等学校	B
施 策 の 内 容	市立高等学校の教員を大学進学予備校や民間教育機関の研修等に派遣し、学習指導力の向上を図るとともに、その成果を校内に普及させる大学等進学指導力向上研修の推進を図ります。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	市立高等学校の進学率の向上とともに、参加教員数の増加を積極的に図るよう取り組んでまいります。								
平 成 2 9 年 度 績 実	平成29年度は、英語科教諭が予備校における教員研修プログラムに参加予定でしたが、人気の研修プログラムであり、希望者が多く抽選となっしまい、抽選漏れとなり、参加が叶わなくなりました。平成30年度は、複数の教科の参加を促しております。								
指 標 及 び 説 明	【指標】 研修参加教員数				【説明】 大学等進学指導力向上研修に参加する教員の延べ人数				
	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
指 標 の 推 移	人	25	H27 29	H28 30	H29 30	H30	H31	H32	49
現 状 ・ 課 題	研修に参加した教員数、割合は増加し、おおむね順調に進捗しておりますが、ここ数年、参加教科に偏りがあります。これは、大学進学向上を目的とする事業のため、大学受験に関係する5教科(国・数・理・社・英)の教員が参加するため、商業科の教員が多い市立川越高校としては、職員100%が研修に参加することが出来てはいない状況であります。								
改 善 の 方 策 等	大学等進学指導力向上の「等」を発展的に解釈し、商業科の教員に対し、資格取得の指導力向上のため専門学校での研修も図ってまいります。								

施 策 の 柱	(1)教職員の資質向上				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①経験・職能別研修の充実	教育センター	A	B	
	②管理職等研修の充実	学校管理課	B		
	③奨励研修の充実	教育センター	B		
	④若手・中堅教員の育成	学校管理課 教育センター	B		
⑤大学等進学指導力向上研修の推進	学校管理課 市立川越高等学校	B			
学 識 経 験 者 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも重要な施策であるので、今後さらに充実をさせていただきたい。</li> <li>・昨今、大学の教員に対しても教育力の向上、アクティブラーニングを活用した授業の実施ということが言われている。一方で学生の考え方は多様化してきている。学生一人ひとりに対応できるような教育力を身につけなければならないというのは小学校から大学まですべてに共通する課題である。ここでは教職員の課題として論じられているが、もっと大きな課題として捉えたほうがよいと考える。</li> <li>・教員研修プログラムの参加については希望者の意欲を尊重し、なるべく参加希望を叶えられるように検討していただきたい。</li> </ul>				B



細 施 策	①大規模改造工事等学校施設の整備の推進							担当課	担当課評価
								教育財務課	C
施策の内容	学校施設設備の老朽化した部分等の緊急性や必要性などを検討し、建物の耐久性の向上を図るため、大規模改造工事、トイレ改修工事等計画的な施設・設備の整備を進めていきます。								
前年度の改善の方策等	国庫補助の交付の見込みが薄くなってきているため、工事内容の見直し等を図り、目標水準を維持できるようにします。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改造工事を実施(小学校1校、中学校1校)</li> <li>・トイレ改修工事を実施(中学校2校)</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 大規模改造工事の推進				【説明】 市立小・中学校の大規模改造工事の実施割合				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	59.8	H27 61.4	H28 62.9	H29 64.6	H30	H31	H32	81.0
現状・課題	目標値まで達成を見込むには、平成29年度については、一層の計画推進を図る必要がありましたが、普通教室への空調設備の設置を重点的に実施したため、大規模改造工事を十分に実施することができませんでした。								
改善の方策等	国庫補助等の財源確保に努め、今後も目標水準を維持できるよう努めます。								

細 施 策	②普通教室への空調設備の設置							担当課	担当課評価
								教育財務課	A
施策の内容	児童生徒が集中して学習できる教育環境を整備するため、小・中学校の普通教室への空調設備の設置を計画的に進めていきます。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校について、平成29年度に15校の工事及び14校の実施設計を行い、平成30年度までに全ての普通教室に空調設備を設置できるようにします。</li> <li>・中学校について、平成29年度に基礎調査を行い、早期に全ての普通教室に空調設備を設置できるようにします。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通教室等に空調設備を設置(小学校15校)</li> <li>・普通教室等に空調設備を設置するために必要な実施設計業務委託を実施(小学校14校)</li> <li>・普通教室等に空調設備を設置するために必要な基礎調査業務委託を実施(中学校22校)</li> </ul>								
成果実績	項目名(単位)		H27	H28	H29				
	小学校普通教室空調設備設置校数(目標値32)		—	3	15				
	中学校普通教室空調設備設置校数(目標値22)		—	0	0				
現状・課題	小学校15校の普通教室に空調設備を設置し、14校の実施設計を完了したことや、中学校22校の基礎調査を実施したため、順調に進捗しています。								
改善の方策等	平成30年度中に小学校14校と中学校22校の工事を行い、全ての普通教室に空調設備を設置できるようにします。								

細 施 策	③学校図書館の充実							担当課	担当課評価
								教育指導課	B
施 策 の 内 容	学校の教育活動の中で、学校図書館の活用が図れるよう、児童生徒の実情に応じた図書を計画的に購入し、蔵書の充実に努めます。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替えにより、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。								
平 成 2 9 年 度 績 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校に適切に予算を配当し、計画的に図書を購入しました。</li> <li>調べ学習や発展的な学習に活用できる本や児童生徒が興味・関心を寄せている本を計画的に購入し、学校図書館の環境整備を図りました。</li> </ul>								
指 標 及 び 説 明	【指標】 小学校における学校図書館図書標準の達成率				【説明】 各市立小学校における学校図書館図書標準の平均の達成率				
指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値					目 標 値 (H32)	
	%	83.3	H27	H28	H29	H30	H31	H32	92.4
現 状 ・ 課 題	図書の計画的な購入により、図書標準の達成率は年々向上しており、おおむね順調に進捗しています。								
改 善 の 方 策 等	計画的な図書の購入と適切な蔵書の入替えにより、蔵書の量的確保とともに質的向上が図れるよう整備を進めます。								

細 施 策	④教育機会均等化のための支援				担当課	担当課評価
					教育総務課・教育財務課	A
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助を行うため、就学援助制度を推進します。</li> <li>経済的な理由により高等学校等の学校へ進学することが困難な方に育英資金の貸付を行います。</li> </ul>					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度入学者から新入学児童生徒学用品費等を早期支給します。</li> <li>育英資金の入学準備金の貸付時期について、現在より早期に実施できるよう検討を進めます。</li> </ul>					
平 成 2 9 年 度 績 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度入学者に新入学児童生徒学用品費等の早期支給を実施しました。平成29年度も4,000人を超える児童生徒が就学援助制度を利用することができました。</li> <li>育英資金の新規貸付については、世帯の所得状況等を考慮し、入学準備金を25人に、学資金を33人に、それぞれ決定することができました。</li> <li>育英資金の入学準備金を、平成29年度より3月中に順次貸付を行うことができました。</li> <li>平成29年度に寄附金を原資とする給付型大学奨学金制度を創設し、5人に給付(入学準備金及び学資金)しました。</li> </ul>					
成 果 実 績	項 目 名 (単 位)	H27	H28	H29		
	就学援助認定者数(小学校)	2,720	2,807	2,883		
	就学援助認定者数(中学校)	1,643	1,666	1,697		
	入学準備金(新規)貸付決定率(%)	81.58%	90.60%	78.13%		
	学資金(新規)貸付決定率(%)	78.72%	85.10%	82.50%		
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学援助の認定者数はおおむね横ばいです。</li> <li>育英資金の貸付者は、前年度と比べ、入学準備金については4名、学資金については7名減少しました。</li> </ul>					
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も引き続き就学援助を必要とする方が利用しやすいよう制度の充実に努めます。</li> <li>育英資金貸付制度が経済的困難を抱えている方を支援できるよう適正運用します。</li> </ul>					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(2) 学習環境の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①大規模改造工事等学校施設の整備の推進	教育財務課	C	B	B
	②普通教室への空調設備の設置	教育財務課	A		
	③学校図書館の充実	教育指導課	B		
	④教育機会均等化のための支援	教育総務課 教育財務課	A		
学識経験者等意見	<p>・平成30年度中に全市立小中学校普通教室への空調設備の設置が完了することに伴い、夏休み期間が短くなる可能性も今後考えられる。学力向上という点からは、授業時間を増やしたほうがよいという意見もあると思うが、教職員のさらなる負担増となる可能性もあり、バランスをとることが難しいと感じている。</p> <p>・学校教育における図書の重要性に鑑み、さらなる学校図書館の充実を図っていただきたい。</p>				B

細 施 策	①給食内容の充実							担当課	担当課評価
								学校給食課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心でおいしい給食を提供するとともに、栄養のバランスが取れた給食を提供し、児童生徒の健康の増進や体力の向上を目指します。</li> <li>学校給食で使用する食材の安全確保に努めるとともに、地場産物の使用拡大に努めます。</li> <li>アレルギー対応食が安全で確実に提供できるよう実施体制の整備を図ります。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れていきます。</li> <li>食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。</li> <li>食物アレルギー対応の実施について、学校や保護者への周知・説明を行っていきます。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食における摂取基準に基づき、学校給食を小学校・中学校で189回実施しました。</li> <li>農産物等の産地証明、残留農薬証明書等を求め、給食材料の安全性を確保しました。</li> <li>地産地消の考えから、川越産の主食米約245t、野菜91t(17品目)を使用しました。</li> <li>食材について、毎日3品目程度と給食1食分の放射性物質検査を実施しました。</li> <li>食物アレルギー対応食の実施体制を整備し、学校や保護者への周知・説明を行いました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 学校給食における地場産物の使用割合				【説明】 学校給食で使用する野菜のうち、地場産野菜の使用割合(重量比)				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	%	8.1	H27 22.9	H28 18.5	H29 21.4	H30	H31	H32	22.0
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場産野菜の使用については、天候等により左右されます。平成29年度は、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>米飯については、継続して川越産米を100%使用しています。</li> <li>平成30年度から食物アレルギー対応食を提供します。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も地場産農産物の利用を増やしていくため、地場産物を生かした献立や、収穫期に合わせた献立等、地場産物を積極的に取り入れていきます。</li> <li>食材の安全性確保のため、引き続き放射性物質の検査を実施していきます。</li> </ul>								

細 施 策	②学校給食施設の整備				担当課	担当課評価
					学校給食課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅間第二学校給食センターの整備運営事業については、PFIの手法により推進していきます。</li> <li>今成学校給食センターと菅間学校給食センターは、施設の改修と設備の修繕等を計画的に推進していきます。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	引き続き計画どおり順調に進捗するよう努めます。					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度に契約した(仮称)川越市新学校給食センター整備運営事業については、7月に建設工事が完了、8月に施設の引渡、9月に運営開始しました。</li> <li>菅間及び今成学校給食センターの設備改修を行いました。(菅間:計画3件・突発48件、今成:計画5件・突発38件)</li> <li>旧藤間学校給食センターの解体工事を行いました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	改修工事	排水圧送管布設工事 設計業務委託(菅間)	排水圧送管布設工事 (菅間)	—		
現状・課題	排水貯留槽等設置工 事設計業務委託(菅間)					
	菅間第二学校給食センターの整備運営事業、菅間・今成学校給食センターの改修及び旧藤間学校給食センター跡地の原状回復関係は、計画どおり順調に進捗しています。					
改善の方策等	引き続き計画どおり順調に進捗するよう努めます。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(3) 学校給食の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①給食内容の充実	学校給食課	A	A	A
	②学校給食施設の整備	学校給食課	A		
学識経験者等 意見	なし				

細 施 策	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進				担当課	担当課評価
					学校管理課・市立川越高等学校	B
施策の内容	川越市立川越高等学校教育審議会からの意見を踏まえ、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校の在り方について検討するとともに、市民の負託に応える魅力ある市立高等学校づくりを推進します。					
前年度の改善の方策等	平成27年度に開催された川越市立川越高等学校教育審議会の答申を踏まえ、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校づくりに資するため、継続的に将来構想について検討し、平成28年度に「川越市立川越高等学校長期的ビジョン」に係る学校における検討(報告)を受け、平成29年度には最終「長期的ビジョン」の原案策定を固めていきます。					
平成29年度実績	各学科とも35人の少人数学級編制を実施しております。平成24年度から実施されている地域特別選抜入試も継続されております。 中高連携では、昨年度より1校を加え、4校(城南、野田、初雁、鯨井中学校)との校種間連携を実施し、4校の生徒が本校を訪れ、本校の教育概要について理解を深めてもらいました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	全商検定3種目以上1級合格者数(人)	48	54	39		
	進路決定率(%) (大学及び専門学校進学者・就職者/卒業生)	95.0	92.3	97.9		
現状・課題	商業系(情報処理科・国際経済科)の生徒の全商検定や日商検定の取得者は減少しましたが、県内の商業科高校の中では上位の取得者数となっています。 普通科の生徒は、年々、大学・短大などの上級学校に進学する率が高まっています。 しかしながら、課題は市立川越高校「長期的ビジョン」が固まらず、県内他市の市立高校と比較して改革が進んでいない状況にあることです。					
改善の方策等	100周年に向けて「川越市立川越高等学校長期的ビジョン」に係る方向性を、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校づくりに資するため、教育委員会事務局で固め、関係各部署と協議し、計画的に行っていく必要があります。					

細 施 策	②市立川越高等学校教育環境の整備・充実				担当課	担当課評価
					市立川越高等学校	B
施策の内容	よりよい教育環境を整え、教育効果を高めるため、大規模改修の工事や施設設備の更新等、計画的に推進します。					
前年度の改善の方策等	教育環境の維持・向上を図るため、第四次川越市総合計画実施計画に位置付け、計画的に施設・設備の改修、修繕を行ってまいります。					
平成29年度実績	・第2簿記実習室及び準備室の空調設備改修工事を行いました。 ・突発的なものも含め49件の修繕を行いました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	施設・設備改修工事	保健室空調設備改修工事	LL教室空調設備改修工事	第2簿記実習室等空調設備改修工事		
	施設・設備修繕件数(件)	44	47	49		
現状・課題	・建築後、20年以上経過しているため、予定外の修繕が多く、機能を維持するために、応急的な修繕で対応しています。 ・施設、設備の老朽化が進んでいるため、関係課と協議し、大規模改修等の計画を策定し、計画的な改修等を行っていく必要があります。					
改善の方策等	教育環境の維持・向上を図るため、大規模改修計画を策定し、第四次川越市総合計画実施計画に位置付け、計画的に施設・設備の改修、修繕を行ってまいります。					

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(4)市立川越高等学校の改革・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①市立川越高等学校将来構想の検討と推進	学校管理課 市立川越高等学校	B	B	B
	②市立川越高等学校教育環境の整備・充実	市立川越高等学校	B		
学識経験者等 意見等	・「長期的ビジョン」の策定にあたっては、商業系学科を一つの特色と位置づけて検討していただきたい。				

細 施 策	①教育センターの整備・開放の充実				担当課	担当課評価
					教育センター	B
施策の内容	教育センターの機能を充実させるため、教職員研修体制の整備を図るとともに、地域住民も活用できる施設となるよう推進します。					
前年度の改善の方策等	体育館を利用する市民の要望に応え、修理等の事案については、業者等の選定も含めて早急に対応し利用しやすい施設としての環境を整備していきます。					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は、屋上防水修繕工事を行いました。</li> <li>施設の無料貸し出しについて、市民に広く周知され、施設利用者の延べ人数も2万5千人を超えました。</li> <li>1階施設、体育館は、9時15分から20時45分まで市民に貸し出しを行いました。グラウンドは、地域のサッカー団体に土・日曜日に貸し出しを行いました。1階施設は、主に昼間に多く利用されていました。また、体育館は、土・日曜日の昼間と夜間に利用される団体が多かったです。</li> <li>休日や夜間の貸し出しについては、管理業務を川越市シルバー人材センターに委託し、市民が施設を安全に活用できる環境づくりを行いました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	1階施設利用者数(人)	10,434	11,891	10,159		
	体育館及びグラウンドの利用回数と人数(回/人)	667/19,380	644/21,989	599/16,358		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>1階研修室の出入り口の鍵や体育館に設置されている設備等、修繕の必要な箇所が増えてきています。無料で貸し出しを行っているため、修繕費は市で負担することになっています。</li> <li>3月、4月は、市内各校の体育館が卒業式、入学式で使用することができなくなるために利用団体が集中します。</li> </ul>					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備等を丁寧に、かつ安全に使用していただくことを周知していきます。</li> <li>修繕等の事案については、研修室や体育館を利用する市民の要望を聞いたり、川越市シルバー人材センターとの連絡を密に取ったりして、利用しやすい施設として整備していきます。</li> <li>3月、4月は、申込順ではなく、職員が調整して利用することができるようにしていきます。キャンセルは、前の月の20日までに連絡していただくよう、予約をした際に周知していきます。</li> </ul>					

細 施 策	②保護者・地域との連携研修の充実							担当課	担当課評価
								教育センター	B
施策の内容	不登校や情報モラルの諸問題など、今日的な教育課題解決のために、学校や家庭・地域と連携した研修の充実を図ります。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会の周知方法の工夫を図り、保護者の参加者の増加に努めます。</li> <li>講演会では、情報モラル教育に関わる内容等、子どもの生活状況に密接した課題を扱い、実生活に生かせる必要感ある研修内容になるよう努めます。</li> </ul>								
平成29年度実績	「家庭・地域連携 保護者とともに考える研修会」において「情報モラル教育の進め方」の研修を行い、保護者と教職員が同じ問題意識をもって考えることができました。スマートフォンだけではなく、ゲーム機の通信機能などもSNS同様のリスクがあること、機器を与える際のルール作りなどを他地域の教職員・保護者同士で話し合うことで、問題について多面的に考えを深めることができました。								
指標及び説明	【指標】 保護者・地域との連携研修参加者数				【説明】 保護者とともに考える研修会への保護者の参加者数				
	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
指標の推移	人	103	H27 107	H28 99	H29 89	H30	H31	H32	120
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の出席者の多くはPTA役員です。各学校の各家庭に周知する意識をもてるように、各校の情報担当者と連携を図りながら働きかけていきます。</li> <li>研修会の進め方についても工夫・改善の声が出ています。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会の周知方法の工夫を図り、保護者の参加者の増加に努めます。</li> <li>研修の主題である「保護者とともに考える」という部分を明確にし、教職員と保護者・地域が問題を共有できるようにするため、話し合いが広がり・深まるグループでのディスカッションができるよう努めます。</li> </ul>								



【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(5) 教育センターの充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①教育センターの整備・開放の充実	教育センター	B	B	B
	②保護者・地域との連携研修の充実	教育センター	B		
学識経験者等 学意 見	なし				

細 施 策	①学校評議員制度の充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	A
施策の内容	地域に開かれた特色ある学校づくりを推進していくため、学校や地域の実情等に応じて学校評議員会を設置します。このことにより、保護者や地域住民等の意向を反映するとともに、学校の教育活動等を周知し、学校運営の充実を図ります。					
前年度の改善の方策等	各学校で教育活動等について計画的に自己評価を行い、その結果を公表するとともに、多様な意見を幅広く広め、学校経営に生かすために積極的な情報提供を行っていきます。					
平成29年度実績	各学校の現状や課題に即して、学校評議員会議が実施され、その中で積極的な意見交換のもと、活発な話し合いが行われています。特に、各学校の学校評価においては、学校評議員が学校関係者評価の評価者である割合が大きく、開かれた学校づくりに寄与していると考えられます。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	学校評議員が学校関係者評価の評価者になっている学校	56/56	56/56	56/56		
	学校評価の公表率	56/56	56/56	56/56		
現状・課題	すべての市立学校で、ほとんどの学校評議員が学校関係者における評価者になっており、学校経営に関わる情報の共有化が図られています。学校は、保護者や地域住民等の意見を把握し、それらを反映するだけでなく、学校運営の状況等を周知するなど、順調に進捗しています。					
改善の方策等	各学校における教育活動について、計画的に自己評価・学校評議員による学校関係者評価を行い、その結果を学校だよりや、保護者会等で公表する機会を増やしていきます。また、学校評価の結果を幅広く広めることで、地域や保護者の多様な意見を、学校経営に生かしていきます。					

細 施 策	②地域人材活用事業の充実				担当課	担当課評価
					学校管理課	A
施策の内容	小・中・特別支援学校が特色ある学校づくりを推進していくため、多様な体験活動が展開できるように関係団体や地域の方々と連携し、各校の学校教育活動の一層の充実を図ります。また、小学校における外国語活動の充実のため指導体制の強化に努めていきます。					
前年度の改善の方策等	今後も、学校からの計画に基づき、地域人材の活用に応えることによって、更に各校の特色ある教育活動の充実を図ります。					
平成29年度実績	市立小中学校47校が、トータルで332回、団体と個人合わせて610人の地域人材の方々から、それぞれの学校において必要な支援をいただきました。児童生徒は、地域人材との交流によって、豊かな体験を得るばかりでなく、表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことができました。年度当初予定回数275回に対して121%の実績で、十分に活用が図れました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	活用回数	391	308	332		
現状・課題	各学校からは、地域人材活用に対する期待が高く、活用回数を増やしたい意向です。平成29年度も、学校の実態や活用状況に応じて適宜、活用の追加承認を行い、年度当初の予定回数を上回る事業を実施しています。					
改善の方策等	今後も、学校からの計画に基づき、地域人材の活用に応えることによって、更に各校の特色ある教育活動の充実を図ります。					

細 施 策	③日本語指導ボランティアの充実			担当課	担当課評価
				学校管理課	A
施策の内容	各学校に在籍する外国籍等の児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、日本語指導ボランティアの派遣を推進し、日本語指導、学校生活への適応指導の支援など、日本語指導ボランティアの充実を図ります。				
前年度の改善の方策等	今後、日本語指導を必要とする外国籍等の児童生徒が増え、またその母国語の多様化によって、日本語指導ボランティアに求められる言語も多様化していくことが予想されます。これらのことに対応できるよう、効率的な派遣方法や人材確保のため、関係機関との連携を図っていきます。				
平成29年度実績	平成29年度は、市立小中学校に在籍する外国籍等の児童・生徒で、日本語指導ボランティアの申請があった58人中、49人に対してボランティア43人を週1～2回派遣しました。派遣回数は延べ925回でした。				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	申請受付数(人)	46	70	58	
	日本語指導ボランティア派遣	42	63	55	
現状・課題	ここ数年の状況を見ますと、日本語指導を要する児童・生徒の数は増加傾向にあります。特に中国語圏、タガログ語圏からの編入学が増えています。その中で、両親、本人とも全く日本語を話すことができないまま来日するケースも目立ってきています。中国語をはじめ、英語以外の言語に対応できる日本語指導ボランティアが不足していることが課題です。				
改善の方策等	今後、日本語指導を必要とする外国籍等の児童生徒が増え、また、その母国語の多様化によって、日本語指導ボランティアに求められる言語も多様化しています。これらのことに対応できるよう、効率的な派遣方法や人材確保のため、ホームページでのボランティア募集を行うとともに、クラッセとの連携も図っていきます。				

細 施 策	④学校評価の活用			担当課	担当課評価
				学校管理課	B
施策の内容	PDCAサイクルによる学校の自己評価、外部アンケート等の実施、学校関係者評価などを通して、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と充実を図るとともに、地域に開かれた特色ある学校づくりを目指します。				
前年度の改善の方策等	学校評価評価項目を、学校の実態に合わせたものにするために、関係者との連携を更に進め、学校運営の改善に資する学校評価を実現できるよう努めていきます。				
平成29年度実績	各学校が自己評価のために、学校評価委員会を組織し、学校関係者評価委員による授業参観、学校観察等を行いました。また、全教職員による自己評価、保護者等へのアンケートも実施しました。自己評価により、学校の課題や改善点を整理し、学校運営を改善することができました。				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	学校評価で評価が向上した項目数※算出方法の変更	46	6	241	
	学校評価で評価Aの割合(%)	58.8	58.6	48.3	
現状・課題	各学校が、学校関係者に学校自己評価の評価理由及び改善策を提示し、年度末に学校評価委員会を実施し意見を伺っています。PDCAサイクルによる学校運営がおおむね順調に進捗しています。※28年度までは項目(15項目)ごとに市内全校分を集計したものを前年度と比較し、向上した項目数。29年度は各学校の全ての項目を比較し、向上している項目数を計上。				
改善の方策等	学校課題の即した重点目標を達成するための評価項目の設定に向け、関係者との連携を更に進めます。そして、学校運営の改善に資する学校評価を実現できるよう努めていきます。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進  
 【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施策の柱		(6) 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学校評議員制度の充実	学校管理課	A	A	A
	②地域人材活用事業の充実	学校管理課	A		
	③日本語指導ボランティアの充実	学校管理課	A		
	④学校評価の活用	学校管理課	B		
学識経験者等 学意見	なし				A

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

【施策の柱】 (7)小・中学校の適正規模・適正配置

細 施 策	①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討			担当課	担当課評価
				学校管理課	B
施 策 の 内 容	今後、全市的には、児童生徒数の減少が見込まれる中で、地域的な状況も加味しつつ子どもたちにとってよりよい教育環境を整備するため、川越市立小・中学校の適正規模・適正配置等に係る考え方を検討していきます。				
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	平成27年1月に文部科学省が発出した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」等を参考にしつつ、「川越市公共施設等総合管理計画」との整合も考慮しながら、「川越市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けて」に、小中一貫化等必要な記述を加筆、修正するなどの形で、本市としての小・中学校適正規模・適正配置基本方針を策定するため、市長部局の関係各課の協力を求め、検討を進めてまいります。				
平 成 2 9 年 度 績 実	平成27年1月に文部科学省が発出した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」等を参考にしつつ、「川越市公共施設等総合管理計画」との整合も考慮しながら、「今後の川越市立小中学校の在り方に関する検討委員会」において協議しました。そして平成29年度末、「川越市立小・中学校における適正規模・適正配置及び検討の方針」を策定しました。今後は、将来的な見通しをもちながら、各校における個別な検討、対応をはかりつつ、市長部局の関係各課の協力を求め、検討を進めます。				
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	小中学校の在り方検討委員会の開催回数	2	2	2	
	検討内容	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針等	
現 状 ・ 課 題	川越市立小・中学校における適正規模・適正配置及び検討の方針を踏まえ、児童生徒数の推移を注視しながら、地域社会との関わり等も考慮することにより、その実行可能性について協議していくことが必要です。平成28年6月に示された「川越市公共施設等総合管理計画」や、本市の現状等との整合も考慮する必要があることなどにより、関係各課を交えて検討するには至りませんでした。なおおむね順調に進捗しています。				
改 善 の 方 策 等	児童生徒のより良い教育環境を構築するために、関係各課と緊密な連携を図りながら協議、検討をさらに進めます。併せて、対象となる学校が候補に挙がった場合に、保護者や地域住民、学校関係者の意見等を十分に調査しながら相互理解を深められるように協議、検討を進めます。				

【方向性】 I ー生きる力を育む学校教育の推進

【施策】 3 質の高い教育を支える教育環境の充実

施 策 の 柱	(7)小・中学校の適正規模・適正配置				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①小・中学校の適正規模・適正配置等の検討	学校管理課	B	B	B
学 識 経 験 者 等 の 意 見	・最終的に市としてどのような優先順位で公共施設のマネジメントを進めていくのかということになるが、将来の川越を支える子どもたちのために何ができるのかということを考えながら、適正なマネジメントの方策を練っていただきたい。				

細 施 策	①家庭教育の支援			担当課	担当課評価
				地域教育支援課	A
施 策 の 内 容	・乳幼児の親や小・中学校、高等学校の保護者を対象に、子どもの成長・発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会を提供します。 ・身近な地域や学校をはじめとする豊かなつながりの中で家庭教育が行われるよう、指導者の養成に努めます。				
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	今後も引き続き、市内保育園や幼稚園に充実した内容の家庭教育講座を提供し、家庭の教育力の向上を図ります。 また、家庭教育講座講師に対して研修会を行い、資質の向上を図ります。				
平 成 2 9 年 度 績 実	・PTA家庭教育学級委託事業:54校(延べ事業数236回、延べ参加者数7,351人) ・家庭教育学級運営講座:1回(参加者数:106人) ・保育園家庭教育講座:15回(参加者数:332人) ・幼稚園家庭教育講座:8回(参加者数:265人) ・高等学校家庭教育講座:1回(参加者数:140人) ・親の学習講座:23回(参加者数2,066人) ・家庭教育講座登録講師研修会:1回(参加者数:13人)				
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	幼保高家庭教育講座(回)	25	23	24	
	PTA家庭教育学級委託数(校)	54	54	54	
現 状 ・ 課 題	PTA家庭教育学級については、全54校に委託し、各PTAごとに特色ある家庭教育学級を実施し、家庭の教育力の向上が図れました。また、保育園・幼稚園・高等学校家庭教育講座については、公立保育園・私立幼稚園、高等学校で計24回実施し、順調に進捗しています。				
改 善 の 方 策 等	今後も引き続き、市内保育園や幼稚園に充実した内容の家庭教育講座を提供し、家庭の教育力の向上を図ります。 また、家庭教育講座講師に対して研修会を行い、資質の向上を図ります。				

細 施 策	②学童保育の充実			担当課	担当課評価
				教育財務課	B
施 策 の 内 容	・保護者の就労等により家庭が常時留守になっている児童を対象に、放課後及び休日等の居場所を確保するとともに、児童の健全育成を図ります。 ・学童保育室の整備、改修等を行い、保育環境の改善を図ります。 ・放課後児童支援員(学童保育指導員)の確保と資質の向上に努めます。				
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	・狭隘化した学童保育室については、第四次川越市総合計画実施計画に位置付け、増築、余裕教室の転用等を図ってまいります。 ・指導員の確保については引き続き募集してまいります。				
平 成 2 9 年 度 績 実	・年度当初の学童保育室を利用する児童数は2,617人でした。(全児童に占める割合は14.6%、入室を待機している児童はいない) ・南古谷学童保育室他2室の改築、改修工事を行い、狭隘化対応として川越第一学童保育室他6室の増室を行いました。 ・放課後児童支援員認定資格研修に学童保育指導員45名を受講させました。				
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	年度当初の入室児童数(人)	2,166	2,338	2,617	
	学童保育室施設設備等の工事、修繕数(件)	118	124	140	
	放課後児童支援員認定資格研修受講者数(人)	32	40	45	
現 状 ・ 課 題	年度当初の入室児童数は増加していますが、余裕教室の転用等を行い、申請があった入室要件を満たした児童をすべて受け入れており、児童の放課後等の居場所確保を図ることができました。また、放課後児童支援員資格認定研修について計画的に受講させています。 入室児童数の増加に伴い、受け入れに必要な保育スペース及び指導員の確保について課題があります。				
改 善 の 方 策 等	狭隘化した学童保育室については、川越市総合計画実施計画に位置付け、増築、余裕教室の転用を行っていきます。また、指導員の募集方法等を工夫し、必要数の指導員が確保できるよう努めます。				

【方向性】 II－活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 1 家庭・地域の教育力の向上

施策の柱		(1) 家庭への支援			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①家庭教育の充実	地域教育支援課	A	A	A
	②学童保育の充実	教育財務課	B		
学識経験者等 意見	・必要数の指導員を確保できるように学童指導員の処遇の改善に努めていただきたい。				A

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】1 家庭・地域の教育力の向上  
 【施策の柱】(2)地域の教育力の向上

細 施 策	①学校・家庭・地域の連携推進						担当課	担当課評価
							地域教育支援課	A
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・家庭・地域の連携・協働により、地域ぐるみの教育の充実に努めます。</li> <li>・地域の特色を生かした体験活動と学校応援団活動の充実に努めます。</li> <li>・子どもたちの「生きる力」を育むため、家庭や地域の教育力の向上に努めます。</li> <li>・「放課後子供教室」の実施に向けた検討を進めます。</li> </ul>							
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもサポート事業への参加者数は、子供たちの実態に即するよう、活動内容の改善を続け、更に多くの児童生徒が参加できるよう支援していきます。</li> <li>・学校応援団活動については、学校の要望等を各地区に伝え、活動が更に充実されるよう支援していきます。</li> </ul>							
平 成 2 9 年 度 績 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもサポート委員会によるイベント型事業数140件(延べ参加者数18,720人)</li> <li>・子どもサポート委員会による学校応援団活動数2,071件(延べ参加者数22,370人)</li> <li>・子どもサポート委員会開催数105回(延べ参加者数2,278人)</li> </ul>							
指 標 及 び 説 明	【指標】 子どもサポート事業への参加者数			【説明】 市内14地区の子どもサポート事業への参加者数				
指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値					目 標 値 (H32)
			H27	H28	H29	H30	H31	
	人	32,935	41,765	50,841	43,368			33,330
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもサポート事業への参加者数は、各地区が学校と連携し、子ども達の実態に即して活動内容の改善を行っていることにより、目標を上回っています。</li> <li>・学校応援団活動については、学校の要望を受けた各サポート委員会で活動の広がりが見られ、内容も充実し、順調に進捗しています。</li> </ul>							
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもサポート事業については、子どもたちの実態に即するよう、学校と地域がより多くの情報を共有し、活動内容の改善を続け、更に多くの児童生徒が参加できるよう支援していきます。</li> <li>・学校応援団活動については、各地区における活動について、サポート委員会同士の認知を深め、活動の幅を広げることでより多くの学校の要望に応えられるよう、活動の更なる充実に向けて支援していきます。</li> </ul>							

細 施 策	②社会教育関係団体への支援						担当課	担当課評価
							地域教育支援課	A
施 策 の 内 容	子どもたちの学びや体験活動の充実に図るため、PTAや子ども会育成会などの社会教育関係団体の活動を支援します。							
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市PTA連合会に対し、今後も引き続き同様の支援を行ってまいります。</li> <li>・川越市子ども会育成団体連絡協議会に対し、今後も引き続き同様の支援を行ってまいります。</li> </ul>							
平 成 2 9 年 度 績 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市PTA連合会及び市子ども会育成団体連絡協議会に対する事業費の補助並びに共催事業の実施。</li> <li>・市P連主催事業:PTA広報紙「P連かわごえ」年3回発行(7月、12月、3月)、広報紙コンクール開催。PTA講演会。PTA研究集会。県内視察研修開催。</li> <li>・市子連主催事業:広報誌「ひろば」年4回発行。県外視察研修、子ども会かるた大会の開催。</li> <li>・市子連との共催事業:ジュニアリーダースクール年6回、育成者研修会年2回開催。</li> </ul>							
成 果 実 績	項 目 名 (単 位)		H27	H28	H29			
	川越市PTA講演会参加者数(人)		330	272	236			
	川越市ジュニアリーダースクールの登録者数(人)		365	371	403			
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市PTA連合会主催事業は、計画どおり実施されており、順調に進捗しています。なお、PTA講演会の参加者数が、H27年度は、市P連創立60周年事業としても実施したため、例年より参加者数が増加しております。</li> <li>・川越市子ども会育成団体連絡協議会主催事業及び共催事業は計画どおり実施されており、順調に進捗しています。</li> </ul>							
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市PTA連合会に対し、今後も引き続き同様の支援を行ってまいります。</li> <li>・川越市子ども会育成団体連絡協議会に対し、今後も引き続き同様の支援を行ってまいります。</li> </ul>							



【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】1 家庭・地域の教育力の向上  
 【施策の柱】(2)地域の教育力の向上

細 施 策	③地域の教育活動への支援							担当課	担当課評価
								中央公民館	B
施 策 の 内 容	町内(字町)公民館講座や公民館登録グループの公開講座等の開設を支援するとともに、各種団体との連携による活動を通じ、地域の教育活動を支援します。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	引き続き、地域の教育活動が活発になるよう、地域教育活動団体の教育事業等を支援・連携していきます。								
平 成 2 9 年 度 実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町内等の公民館において、地域の教育活動の振興や社会福祉の増進に寄与することを目的とする95講座(175,373人)を支援しました。</li> <li>・公民館と地域団体との共催事業の講座数256講座、参加者延べ人数29,809人。</li> <li>・地域団体が主催し、公民館が事務支援している団体数53団体、参加者延べ人数9,349人</li> </ul>								
指 標 及 び 説 明	【指標】 講座数及び講座参加者数				【説明】 公民館登録グループの公開講座等の講座数及び参加者延べ人数				
指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値					目 標 値 (H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	講座	292	280	237	256			300	
	人	24,907	29,306	28,087	29,809			25,000	
現 状 ・ 課 題	公民館登録グループの公開講座等を積極的に展開していますが、登録グループ数そのものが減少傾向となっています。								
改 善 の 方 策 等	各館において、講座数及び参加者数の目標設定を行うとともに、公民館登録グループの育成に努めてまいります。 また引き続き、それぞれ地域の特性を生かしながら、地域の教育活動が活発になるよう、地域教育活動団体の教育事業等を支援・連携していきます。								

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進  
 【施策】1 家庭・地域の教育力の向上

施 策 の 柱	(2)地域の教育力の向上				
施 策 評 価	細 施 策	担 当 課	施 策 評 価		総 合 評 価
			細 施 策	施 策 の 柱	
	①学校・家庭・地域の連携推進	地域教育支援課	A	A	
	②社会教育関係団体への支援	地域教育支援課	A		
③地域の教育活動への支援	中央公民館	B			
学 識 経 験 者 等	・民間の講座に参加している可能性が高いと思われる若年層や壮年層の人達がどのようにしたら公民館において自主的な活動を行うのかという視点で、講座の設定の仕方を工夫していただきたい。				A

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】2 生涯学習活動の推進

【施策の柱】(1)生涯学習を推進する基礎づくり

細 施 策	①生涯学習を推進するための体制の充実				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課・中央公民館	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が利用しやすい「市民活動・生涯学習施設」の充実に努めます。</li> <li>・市民の生涯学習活動を支援する職員の意識啓発や資質を高めるための研修を実施します。</li> <li>・協働に関する研修を実施し、市民と行政が連携した事業の推進を図ります。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①指定管理者と連携し、「市民活動・生涯学習施設」の適正な管理運営をしてまいります。</li> <li>②他の事業や会議等と重ならないよう、調整を図りながら、公民館職員研修会を実施していきます。</li> <li>③研修の対象職員、実施内容等を見直す必要があります。</li> </ul>					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「市民活動・生涯学習施設」において、指定管理者による提案事業講座を約400時間実施しました。</li> <li>②基本法令及び公民館の事業企画の手法を学ぶための公民館職員研修会を5回開催しました。(参加者55名)</li> <li>③川越市協働事業審査委員会の委員を務めている大学教授を講師に招き、協働に関する研修を実施しました。(参加者75名)</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	市民活動・生涯学習施設平均稼働率(%)	39.0	56.5	61.4		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「市民活動・生涯学習施設」は、施設の認知度が高まり、平成27年度の供用開始時より稼働率が上がってきています。</li> <li>②公民館職員研修会は、研修内容のマンネリ化等から、参加者が少なくなっていることが懸念されています。</li> <li>③研修内容を見直し、職員も各課の担当リーダー級の者を対象として開催しましたが、市職員全体の協働に対する意識の向上という点で課題があります。</li> </ul>					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①指定管理者と連携し、「市民活動・生涯学習施設」の適正な管理運営をしてまいります。</li> <li>②ボランティア養成講座と共同で実施するなど他の事業とも調整を図りながら、公民館職員研修会を充実していきます。</li> <li>③研修の実施内容や受講対象者等を見直す必要があります。</li> </ul>					

細 施 策	②市民参加の体制の充実				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課・中央公民館	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と行政の情報交換や相互交流を充実させ、行政の事業等に参加しやすい体制の充実に努めます。</li> <li>・市民と行政との協働を効果的に達成するため、「協働推進事業制度」を積極的に推進します。</li> <li>・地域活動を推進する人材の発掘に努めます。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①公民館運営協力委員会が、新たな公民館事業の提案を行う等の役割を担っていく必要があります。</li> <li>②提案型協働事業の補助金の補助率、補助対象経費、事業募集のスケジュール等の要件を見直す必要があります。</li> <li>③市民講師(主宰者)募集については、周知方法の充実に努めます。</li> </ul>					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>①17公民館で、公民館運営協力委員会を延べ36回実施しました。【延べ308名の参加】</li> <li>②市民活動団体等から提案のあった12事業に対し、川越市協働事業審査委員会にて審査を行い、補助金を交付しました。(1事業は交付決定後辞退)</li> <li>③市民講師(主宰者)を募集する市民講座を、前期29講座、後期15講座の計44講座実施しました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	提案型協働事業補助金応募件数(件)	12	11	12		
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①公民館運営協力委員会が公民館利用団体等との情報交換のみの場となっています。</li> <li>②応募件数が毎年横ばいで推移しており、応募件数の増加に向けた取り組みが必要です。</li> <li>③市民講座は、市民講師の応募が少ないと結果的に実施講座が少なくなってしまうことから、年度によって応募件数にばらつきがあり、一定していません。</li> </ul>					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①公民館運営協力委員会が、それぞれの地域の特性を生かしながら、新たな公民館事業の提案を行う等の役割を担っていく必要があります。</li> <li>②補助金の補助率、補助対象経費、募集スケジュール等の要件を見直すとともに、市民活動団体等への広報に努めます。</li> <li>③市民講師(主宰者)募集については、HP、メール配信、ツイッター、ポスター等の広報活動の充実に努めます。</li> </ul>					

【方向性】 II ー活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(1)生涯学習を推進する基礎づくり			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①生涯学習を推進するための体制の充実	文化芸術振興課 中央公民館	B	B	B
	②市民参加の体制の充実	文化芸術振興課 中央公民館	B		
学識経験者等 意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエスタ川越の会議室等の予約については市民にとって利用しやすい手続き方法を検討していただきたい。</li> <li>・生涯学習を推進するためには職員の資質の向上が不可欠であるとする。</li> <li>・社会教育主事の資格を取得した職員については、資格を生かして力を発揮したり、スキルを職場に蓄積したりできるように、ある一定期間は同じ職場に留まるように在籍期間を考慮していただきたい。</li> <li>・市民センターにおける窓口業務と公民館業務は、異なる業務内容なので担当を分けて、公民館業務担当職員の育成を図っていただきたい。</li> </ul>				B

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】2 生涯学習活動の推進

【施策の柱】(2)市民の学習ニーズの把握及び生涯学習情報の充実

細 施 策	①学習ニーズの把握				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	A
施策の内容	市民意識調査や講座受講後の満足度調査等、各種アンケート等の調査活動を実施し、市民の学習ニーズの把握に努めます。					
前年度の改善の方策等	市民の学習ニーズを把握するため、アンケートの回収率をあげるよう努めます。					
平成29年度実績	川越大学間連携講座を実施した4大学において、受講生に対しアンケートを実施しました。(回収率90.21%)また、高校生小説大賞関連事業「小説の書き方講座」において、アンケートを実施しました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	アンケート調査実施回数(回)	4	5	5		
現状・課題	アンケート調査実施回数の成果実績は、計画どおり実施することができ、大学間連携講座のアンケートの回収率も昨年度より6.25%増加し、順調に進捗しています。また、アンケート結果は、次回講座の参考となるよう講座を実施した各大学や講師にも情報提供しています。					
改善の方策等	市民の学習ニーズを把握するため、引き続きアンケートを実施していきます。					

細 施 策	②市民が利用しやすい生涯学習情報の提供				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	A
施策の内容	生涯学習情報誌「マナビガイド」の発行や、ホームページやSNS等を活用した情報提供を行います。					
前年度の改善の方策等	「マナビガイド」に情報を掲載している公共施設等のうち、設置していない施設があるため、配布の協力を依頼するよう努めます。					
平成29年度実績	「マナビガイド」は、年間12回(毎月末)発行し、文化芸術振興課や市内公共施設に設置しました。また、川越市公式ホームページに掲載するとともに川越市ツイッター公式アカウントで、毎月新号の発行を周知しました。 配布している箇所に、残数の調査を行い、平成30年度における配布数の参考といたしました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	生涯学習情報誌マナビガイド配布箇所数(箇所)	45	46	47		
現状・課題	川越まつり会館への配布が増え、順調に進捗しています。					
改善の方策等	「マナビガイド」に情報を掲載している公共施設等に、引き続き配布を行うよう努めます。					

【方向性】 II ー活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(2) 市民の学習ニーズの把握及び生涯学習情報の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①学習ニーズの把握	文化芸術振興課	A	A	A
	②市民が利用しやすい生涯学習情報の提供	文化芸術振興課	A		
学識経験者等	・学習ニーズの把握のため、事業の参加者に対するアンケートだけではなく、生涯学習に関する全市的なアンケート調査を行っていただきたい。				

細 施 策	①ライフステージにおける課題の学習				担当課	担当課評価
					中央公民館	B
施策の内容	乳幼児の心と体を育むことをねらいとした子育て講座等、生涯の各時期に生じる課題の学習活動の提供に取り組むとともに、さらなる学習機会の充実・提供に努めます。					
前年度の改善の方策等	生涯の各時期に生じる課題を取り上げ、充実した学習機会を提供していきます。					
平成29年度実績	ライフステージにおける課題の学習の講座数162講座、参加者延べ人数36,550人					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	ライフステージにおける課題の学習の公民館主催事業参加者数	33,960	37,727	36,550		
現状・課題	講座の回数は横ばい、参加者数は減少傾向にあります。例年同様な事業を展開しているため、内容がマンネリ化していることが懸念されます。					
改善の方策等	公民館職員研修を充実させ、魅力ある事業を企画していく必要があります。 また、生涯の各時期に生じる課題を取り上げるとともに、時代に即したテーマを取り上げ、さらなる学習機会の提供に努めます。					

細 施 策	②現代的課題の学習							担当課	担当課評価
								中央公民館	C
施策の内容	社会的に要請されている環境学習、情報学習、人権学習等のような現代的課題の学習活動の提供に取り組むとともに、さらなる学習機会の充実・提供に努めます。								
前年度の改善の方策等	日常生活と結びつく、身近な問題や課題を取り上げ、充実した学習機会の提供に努めます。								
平成29年度実績	現代的課題の学習の講座数107講座、参加者延べ人数7,220人								
指標・説明	【指標】 公民館主催事業の講座数及び講座参加者数				【説明】 公民館主催事業の講座数及び講座参加者延べ人数				
	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
指標の推移	講座	128	H27 130	H28 103	H29 107	H30	H31	H32	130
	人	20,152	17,963	7,609	7,220				21,000
現状・課題	講座の回数は横ばい、参加者数は減少傾向にあります。例年同様な事業を展開しているため、内容がマンネリ化していることが懸念されます。								
改善の方策等	公民館職員研修を充実させ、魅力ある事業を企画していく必要があります。 また、日常生活と結びつく、身近な問題や課題を取り上げるとともに、地域のニーズに即した学習機会の提供に努めます。								

【方向性】 II ー活力ある地域を創る生涯学習の推進  
 【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(3) 社会の変化に応じた学習機会の提供			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①ライフステージにおける課題の学習	中央公民館	B	B	B
	②現代的課題の学習	中央公民館	C		
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習、情報学習、人権学習等のような現代的な課題の学習については市民の方々に課題として認識していただけるように、講座の企画の仕方、課題の立て方等を工夫していただきたい。</li> <li>・様々な働きかけをして実績が目標値に近づくように努力していただきたい。</li> </ul>				

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】2 生涯学習活動の推進  
 【施策の柱】(4)人権施策の推進

細 施 策	①人権教育の充実			担当課	担当課評価
				地域教育支援課	A
施策の内容	・人権教育の一環として、児童生徒による人権作文・人権標語・人権絵画の取組を通して人権意識の高揚に努めます。 ・人権教育推進事業を公民館・小学校・中学校に委嘱するとともに、人権教育実践報告会やPTA・子ども会育成会人権啓発フィルム研修会を実施し、同和問題などの人権問題の解決を目指します。				
前年度の改善の方策等	更に公民館区で学校・家庭・地域が一体となって人権教育の充実に努めます。				
平成29年度実績	・人権文集「あけぼの」作成と文集を活用した授業の推進 ・人権絵画展「いのち・こころを大切に」の開催 3日間226人 ・人権作文発表(人権教育実践報告会)6人 ・「川越市の人権教育」の中に人権教育推進事業委嘱館・委嘱校(3公民館区:3館11校に委嘱)の実践や授業研究会の記録などを「人権教育実践収録」としてまとめました。				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	人権作文・標語・絵画応募総数(点)	827	835	812	
	委嘱小・中学校数(校)	10	10	11	
現状・課題	人権作文・標語・絵画については、優秀な作品を人権文集「あけぼの」に掲載し、人権教育啓発資料として活用できました。 「川越市の人権教育」(人権教育実践集録)を人権教育推進資料として活用できたことなど、順調に進捗しています。				
改善の方策等	更に公民館区で学校・家庭・地域が一体となって人権教育の充実に努めます。				

細 施 策	②人権啓発資料の活用			担当課	担当課評価
				地域教育支援課	A
施策の内容	各種人権啓発資料を作成するとともに、児童生徒をはじめ市民に配布することで人権意識の高揚に努めます。				
前年度の改善の方策等	今後も人権啓発資料の活用に努めます。				
平成29年度実績	・川越市PTA・子ども会育成会人権啓発フィルム研修会開催 ・人権文集「あけぼの」発行 3,150部 ・人権カレンダー発行 40,000部 ・川越市人権教育推進協議会広報紙「人権かわごえ」発行(年2回) 30,000部				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	川越市PTA・子ども会育成会人権啓発フィルム研修会参加者数(人)	222	228	238	
	人権カレンダー発行(部)	40,000	40,000	40,000	
現状・課題	川越市PTA・子ども会育成会人権啓発フィルム研修会では、活発な意見交換もあり、充実した時間を過ごすことができました。また、人権教育啓発資料は、児童生徒に対し学校の授業で、保護者に対してはPTA家庭教育学級で、そして一般の市民の方に対しては、公民館の人権教育指導者養成講座で、それぞれ活用しています。				
改善の方策等	今後も人権啓発資料の内容の充実に努め活用の促進を図ります。				



【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】2 生涯学習活動の推進  
 【施策の柱】(4)人権施策の推進

細 施 策	③人権教育指導者の養成				担当課	担当課評価
					地域教育支援課	A
施 策 の 内 容	家庭や職場、地域社会における人権問題の解決を目指して、PTA家庭教育学級の人権教育講座や公民館の人権教育指導者養成講座を開催し、身近な人権教育指導者の養成を図ります。					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	人権教育講座担当者の確保や講座開設・募集等について検討していきます。指導者養成講座では、人権感覚育成プログラムを取り入れた体験型の講座やDVDなどの視聴覚教材を取り入れ話し合い型の講座など講演会だけでなく参加意欲を向上させるような内容を取り入れるなど、事業の充実に努めます。					
平 成 2 9 年 度 実 績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館における人権教育指導者養成講座の実施(17公民館で実施 88講座 参加者数3504人)</li> <li>・小堤集会所事業:人権教育指導者養成講座の実施(5回 参加者数178人)</li> <li>・啓発用DVDを活用した講座の実施(11講座/(88講座+5講座))</li> </ul>					
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	公民館における人権教育指導者養成講座参加者数	3,844	3,845	3,504		
	小堤集会所事業:人権教育指導者養成講座参加者数	149	167	178		
現 状 ・ 課 題	公民館登録グループの公開講座等を積極的に展開していますが、登録グループ数そのものが減少傾向となっています。また、講座数や参加者数は前年度と比較すると減少していますが、1講座の平均参加者数が約40人となっていることから、当課で想定している1講座平均30人を上回っており、順調に進捗しています。					
改 善 の 方 策 等	引き続き、地域の人権教育活動が活発になるよう、公民館と連携し人権教育を充実していきます。					

細 施 策	④関係機関・団体等との連携				担当課	担当課評価
					地域教育支援課	A
施 策 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識の高揚と差別意識の解消のため、関係機関や団体等と連携した教育活動を推進します。</li> <li>・自治会等と連携した教育活動を推進し、地域内の交流を深めるとともに、学習の場としての集会所事業を推進します。</li> </ul>					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	今後も地域内の交流を更に深めるために自治会との連携を密にするとともに、集会所運営委員会、協力委員会で協議を重ね、事業内容等の充実に努めます。					
平 成 2 9 年 度 実 績	集会所事業として、青少年を対象に習字教室、フレンドスクールを実施(参加人数1132人)。成人対象で指導者養成講座、成人学習講座等を実施(参加人数101人)。女性対象で女性講座を実施(参加人数94人)。高齢者対象で高齢者学級講座を実施(参加人数129人)。集会所事業の成果発表の場としての集会所ふれあいまつり開催(参加人数314人)。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	集会所事業 講座・教室参加者数(人)	2,865	2,836	2,634		
	ふれあいまつり参加者数(人)	262	285	314		
現 状 ・ 課 題	小堤集会所における各講座・教室については、参加者の固定化が目立ち参加者数がやや減少しているものの、ふれあいまつりやフレンドスクールについては、多くの子どもたちの参加があり、順調に進捗しています。					
改 善 の 方 策 等	今後も地域内の交流を更に深めるために自治会との連携を密にするとともに、集会所運営委員会、協力委員会で協議を重ね、事業内容等の充実に努めます。					

【方向性】 II ー活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(4) 人権施策の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①人権教育の充実	地域教育支援課	A	A	A
	②人権啓発資料の活用	地域教育支援課	A		
	③人権教育指導者の養成	地域教育支援課	A		
	④関係機関・団体等との連携	地域教育支援課	A		
学識経験者等 意見	なし				A

細 施 策	①公民館の設置				担当課	担当課評価
					地域教育支援課	B
施 策 の 内 容	身近な学習施設としての公民館の建設を推進します。					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)霞ヶ関西公民館建設推進については、平成29年度に本体工事を着工予定です。</li> <li>・霞ヶ関北公民館整備推進については、基本設計に向けての予算確保に努めるとともに、建設予定地の安全管理に努めてまいります。</li> <li>・(仮称)西公民館建設推進については、地元有識者による建設検討懇話会が開催されるよう助言協力を行い、施設機能の検討を進めてまいります。</li> </ul>					
平 成 2 9 年 度 績 実	(仮称)霞ヶ関西公民館建設:本体工事・電気工事・給排水工事の着工。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	設計業務委託契約の本数(件)	1	1	0		
	建設工事請負契約の本数(件)	0	0	3		
現 状 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)霞ヶ関西公民館建設推進:平成29年度は本体工事等を着工し、順調に進捗しています。</li> <li>・霞ヶ関北公民館整備推進:平成25年7月に建設検討懇話会から提言書が提出されましたが、平成29年度は予算確保に至らず、建設予定地の管理を行っているのみの状況です。</li> <li>・(仮称)西公民館建設推進:平成26年6月に検討懇話会から提言書が提出されていますが、今後庁内において更に検討が必要な状況です。</li> </ul>					
改 善 の 方 策 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)霞ヶ関西公民館建設推進については、平成30年度中に竣工予定です。</li> <li>・霞ヶ関北公民館整備推進については、建築設計等に向けての予算確保に努めるとともに、建設予定地の安全管理に努めてまいります。</li> <li>・(仮称)西公民館建設推進については、地域住民のご意見を伺いながら、庁内で検討を進めてまいります。</li> </ul>					

細 施 策	②既存公民館の整備・運営				担当課	担当課評価
					中央公民館	B
施 策 の 内 容	既存の公民館については、大規模改修工事等を計画的に実施し、利用しやすい学習施設となるよう整備運営に努めます。					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	市民にとって、地域の身近な学習施設として利用されるよう努めます。					
平 成 2 9 年 度 績 実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川鶴公民館工芸室冷暖房設備設置工事、芳野公民館冷暖房設備改修工事及び山田公民館屋上防水等改修工事を実施しました。</li> <li>・全公民館からの修繕等要望件数17件のうち、修繕等実施件数は14件です。</li> <li>また、突発修繕を96件行っていますので、計110件の修繕等を実施しています。</li> </ul>					
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	修繕要望件数の実施率(%)	47	67	82		
現 状 ・ 課 題	建築後30年以上の公民館が12館あり、予定外の突発修繕が多くなっています。					
改 善 の 方 策 等	市民にとって、地域の身近な学習施設として利用されるよう努めます。					

【方向性】 II ー活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(5) 身近な学習施設の整備・運営			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①公民館の設置	地域教育支援課	B	B	B
	②既存公民館の整備・運営	中央公民館	B		
学識経験者等 意見	なし				

細 施 策	①図書館サービスの充実							担当課	担当課評価
								中央図書館	C
施策の内容	市民のさまざまなニーズに対応した図書館サービスの向上を図る取組を推進します。また、図書館利用に障害のある人に配慮した図書館サービスに努めます。								
前年度の改善の方策等	市民のさまざまなニーズに対応した、多面的な観点からの資料の提供を推進します。また、図書館利用に障害のある人に配慮した図書館サービスのPRに努めます。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は、本・雑誌・AV(視聴覚)資料の貸し出しを1,758,562冊行いました。</li> <li>障害者サービスでは、録音図書(2,914タイトル)や点字図書(59タイトル)の貸し出しを行いません。また、作成した録音図書(3,776タイトル)、点字データ(1,243タイトル)のダウンロード利用がありました。</li> <li>大活字本、布絵本、拡大写本など誰もが読書を楽しめる多様な資料を用意した「りんごの棚」を全館に設置しました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 図書館の貸出冊数				【説明】 市立図書館の本・雑誌・AV資料の貸出総数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	冊	1,845,426	H27 1,848,799	H28 1,803,754	H29 1,758,562	H30	H31	H32	1,950,000
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸出冊数の総数実績値が、平成28年度実績値に対して約3%と減っているため、進捗はあまり順調ではありません。</li> <li>録音図書は、平成28年度(3,362タイトル)と比較して約14%、また、点字図書は、平成28年度(67タイトル)と比較して約12%減っております。しかし、作成した録音図書は、平成28年度(2,929タイトル)と比較して28%、点字図書は平成28年度(555)と比較して約220%ダウンロード利用が増えております。</li> </ul>								
改善の方策等	市民のさまざまなニーズに対応した、多面的な観点からの資料の提供を推進します。また、図書館利用に障害のある人に配慮した図書館サービスのPRに努めます。								

細 施 策	②図書館資料・情報提供サービス機能の充実							担当課	担当課評価
								中央図書館	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な市民要望に応えるため、充実した図書館サービスを実施する上で必要となる各分野の資料収集に努めます。</li> <li>市民の学習・研究活動支援の充実を図るため、他の図書館等との連携や情報の提供サービス機能の充実に努めます。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	4館が連携し、引き続き、蔵書の充実に努めるとともに、資料の収蔵能力を拡充するため、中央図書館の書架増設等について検討していきます。								
平成29年度実績	蔵書数は中央図書館が495,884冊、西図書館が174,615冊、川越駅東口図書館が74,260冊、高階図書館が113,547冊で合計では858,306冊です。								
指標及び説明	【指標】 図書館の蔵書数				【説明】 市立図書館の蔵書総数(視聴覚資料含むが、新聞・雑誌は除外)				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	冊	836,315	H27 843,893	H28 852,908	H29 858,306	H30	H31	H32	860,000
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度実績は、858,306冊で、平成29年度想定目標値を達成しており、順調に進捗しています。</li> <li>今後、中央図書館の収蔵能力を拡充するためには、収蔵場所の確保が問題となっています。</li> </ul>								
改善の方策等	4館が連携し、引き続き、蔵書の充実に努めるとともに、資料の収蔵能力を拡充するため、中央図書館の書架増設等について検討していきます。								

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】2 生涯学習活動の推進

【施策の柱】(6)市立図書館の充実

細 施 策	③図書館を活用した学習活動の推進							担当課	担当課評価
								中央図書館	A
施 策 の 内 容	幅広い世代で構成される市民の、多様な学習活動に即した講座や講演会等の事業を推進します。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	引き続き多様な学習活動に即した講座や講演会等の事業を開催します。								
平 成 2 9 年 度 実 績	乳幼児から児童を対象とした各種おはなし会や、作家による講演会、郷土資料を活用した講座、バリアフリー映画会などを開催しました。								
指 標 及 び 説 明	【指標】 図書館の事業開催回数				【説明】 各種おはなし会や講演会など市立図書館が主催する図書館を活用した事業の開催回数				
	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
指 標 の 推 移		H27	H28	H29	H30	H31	H32		
	回	456	472	479	501			470	
現 状 ・ 課 題	乳幼児から児童を対象とした各種おはなし会や、郷土資料を活用した博物館との共催事業、バリアフリー映画会などを開催し、実績は順調です。								
改 善 の 方 策 等	引き続き多様な学習活動に即した講座や講演会等の事業を開催します。								

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】2 生涯学習活動の推進

施 策 の 柱	(6)市立図書館の充実				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①図書館サービスの充実	中央図書館	C	A	
	②図書館資料・情報提供サービス機能の充実	中央図書館	A		
③図書館を活用した学習活動の推進	中央図書館	A			
学 識 経 験 者 等 意 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度化している市民ニーズに対応できるよう、司書等の専門の職員の確保・充実に努めていただきたい。</li> <li>・本を読むことの有用性・有益性を伝える活動を今後も継続していただきたい。</li> <li>・収蔵能力の拡充は、市全体の施設建設と関連することなので、総合計画に位置付けて進められるように努めていただきたい。</li> </ul>				A

細 施 策	①展示機能の充実							担当課	担当課評価
								博物館	C
施策の内容	常設展示の見直しを検討し、新たな学術的成果やより学びやすい展示手法を展示に反映できるよう研究を進め、展示機能の充実を図ります。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の見直しについては、具体的な検討を引き続き継続し、今後、スムーズに設計・工事へ移行できるように準備を進めます。</li> <li>・企画展等の内容については、市民の関心・興味を把握し、時機を見据えたテーマが設定できるよう工夫していきます。また、他団体等との共催・共同企画も積極的に進めます。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の見直しについては、博物館内部で現状の課題と改修案を出し合い検討を進めております。</li> <li>・企画展示では第26回収蔵品展「絵図・地図で読み解く川越」、「平成29年新作名刀展-現代の刀工と刀職-」、「家康没後400年記念特別展 徳川家康と天海大僧正-家康の神格化と天海-」、「第27回収蔵品展 三芳野神社とその社宝」を開催しました。</li> <li>・他団体との共催として、企画展示に合わせワークショップを開催しました。</li> <li>・平成29年度の博物館の入館者数は89,563人で前年度と比べて6,953人の減少となりました。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 博物館の入館者数				【説明】 博物館の年間入館者数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	人	98,205	H27 98,025	H28 96,516	H29 89,563	H30	H31	H32	100,000
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示室の見直しについて短期的に実現可能な展示品の入れ替えを実施し、展示機能の充実はおおむね順調に進捗しています。しかし、博物館入館者は89,563人と前年度と比べて6,953人減少しており(前年比約93%)、常設展示室の根本的な改修が必要です。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、中長期的な常設展示室の改修をめざし、具体的な展示案を検討し、機会を捉えて設計・工事に移行できるよう準備を進めます。</li> <li>・また、企画展・特別展は市民・来館者の関心・興味を把握し、常設展示に反映できる内容でのテーマ設定を検討します。</li> </ul>								

細 施 策	②郷土資料の収集・保存							担当課	担当課評価
								博物館	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川越の歴史と文化に係る資料収集に努めるとともに、その保存と活用を図ります。</li> <li>・資料を保存する収蔵庫については、収蔵能力が不足しているため、効率的な収蔵保管に努めるとともに、新たな収蔵施設の確保を検討します。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	郷土資料は、現地保存ができない場合には博物館で寄贈・寄託により受け入れる必要があります。引き続き効率的な収蔵に努めるとともに、新たな収蔵スペースの検討を進めます。貴重な資料については、購入できない場合、寄託による収集を積極的に進めます。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度は購入資料2点、寄贈資料174点を受け入れ、収蔵資料の累計は38,161点となりました。また、市内の個人から寄託された地域関係資料を整理し、「小杉権次郎氏収集文書・旧鍛冶町名主北野家文書目録」「川越喜多町名主御用日記三」「川越藩松平大和守家記録三」を刊行しました。</li> <li>・資料の収蔵については、市の既存施設を暫定的に使用し保存に努めています。</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 博物館の収蔵資料点数				【説明】 博物館収蔵資料の累計点数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実 績 値					目標値 (H32)	
	点	37,746	H27 37,816	H28 37,985	H29 38,161	H30	H31	H32	40,000
現状・課題	平成29年度は購入資料2点、寄贈資料174点と収蔵資料点数は着実に増加し、博物館資料の収集・保存はおおむね順調に進捗しています。しかし、収蔵スペースが不足しているため大型民具等の寄贈の受け入れを制限せざるを得ない場合もあり、収蔵スペースの確保が課題です。								
改善の方策等	収蔵資料の効率的な保管を進めるとともに、新たな収蔵スペースの確保に向け、さらに検討を進めます。また、貴重な郷土の歴史資料について積極的に収集を行います。								

細 施 策	③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化						担当課	担当課評価
							博物館	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の多様な学習要求に対応できるよう、講座・教室など教育普及事業の充実を図ります。</li> <li>小・中学校等との連携を進め、学校の教育課程に位置付けた博物館活用の充実を図ります。</li> </ul>							
前年度の改善の方策等	各種事業では応募者が定員を上回り、参加された方の満足度も9割以上を維持していますが、今後も引き続き市民ニーズに配慮しながら、魅力ある内容を企画し、併せて広報活動の充実を図ります。							
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人向け事業の参加者数は2,381人で満足度は94.1%、子ども向け事業は1,621人で満足度は95.9%でした。</li> <li>教育活動の一環として博物館を利用した学校は、学校側の事情やインフルエンザ流行の影響があり、市内延べ84校6,927人、市外265校24,805人で、総計349校31,732人でした。</li> </ul>							
指標及び説明	【指標】			【説明】				
	①博物館講座・教室受講満足度 ②教育課程に位置付けた博物館活用の学校数			①受講者アンケートにおいて「大変よかった」と及び「よかった」と回答のあった割合 ②小・中学校等の博物館活用の年間学校数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)
			H27	H28	H29	H30	H31	H32
	① %	95.3	95.1	93.1	95.0			97.0
② 校	358	354	376	349			370	
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座、教室等の事業については、参加者のアンケート結果、ボランティアの意見、反省点等を加味しながら検討した結果、前年より1.9%満足度が増加し、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>学校利用については、各学校の来館時期が重なってしまう傾向があり、またインフルエンザ等の影響もありますが、おおむね順調に進捗しています。</li> </ul>							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座、教室の参加者の満足度をさらに高めるためには、より一層参加者の興味関心をひくような工夫が必要であり、講師や内容、進め方について改善を図ります。</li> <li>学校利用については、内容、時期等できるだけ学校の要望に沿えるようさらに努めます。</li> </ul>							

細 施 策	④博物館・蔵造り資料館の整備						担当課	担当課評価
							博物館	B
施策の内容	社会教育施設、文化財及び観光拠点施設としての機能を充実させるため、博物館・蔵造り資料館の整備を図ります。							
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館の機能を十分に発揮するためには、施設の適切な維持が必要なため、老朽化が著しい箇所から順次修理を進めます。</li> <li>蔵造り資料館につきましては、平成26年度よりはじまった耐震化事業を進めます。</li> </ul>							
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館については、老朽化にともなう施設修繕(冷水器修繕、屋根修繕、町並み復元模型解説映像機器修繕等)を行い、博物館機能を維持するための整備に努めました。</li> <li>蔵造り資料館については、耐震化事業の工事範囲の見直しを行い、入札を実施しました。その結果、6月に落札業者が決定し、現在工事を進めています。</li> </ul>							
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29				
	施設・設備の修繕件数(件)	20	18	8				
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館については、機能を維持するための応急的な修繕を実施してきました。施設の老朽化にともなう修繕を必要とする箇所を多く抱えている現状ですが、必要な修繕は着実に実施されており、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>蔵造り資料館については、掘削時における想定外の礎石出土等により再検討が必要となり、工期に遅れが生じています。</li> </ul>							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>博物館の機能を十分に発揮し、施設を適切に維持・管理していくため、老朽化が著しい箇所から順次修理を進めていきます。</li> <li>蔵造り資料館については、監督員、監理者、施工業者との事前協議を確実にし、これ以上の遅れがないよう工事を進めていきます。</li> </ul>							



【方向性】 II - 活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(7) 博物館の整備・充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①展示機能の充実	博物館	C	B	B
	②郷土資料の収集・保存	博物館	B		
	③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化	博物館	B		
	④博物館・蔵造り資料館の整備	博物館	B		
学識経験者等 学意 見 者 等	なし				B

【方向性】Ⅱ－活力ある地域を創る生涯学習の推進 【施策】2 生涯学習活動の推進  
 【施策の柱】(8)高等教育機関との連携の推進

細 施 策	①高等教育機関との連携体制の充実				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の発展と人材育成に寄与するため連携体制を整えます。</li> <li>・教育、文化、まちづくり等の分野において市内の大学等と協力します。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	連携会議の開催を進める等、各大学と連携を密にし、大学との連携体制の充実に努めます。					
平成29年度実績	川越市と大学との連携に関する基本協定に基づき、大学のもつ研究・教育機能との連携を進めるため、連携会議を開催しました。(東洋大学1回19課所、女子栄養大学1回11課所)					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	川越市の連携会議参加課所数(延べ)	36	59	30		
現状・課題	平成28年度まで東洋大学とは、年に2回会議を行っていましたが、より内容を充実させるため開催時間を長くとることにより、29年度より年1回に変更しました。女子栄養大学とは昨年度に引き続き、会議を開催することができました。					
改善の方策等	毎年度、庁内各部署に連携調査を行い、市から大学、又は大学からの市への要望をとりまとめ、関係部署への取り次ぎを行い連携体制の充実に努めます。					

細 施 策	②共催による講座等の充実							担当課	担当課評価
								文化芸術振興課	A
施策の内容	市内4大学との連携により、各大学の特徴を生かした講座を開催し、高度で体系的な生涯学習の機会の拡充を図ります。								
前年度の改善の方策等	引き続き、市内4大学と連携し、連携講座の実施と講座内容の充実に努めます。								
平成29年度実績	市内4大学と連携講座を実施し、255人の参加がありました。 ・東洋大学「アートセラピー～芸術がもたらす癒しとコミュニケーション～(6回)」受講者75人 ・東京国際大学「グローバル社会と情報ギャップ(1回)」受講者31人 ・尚美学園大学「江戸時代中期の個性派画家たち(3回)」受講者69人 ・東邦音楽大学「作曲の秘密を解き明かす(3回)」受講者80人								
指標及び説明	【指標】川越大学間連携講座の受講者数				【説明】市内4大学との連携・協働による川越大学間連携講座の合計受講者数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31		H32
	人	251	362	193	255			280	
現状・課題	平成24年度から市内4大学との連携講座として実施しています。平成29年度も昨年度に引き続き4大学と実施し、回数及び受講者数も増やすことができ、順調に推移しています。								
改善の方策等	引き続き、市内4大学と連携し、アンケートの結果をいかした連携講座の実施と、より多くの市民の方に受講してもらうよう広報活動の充実に努めます。								

【方向性】 II ー活力ある地域を創る生涯学習の推進

【施策】 2 生涯学習活動の推進

施策の柱		(8) 高等教育機関との連携の推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①高等教育機関との連携体制の充実	文化芸術振興課	B	A	A
	②共催による講座等の充実	文化芸術振興課	A		
学識経験者等	<p>・それぞれの大学の特性を生かして、今後、さらに連携を進めていただきたい。また、講座の実施に際しては、講座の在り方や進め方、募集の方法等について、大学側と協議し進めていただきたい。</p>				A



【施策の柱】 (1)文化財の保護

細 施 策	③無形民俗文化財の保存と後継者の育成	担当課		担当課評価
		文化財保護課		B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無形民俗文化財を地域ぐるみで保存継承する体制の確立を支援協力します。</li> <li>・後継者育成を積極的に支援します。</li> </ul>			
前年度の改善の方策等	今後保存団体にアンケートを取るなどして現状を把握し、その後、保存団体に事情聴取し、個々の保存団体に寄り添った支援を行っていきます。			
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗文化財保存修理件数:1件(前年度比33%)</li> <li>・後継者養成事業実施団体数:17団体(前年度比113%)</li> </ul>			
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29
	民俗文化財保存修理件数(件)	6	3	1
	後継者養成事業実施団体数(件)	16	15	17
現状・課題	指定文化財については、後継者養成や使用する道具の修理などに補助金を支出し、支援しています。現在、高齢化や少子化などの影響で、地域の伝統的な祭りや芸能の継承は困難な状況です。			
改善の方策等	平成29年度のアンケート調査結果をもとに、保存団体からの聞き取り調査をさらに進め、問題点などを把握し、個々の団体の実情に応じた対応を検討していきます。			

細 施 策	④有形文化財の保存と活用	担当課		担当課評価
		文化財保護課		B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定されている有形文化財の維持管理を継続的に行い、その保存に努めます。</li> <li>・博物館や関係各課と連携し、その活用を図ります。</li> </ul>			
前年度の改善の方策等	永島家住宅(旧武家屋敷)については、平成29年度より毎月1回から毎週土曜日に公開日を増やします。また、市制施行100周年記念「川越市の文化財」改訂事業を始める予定です。これにより、すべての指定文化財の現況を把握するカルテを作成するため、長期的な保存修理事業を計画できます。			
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財保存事業実施件数:25件(前年度比±0%)</li> <li>・永島家住宅(旧武家屋敷)の見学者数:2,694人(前年度比121%)</li> <li>・埋蔵文化財出土品貸出件数:9件(前年度比69%)</li> </ul>			
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29
	指定文化財保存事業実施件数(件)	29	25	25
現状・課題	指定文化財の所有者・管理者と協力して、文化財を後世に残すために適切な維持管理や、保存修理事業を実施し、公開に努めています。文化財の管理には、経年劣化や突発的な災害等などの要因で急ぎょ修理事業が必要になるので、長期的な計画を立てることが困難です。平成29年度から毎週土曜日の公開を始めた永島家住宅については、見学者数が前年度比121%になりました。			
改善の方策等	市制施行100周年記念として「川越市の文化財」改訂事業を始めます。この事業ではすべての指定文化財の現況を把握するカルテを作成するため、長期的な保存修理事業を計画できます。また、永島家住宅に関しては、さらに見学者を増やすために、活用方法を検討します。			

【施策の柱】 (1)文化財の保護

細 施 策	⑤重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実							担当課	担当課評価
								都市景観課	A
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的建造物の保存修理など必要な事業を実施し、あわせて保存技術の継承や後継者の育成に努めます。</li> <li>・伝統的建造物の耐震化や自主防災体制の整備を検討します。</li> </ul>								
前年度の改善の方策等	保存修理事業を計画的に実施していくため、引き続き伝統的建造物所有者の意向把握や保存対策調査による現状把握に努めます。また、補助金の財源確保のため文化庁等との連絡調整に努めます。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存修理事業(国庫補助対象)／長谷川家住宅土蔵:解体工事、屋根工事・木工事・左官工事・板金工事等の一部 星野・田中両家住宅店棟:小屋組の修繕、屋根葺き替え等 金大土蔵:屋根葺き替え 宮岡家住宅店蔵及び土蔵:(店蔵)屋根漆喰・外壁の修理、(土蔵)けらば漆喰・外壁水切の修理 市ノ川家住宅主屋:屋根葺き替え</li> <li>・伝統的建造物の追加特定／勝冶家住宅主屋、齊家住宅主屋</li> <li>・地区の啓発パンフレット作成／伝建地区の概要、伝統的建造物MAP</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 伝統的建造物の修理件数				【説明】 重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業における大規模な修理事業の累計件数				
	単位	現在値 (H26)	実績値						目標値 (H32)
指標の推移	件	57	H27 61	H28 64	H29 69	H30	H31	H32	76
現状・課題	伝統的建造物所有者の修理要望の把握及び保存対策調査を計画的に実施したことにより、修理件数累計が想定目標値を上回っており、順調に進捗しています。								
改善の方策等	保存修理事業を計画的に実施していくため、引き続き伝統的建造物所有者の意向把握や保存対策調査による現状把握に努めます。また、補助金の財源確保のため文化庁等との連絡調整に努めます。								

細 施 策	⑥河越館跡の整備・活用							担当課	担当課評価
								文化財保護課	B
施策の内容	郷土学習の場、市民の憩いの場として国指定史跡河越館跡史跡公園等の整備を継続し、市民や自治会等の公共団体、NPO法人、大学等と協働してその有効活用を図ります。								
前年度の改善の方策等	河越流鏝馬を含む活用事業の見直し、用地買収に関わる地権者との協議及び整備計画の検討を行います。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河越館跡史跡公園の歴史の理解と、活用を目的としたイベント「河越流鏝馬」と並行して、流鏝馬をPRする写真パネル展示を期間限定で西文化会館で実施。また、「河越流鏝馬」の当日、会場内で解説員が説明する展示ブースを開設しました。(1件)</li> <li>・未取得地の買収に向けて、地権者と協議を行いました。(5回)</li> </ul>								
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29					
	河越館跡地の史跡公園整備率(%)	30.4	30.4	30.4					
	河越流鏝馬見学者数(人)	1,900	4,500	2,200					
現状・課題	今年度の河越流鏝馬は、悪天候の影響で見学者は半減しましたが、平成23年度から継続して実施しており、河越館跡を周知するという目標は達成されています。今後の課題は活用をさらに促す企画が必要です。また、未買収地の取得については、今後も関係者と協議を進めていく必要があります。								
改善の方策等	市民の活用を促すために、HPなどを通じて利用案内を広く周知するとともに、これまで以上に活用できるような事業の創出、及び用地取得に向けて関係者との協議や整備計画の検討を行います。								

【施策の柱】 (1)文化財の保護

細 施 策	⑦山王塚古墳の整備			担当課	担当課評価
				文化財保護課	B
施策の内容	国内で最大規模の上円下方墳である山王塚古墳について、未来に伝えるべき貴重な文化財として、国指定史跡とすることを目指します。				
前年度の改善の方策等	発掘調査の出土品、図面整理を速やかに行い、総括報告書を刊行します。				
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>山王塚古墳の石室の構造、規模、素材を確認するために、トレンチ(試掘坑)を設定し、発掘調査を実施しました。</li> <li>石室の側壁や床を確認し、石室の幅や、遠方から石材を搬入したことが判明しました。また、掘削土のフルイがけを実施し、副葬品(ガラス玉)を検出しました。</li> </ul>				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	川越市山王塚古墳調査検討委員会開催数(回)	2	2	1	
	山王塚古墳現地説明会見学者数(人)	388	120	698	
現状・課題	国指定史跡を文化庁に意見具申するための前提となる発掘調査については、平成29年度で終了し、古墳の規模や構築年代等が明らかとなっています。今後は発掘調査から山王塚古墳の価値について多面的に論じた、国に提出する総括報告書の提出が必要になります。				
改善の方策等	発掘調査の出土品、図面整理を速やかに行い、総括報告書を刊行します。				

【施策】 1 文化財の保護と文化芸術活動の充実

施策の柱	(1)文化財の保護				
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
	①文化財指定等による保護	文化財保護課	B	B	
	②文化財保護意識の啓発	文化財保護課	B		
	③無形民俗文化財の保存と後継者の育成	文化財保護課	B		
	④有形文化財の保存と活用	文化財保護課	B		
	⑤重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実	都市景観課	A		
	⑥河越館跡の整備・活用	文化財保護課	B		
⑦山王塚古墳の整備	文化財保護課	B			
学識経験者意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員だけではなく文化財保護審議会の委員の方にも、講師として公民館や学校へ出向いていただけるとよいと考える。</li> </ul>				

## 【施策の柱】 (2)文化芸術の振興

細 施 策	①連携・協働による新たな文化芸術の創造							担当課	担当課評価
								文化芸術振興課	B
施策の内容	市民、市民団体、NPO法人、企業、大学等との連携や協働により、文化芸術の振興を図るとともに、相互の交流等を通じて、地域の魅力づくりとなる新たな文化芸術の創出に努めます。								
前年度の改善の方策等	文化芸術団体や学校、各種団体等と連携・協働するとともに、本市の有する資源を活用した新たな文化芸術事業の創出に努めます。								
平成29年度実績	市民や市民団体等と連携・協働し、①川越市民文化祭、②川越市総合文化祭、③2音大クラシック・コンサート、④川越市美術展覧会、⑤大学ビッグバンド・ジャズフェスティバル、⑥小江戸川越第九の会 第九演奏会、⑦高校生小説大賞、⑧文芸川越の発行等の文化芸術事業を実施しました。								
指標及び説明	【指標】 協働による文化芸術事業件数				【説明】 文化芸術団体等との協働による文化芸術事業件数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	件	7	8	9	8				10
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術団体をはじめ、高校・大学等の学校や各種団体との連携・協働により、文化芸術事業を実施しています。</li> <li>市内外への周知が図られ、恒例化・定着化してきている事業も多く、事業数はおおむね順調に推移しています。</li> </ul>								
改善の方策等	引き続き、文化芸術団体や学校、各種団体等と連携・協働するとともに、本市の有する資源を活用した新たな文化芸術事業の創出に努めます。								

細 施 策	②若い世代が文化芸術事業に参加しやすいしくみづくり							担当課	担当課評価
								文化芸術振興課	B
施策の内容	高校や大学との連携事業を推進するなど、若い世代が文化芸術事業に参加・活動しやすい環境を整えます。								
前年度の改善の方策等	引き続き、若い世代が気軽に良質な文化芸術に触れる機会を提供するため、企画内容や料金設定などを通して、より参加しやすい環境づくりに努めます。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>尚美学園大学、東邦音楽大学と連携して、「2音大クラシック・コンサート」を開催しました。</li> <li>高校生を対象とした「高校生小説大賞」を実施しました。</li> <li>「川越市美術展覧会」の出品手数料に学生料金を設定するとともに、学生奨励賞を授与しました(3点)。</li> </ul>								
成果実績	項目名(単位)		H27	H28	H29				
	2音大クラシック・コンサートの入場者数		856	1,113	691				
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>2音大クラシック・コンサートは、2大学の協力とともに、低廉な入場料設定や高校生以下の招待などにより、事業の目的達成を推進していますが、当日悪天候であった平成29年度は、招待来場者数の大幅な減がありました(事前配布枚数462枚に対し回収171枚)。</li> <li>高校生小説大賞は、年度により応募作品数に増減がありますが、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>川越市美術展覧会は、学生の出品点数(33点、前年比6点増)が増加しており、順調に進捗しています。</li> </ul>								
改善の方策等	引き続き、若い世代が気軽に良質な文化芸術に触れる機会を提供するため、企画内容や料金設定などを通して、より参加しやすい環境づくりに努めます。								



【方向性】 Ⅲ－歴史文化の継承と新しい市民文化の創造

【施策】 1 文化財の保護と文化芸術活動の充実

施策の柱		(2) 文化芸術の振興			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①連携・協働による新たな文化芸術の創造	文化芸術振興課	B	B	B
	②若い世代が文化芸術事業に参加しやすいしくみづくり	文化芸術振興課	B		
学識経験者等意見	・川越にゆかりのある芸術家にプロデュースを依頼して、川越のまちをフィールドとした、特に若手の芸術家が参加できる総合芸術祭を企画できるとよいと考える。				

## 【施策の柱】(3)文化芸術に触れる機会づくり

細 施 策	①文化芸術が身近にある環境づくり				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の文化芸術への関心や理解を深めるため、良質な文化芸術の鑑賞機会を提供します。</li> <li>市民が身近なところで、気軽に文化芸術に触れることができるよう、インターネットやSNS等を活用し、わかりやすく、魅力ある情報の提供に努めます。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ニーズを事業の企画に反映するなど、引き続き良質な文化芸術の鑑賞機会の提供に努めます。</li> <li>文化芸術メールを積極的に活用し、文化芸術のイベント・講座情報の一層の提供に努めます。</li> </ul>					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェスタ川越大ホール等において、指定管理者がオーケストラ公演等の鑑賞事業や、市民参加型演奏会・講習会・コンテストなどの普及・参加・交流事業を、市の提案事業として実施しました。</li> <li>市の主催事業をはじめとする文化芸術のイベント・講座情報を、「市内文化施設イベント情報」(市HP)や「文化芸術メール」(小江戸川越メール配信サービス)により発信しました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	文化芸術振興施設提案事業満足度(%)	—	96.5	98.0		
	文化芸術メール配信数(件)	108	294	164		
現状・課題	文化芸術メール配信数は昨年と比較して減少しておりますが、文化芸術振興施設提案事業満足度は、高い水準を保ち、おおむね順調に推移しています。					
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民ニーズを事業の企画に反映するなど、引き続き良質な文化芸術の鑑賞機会の提供に努めます。</li> <li>文化芸術メールを積極的に活用し、文化芸術のイベント・講座情報の一層の提供に努めます。</li> </ul>					

細 施 策	②子どもたちが文化芸術に親しむ機会づくり				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	A
施策の内容	次代を担う子どもたちが、文化芸術を鑑賞し、学ぶことのできる機会の充実を図ります。					
前年度の改善の方策等	アウトリーチを行う人材の発掘に努めます。					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子どもの文化芸術体験事業～アウトリーチ～」として、小学校12校にアーティストを派遣し、使用楽器や演奏曲の説明を交えた演奏会を実施しました。</li> <li>人材発掘については、「人材発掘公開オーディション」を開催し、2組を合格者として、今後2年間市内小学校にアウトリーチ派遣することとしました。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	アウトリーチ実施校数(校)	5	7	12		
現状・課題	アウトリーチ実施校数は増えており、順調に進捗しています。					
改善の方策等	引き続きオーディションを実施し、アウトリーチを行う人材の発掘に努めます。					

【方向性】 Ⅲ－歴史文化の継承と新しい市民文化の創造

【施策】 1 文化財の保護と文化芸術活動の充実

施策の柱		(3) 文化芸術に触れる機会づくり			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①文化芸術が身近にある環境づくり	文化芸術振興課	B	A	A
	②子どもたちが文化芸術に親しむ機会づくり	文化芸術振興課	A		
学識経験者等 意見	・アウトリーチによる音楽鑑賞会は各学校で行っている芸術鑑賞会と類似の事業なので、まとめて実施したほうがわかりやすいと考える。				

細 施 策	①文化芸術活動への支援				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	B
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術活動を行う市民の発表機会の充実を図ります。</li> <li>文化芸術分野で功績のある人や振興に寄与した人への顕彰を行い、市民の文化芸術活動を支援します。</li> </ul>					
前年度の改善の方策等	若い世代にも興味を持ってもらうため、ホームページやメール配信サービス、ツイッター等の媒体を活用した情報の周知などに努めます。					
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>川越市民文化祭や川越市総合文化祭、川越市美術展覧会等を継続して開催するとともに、文芸川越第38号を刊行しました。</li> <li>文化スポーツ顕彰のうち、文化賞は該当者なしでした。</li> </ul>					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	市民文化祭の事業数(件)	27	26	26		
現状・課題	市民文化祭については、主催団体の1つが会員の高齢化を理由に解散し、結果的に1事業減ることとなりました。市民文化祭だけでなく、他団体でも高齢化が進んでいるため、若い世代への参加を呼びかける必要があります。					
改善の方策等	引き続き、若い世代にも興味を持ってもらうため、ホームページやメール配信サービス、ツイッター等の媒体を活用した情報の周知などに努めます。					

細 施 策	②文化芸術活動の場の整備				担当課	担当課評価		
					文化芸術振興課	B		
施策の内容	市民の芸術鑑賞や活動・発表の場である文化施設やウエスタ川越大ホール等の適切な運営管理を図ります。							
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化施設の利用者数が増加するよう、施設の利用促進に努めます。</li> <li>老朽化した文化施設について、計画的な改修に努めます。</li> </ul>							
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエスタ川越大ホールの稼働率は、前年度からさらに上昇し、順調です。</li> <li>文化会館の利用者数は、西文化会館のホール閉館(2月)などの要因もあり、前年度より減少しています。</li> </ul>							
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29				
	ウエスタ川越大ホール区分稼働率(%)	59.3	71.5	75.2				
指標及び説明	【指標】 文化施設の利用者数		【説明】 やまぶき会館・西文化会館・南文化会館・川越駅東口多目的ホールの利用者数					
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)
			H27	H28	H29	H30	H31	
	人	311,899	309,023	301,354	280,143			321,000
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化施設の全体の利用者は減少していますが、ウエスタ川越大ホールの区分稼働率は前年度に比して上昇していることから、おおむね順調に推移しています。</li> <li>やまぶき会館・西文化会館・南文化会館・川越駅東口多目的ホールについては、老朽化への対応が必要です。</li> </ul>							
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化施設の利用者数が増加するよう、各施設の特徴をホームページなどで広報するなど、施設の利用促進に努めます。</li> <li>老朽化した文化施設について、計画的な改修に努めます。</li> </ul>							

【方向性】 Ⅲ－歴史文化の継承と新しい市民文化の創造 【施策】 1 文化財の保護と文化芸術活動の充実  
 【施策の柱】 (4)文化芸術活動への支援と文化交流の促進

細 施 策	③文化交流の促進				担当課	担当課評価
					文化芸術振興課	B
施 策 の 内 容	文化芸術関係団体相互の交流を促進し、ネットワークの充実を図ります。					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	関係団体と連携し、多数・多様な団体の参加・交流を促し、参加者数の増加に努めます					
平 成 2 9 年 度 績 実	川越市総合文化祭は平成27年度から開催しており、3回目の開催となりました。平成29年度は舞台公演の見直しを行い、参加団体数は減少となりましたが、来場者を含めた全体の参加者数は増加しました。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	総合文化祭参加団体数	37	43	40		
現 状 ・ 課 題	参加団体数は40団体程度の参加で推移しており順調に進捗しておりますが、大ホール舞台公演と多目的ホール作品展示の両会場とも訪れる参加者・来場者はまだ少なく、参加団体の交流については改善する必要があります。					
改 善 の 方 策 等	実行委員会を主体として各関係団体と連携し、多種・多様な団体の参加・交流を促すことにより、更なる参加者数の増加に努めます。					

【方向性】 Ⅲ－歴史文化の継承と新しい市民文化の創造  
 【施策】 1 文化財の保護と文化芸術活動の充実

施 策 の 柱	(4)文化芸術活動への支援と文化交流の促進				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①文化芸術活動への支援	文化芸術振興課	B	B	B
	②文化芸術活動の場の整備	文化芸術振興課	B		
	③文化交流の促進	文化芸術振興課	B		
学 識 経 験 者 等 意 見	なし				

【施策の柱】(5)美術館の充実

細 施 策	① 展覧会等の充実							担当課	担当課評価
								美術館	A
施策の内容	市民が親しみやすい展覧会の実施や体験型のイベント等を企画し、市立美術館の利用機会の向上を図ります。								
前年度の改善の方策等	引き続き子どもから高齢者まで、幅広い世代が年間を通じて、美術を楽しむことができる展覧会の開催に努めるとともに、広報川越、川越市立美術館ホームページ、メール配信サービス、ツイッター、プレスリリース、ちらし・ポスターの掲示等により広く周知を図ります。								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展(常設展示室、相原求一朗記念室)については、年4回の展示替えを行いました。また、タッチアートコーナーについても、年4回開催しました。※(春)古伏脇司展、(夏)都築邦春展、(秋)山添潤彫刻展、(冬)コレクションと寄託作品展</li> <li>・特別展については、年4回開催しました。※(春)驚きの明治工藝、(夏)名品と出会う、(秋)中林忠良銅版画展、(冬)生誕130年 小村雪岱</li> </ul>								
指標及び説明	【指標】 ①美術館の常設展観覧者数 ②美術館の特別展観覧者数				【説明】 ①常設展年間観覧者数 ②特別展年間観覧者数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	① 人	38,934	33,269	41,917	41,431			39,000	
② 人	28,718	23,653	27,819	29,472			30,000		
現状・課題	常設展の実績値については目標値を上回るとともに、特別展の実績値についても昨年度の実績値と比べ上回っており、順調に推移しています。								
改善の方策等	引き続き子どもから高齢者まで、幅広い世代が年間を通じて、美術を楽しむことができる展覧会の開催に努めるとともに、広報川越、川越市立美術館ホームページ、メール配信サービス、ツイッター、プレスリリース、ちらし・ポスターの掲示等により広く周知を図ります。								

細 施 策	② 創作活動・発表の場の提供							担当課	担当課評価
								美術館	B
施策の内容	創作活動や発表の場の提供を通じて、市民が芸術活動に参加する機会づくりに努めます。								
前年度の改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ギャラリーの利用については、さらに多くの団体が利用できるような有効活用に努めていきます。</li> <li>・創作室の利用については、新たな利用団体等を獲得すべく、川越市立美術館ホームページ等を通じて周知を図るとともに、現在利用している団体に対しても、夜間帯の利用も可能であることを説明し、さらに利用しやすい施設であることを周知していきます。</li> </ul>								
平成29年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ギャラリーの年間稼働日数については、稼働日数269日／年間日数297日となっています。</li> <li>・創作室の年間稼働コマ数については、稼働コマ数278コマ／年間稼働コマ数891コマとなっています。</li> <li>※なお、創作室の利用団体については、2団体の新規利用がありました(平成29年度特別展関連の実技講座参加者により組織された団体等)。</li> </ul>								
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29					
	市民ギャラリーの年間稼働日数(稼働日数／年間日)	81.54%	88.85%	90.57%					
	創作室の年間稼働コマ数(稼働コマ数／年間コマ数)	26.85%	30.63%	31.20%					
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ギャラリーの年間稼働日数については、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>・創作室の年間稼働コマ数については、進捗があまり順調ではありません。特に、午後5時から午後8時30分までの時間帯の利用がありません。</li> </ul>								
改善の方策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ギャラリーの利用については、多くの団体が利用できるような有効活用に努めていきます。</li> <li>・創作室の利用については、新たな利用団体を獲得すべく、市民ギャラリーの利用者等に周知を図るとともに、現在利用している団体に対しても、夜間帯の利用も可能であることを説明し、さらに利用しやすい施設であることを周知していきます。</li> </ul>								

【施策の柱】 (5)美術館の充実

細 施 策	<b>③教育普及事業の充実と学校教育との連携強化</b>							担当課	担当課評価
								美術館	A
施 策 の 内 容	学校教育と連携した教育普及活動を行うとともに、子どもたちが文化芸術活動を体験できる機会の充実に努めます。								
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	引き続き各種事業を実施し、市民に広く発表することで美術教育に対する理解と認識を深めていきます。								
平 成 2 9 年 度 績 実	○教育普及事業 104事業 延参加者数14,046人 ・主に子ども(中学生以下)が参加できる事業 44事業 延参加者数11,970人 ・主に大人が参加できる事業 24事業 延参加者数592人 ・誰でも参加できる事業 9事業 延参加者数 1,167人 ・教員向け事業 27事業 延参加者数317人 ○上記の内、主な学校教育との連携事業 ・川越市立中学校美術部の祭典 出品生徒数454人 観覧者数1,293人 ・川越市立小学校6年生バス見学 31校 延参加者数2,679人 ・川越市内児童生徒作品展 3作品展 延観覧者数5,072人								
指 標 及 び 説 明	【指標】 川越市立中学校美術部の祭典の参加校数				【説明】 川越市立中学校美術部の祭典に参加した中学校数				
	指 標 の 推 移	単 位	現 在 値 (H26)	実 績 値				目 標 値 (H32)	
	校	20	H27 21	H28 20	H29 21	H30	H31	H32	22
現 状 ・ 課 題	川越市立中学校美術部の祭典の参加校が昨年に比べ1校増加しました。参加できなかった中学校には美術部がないため、「美術部の」とある以上、参加が難しく、目標の見直しが必要と考えます。多くの教育普及事業が実施できたので順調に進捗しています。								
改 善 の 方 策 等	引き続き各種事業を実施し、市民に広く発表することで美術教育に対する理解と認識を深めていきます。								

施 策 の 柱	(5)美術館の充実				
施 策 評 価	細 施 策	担 当 課	施 策 評 価		総 合 評 価
			細 施 策	施 策 の 柱	
	① 展覧会等の充実	美術館	A	A	
	② 創作活動・発表の場の提供	美術館	B		
③ 教育普及事業の充実と学校教育との連携強化	美術館	A			
学 識 経 験 者 意 見 等	・創作室を夜間利用して活動する人達というのは働いている人や学生が多いと思われる。そのような人達が利用しないのは活動を行う余裕がない、もしくは、創作室の存在を知らないということが考えられるので、かつてやっていたことをもう一度やってみたいと思ってもらう取組と情報提供に引き続き取り組んでいただきたい。 ・小学校6年生の博物館と美術館のバス見学は、予算的な問題もあると思うが、歴史、文化、芸術に触れる良い機会なので継続していただきたい。				A

【方向性】 IV－多文化共生と国際交流・協力の推進 【施策】 1 多文化共生と国際交流・協力の推進  
 【施策の柱】 (1)誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりの推進

細 施 策	①共生意識を醸成するための相互理解の推進							担当課	担当課評価
								国際文化交流課	A
施策の内容	・多文化共生・国際交流を推進していくための拠点として、国際交流センターを活用し、外国籍市民と相互理解が深まるような事業の支援に努めます。 ・外国籍市民会議の開催や外国籍市民国際人材ネットの充実を図り、外国籍市民の活用や地域社会への参画を促進します。								
前年度の改善の方策等	新たに国際交流センターのリーフレットを作成するなど、国際交流センターの周知を図り利用者増に努めます。								
平成29年度実績	・国際交流センターリーフレット(日・英・中)を作成 ・日本語教室「クラスで日本語」週9回 年間406回開催 ・国際理解講座「おもてなしスペイン語」全10回、「おもてなし韓国語」全7回 ・川越市日本中国友好協会の主催する中国語講座を共催全36回 ・外国籍市民会議全6回開催 ・外国籍市民国際人材ネット(K-net)登録者数35名 ・市民団体と連携した国際関係イベント開催(多文化交流、高校進学相談)								
指標及び説明	【指標】 外国籍市民と日本人市民との年間交流者数				【説明】 国際交流センターでの各種講座や姉妹都市との相互訪問などによる外国籍市民と日本人市民との年間交流者数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	人	7,722	H27 8,555	H28 10,014	H29 9,137	H30	H31	H32	8,500
現状・課題	国際交流センターでの日本語教室、各種講座の開催、外国籍市民会議による意見交換、国際関係イベントなどを実施し、順調に進捗しています。								
改善の方策等	国際交流センターが新たな外国籍市民に利用されるよう引き続き周知に努めます。								

細 施 策	②外国籍市民への支援							担当課	担当課評価
								国際文化交流課	B
施策の内容	・外国籍市民のための日本語教室や市民相談を充実させるとともに、多言語による案内表示や情報提供を実施することで、海外からの来訪者や外国籍市民にとって、訪れやすく住みやすいまちづくりを目指します。 ・市内大学の留学生を支援するとともに、卒業後に市内での就労を希望する留学生が、市内企業に就職できるような取組を検討します。								
前年度の改善の方策等	日本語教室等の周知を図り、参加者の増加に努めるとともに、留学生については市内大学と連携して支援方法を模索していきます。								
平成29年度実績	・日本語教室「クラスで日本語」週9回 年間406回開催 ・生活相談(日本語・中国語)月2回、(日本語・ポルトガル語)月2回 ・法律相談月1回、在留資格相談月1回 ・広報川越英語版の発行、年間12回 ・コミュニケーションシート(言語確認用、非常時編)を5言語で提供(前年度外国籍市民会議で検討、作成は観光課) ・国際交流センター受付業務を留学生に依頼、外国籍市民会議委員として留学生が参加								
指標及び説明	【指標】 外国籍市民の日本語教室への参加者数				【説明】 国際交流センターで実施する日本語教室への外国籍市民の参加者延べ人数				
指標の推移	単位	現在値(H26)	実績値					目標値(H32)	
	人	3,373	H27 3,604	H28 4,711	H29 3,767	H30	H31	H32	3,900
現状・課題	日本語教室、相談事業、情報提供など外国籍市民への支援事業を実施しました。日本語教室については、平成28年度に需要が一時的に増加したものと捉えています。内容的には、おおむね順調に進捗しています。								
改善の方策等	日本語教室等の周知を図り、参加者の増加に努めるとともに、留学生については市内大学と連携して支援方法を模索していきます。								



【方向性】 IV－多文化共生と国際交流・協力の推進

【施策】 1 多文化共生と国際交流・協力の推進

施策の柱		(1)誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりの推進			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①共生意識を醸成するための相互理解の推進	国際文化交流課	A	A	A
	②外国籍市民への支援	国際文化交流課	B		
学識経験者等	<p>・留学生であっても日本語の理解が不十分である学生や漢字が苦手な学生がいる。市内大学の留学生に対してどのような支援があるのか、大学の方に、わかりやすい方法で案内していただきたい。</p>				

細 施 策	①人材の発掘と育成							担当課	担当課評価
								国際文化交流課	A
施策の内容	・東京オリンピックのゴルフ競技の本市での開催をきっかけに、市内大学等と連携を図りながら、各種講座や研修会を実施するなど、国際感覚に優れた市民の育成に努めます。 ・日本語ボランティア、通訳・翻訳ボランティアの活動を支援し、その活動を通じて、異文化への理解や相互扶助といったボランティア意識の向上に努めます。								
前年度の改善の方策等	市民ニーズに対応できるよう講座募集者数を増やし、人材育成講座の受講者数の増加に努めます。								
平成29年度実績	・日本語指導員養成講座を東京国際大学と連携して開催、全40回 ・国際理解講座「おもてなしスペイン語」全10回、「おもてなし韓国語」全7回 ・川崎市日本中国友好協会の主催する中国語講座を共催、全36回 ・日本語ボランティア登録者数201名、通訳・翻訳ボランティア登録者数77名								
指標及び説明	【指標】 国際交流センターでの人材育成講座の受講者数				【説明】 国際交流センターでの人材育成講座の年間延べ受講者数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	人	982	1,738	1,861	2,340				1,500
現状・課題	日本語指導員養成講座、国際理解講座、中国語講座などの人材育成講座を実施しました。人材育成に係る講座の受講数は増加傾向にあり、順調に進捗しています。 課題としては、要望の多い講座は抽選を行い絞り込みをするなど、需要に対応しきれていないことがあげられます。								
改善の方策等	市民ニーズに対応できるよう講座募集者数を増やし、人材育成講座の受講者数の増加に努めます。								

細 施 策	②国際交流に関係する市民団体等との協力と連携							担当課	担当課評価
								国際文化交流課	A
施策の内容	・国際交流や国際協力に取り組む市民や市民団体と連携を取りながら、地域の国際化を推進していきます。 ・さまざまな交流事業の充実を図るため、市民や市民団体、行政などがそれぞれの役割を担うとともに、相互理解を図り、ネットワークの構築に努めます。								
前年度の改善の方策等	引き続きボランティアと連携して国際化を推進するため、日本語ボランティアとの意見交換会やレベルアップ研修会などのサポートの充実に努めます。								
平成29年度実績	・日本語教室「クラスで日本語」での日本語ボランティア、年間406回活動 ・通訳・翻訳ボランティア、年間45件活動 ・外国籍市民国際人材ネット(K-net)年間2件活動 ・国際貢献事業補助金4件								
指標及び説明	【指標】 ボランティア活動者数				【説明】 国際交流センターで実施する日本語教室、外国籍市民を支援するボランティア事業及び通訳・翻訳ボランティア、外国籍市民国際人材ネットのボランティア活動者延べ人数				
指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)	
			H27	H28	H29	H30	H31	H32	
	人	2,666	2,795	3,154	3,322				3,000
現状・課題	日本語ボランティア、通訳・翻訳ボランティア、外国籍市民ボランティアとの連携事業や国際貢献事業補助金交付事業などを市民団体等と協力、連携し、実施しました。ボランティア活動者数も増加しており順調に進捗しています。								
改善の方策等	引き続きボランティアと連携して国際化を推進するため、日本語ボランティアとの意見交換会やレベルアップ研修会などのサポートの充実に努めます。								

【方向性】 IV－多文化共生と国際交流・協力の推進

【施策】 1 多文化共生と国際交流・協力の推進

施策の柱		(2) 国際感覚に優れた市民の育成			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	①人材の発掘と育成	国際文化交流課	A	A	A
	②国際交流に関する市民団体等との協力と連携	国際文化交流課	A		
学識経験者等	<p>・オリンピックを目前に控えて、学生のボランティア活動などで外国人観光客に川越のまちを英語で案内しようという動きが出てくる可能性が考えられる。若い世代の国際交流につながることもあるので、情報収集及び状況の把握に努めていただきたい。</p> <p>・川越のまちを案内するためには川越の歴史・文化を知っている必要がある。川越の歴史の理解と外国人に対する英語での案内は結びついている。うまくマッチングさせてボランティアの養成等も行っていただきたい。</p>				A

【方向性】Ⅳ－多文化共生と国際交流・協力の推進 【施策】 1 多文化共生と国際交流・協力の推進  
 【施策の柱】 (3)姉妹・友好都市交流の充実

細 施 策	①姉妹・友好都市との交流事業の充実			担当課	担当課評価
				国際文化交流課	A
施策の内容	・川越市姉妹都市交流委員会と連携し、多文化共生に向けた異文化への理解を図るため、より多くの市民が関わることができる交流事業の実施に努めます。 ・姉妹・友好都市との交流協力関係を深めるため、次世代を担う青少年の相互派遣事業については、関係機関とも連携しながら、事業内容の充実を図ります。				
前年度の改善の方策等	引き続き姉妹都市との良好な関係を保てるよう、連絡調整を密にし、交流事業の充実に努めます。				
平成29年度実績	・中札内村訪問中学生交流団の派遣、中札内村中学生川越市訪問事業の受入 ・セーレム市訪問中学生交流団の派遣 ・オッフェンバッハ市青少年交流団の受入 ・市立川越高等学校生徒が姉妹校ノースセーレム高校を訪問 ・川越商工会議所とオッフェンバッハ商工会議所の日独ビジネス研修生交換プログラムに協力				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	姉妹・友好都市交流件数(5年間の平均件数)	27.4	28.0	27.0	
現状・課題	例年どおり中札内村との中学生の相互交流事業を実施しました。 また海外姉妹都市とは、セーレム市への中学生交流団派遣、オッフェンバッハ市からの青少年交流団の受入など、2年に1度の交流事業を実施し、順調に進捗しています。				
改善の方策等	引き続き姉妹都市との良好な関係を保てるよう、事業に際しては連絡調整等を丁寧に行っていきます。				

細 施 策	②さまざまな地域との新たな交流の創出			担当課	担当課評価
				国際文化交流課	A
施策の内容	・外国籍市民や留学生を通して、さまざまな国の文化や伝統について学ぶ機会を創出します。 ・姉妹・友好都市とは別に新たな地域との分野を特定した交流事業について検討するなど、市民にさらなる国際交流や異文化理解の場を提供していくよう努めていきます。				
前年度の改善の方策等	市民等と連携した国際関係イベント等の開催を支援し、さまざまな国の文化や伝統について学ぶ機会のさらなる創出に努めます。				
平成29年度実績	・川越市日本中国友好協会の主催する中国語講座を共催(全36回) ・かわごえ国際交流フェスタ、日タイ修好130周年記念イベント、川越唐人揃いパレードなど、さまざまな交流やイベントを支援				
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29	
	中国語講座受講者述べ人数	394	412	709	
	国際関係イベント件数	3	4	5	
現状・課題	外国籍市民が最も多い中国に関する講座を開催、スペイン、韓国の国際理解講座開催、さまざまな国の文化や伝統に関する国際関係イベントを支援しました。中国語講座受講者述べ人数や国際関係イベント件数は増加しており、順調に進捗しています。				
改善の方策等	市民等と連携した国際関係イベント等の開催を支援し、さまざまな国の文化や伝統について学ぶ機会のさらなる創出に努めます。				

【方向性】 IV－多文化共生と国際交流・協力の推進

【施策】 1 多文化共生と国際交流・協力の推進

施策の柱		(3) 姉妹・友好都市交流の充実			
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施策評価	① 姉妹・友好都市との交流事業の充実	国際文化交流課	A	A	A
	② さまざまな地域との新たな交流の創出	国際文化交流課	A		
学識経験者等 意見	・民間の団体が行う交流イベントについては定着、継続することが重要なので、引き続き支援していただきたい。				

細 施 策	①総合型地域スポーツクラブの設置・育成							担当課	担当課評価
								スポーツ振興課	A
施策の内容	誰もが、いつでも、どこでもスポーツに取り組めるようにするため、各地域で地域住民が自主的に運営する総合型地域スポーツクラブの設置・自立を支援し、クラブ間ネットワークを構築していきます。								
前年度の改善の方策等	他の地域にも総合型地域スポーツクラブを設置できるように、今後も継続して情報提供を図ってまいります。								
平成29年度実績	南古谷地区の総合型地域スポーツクラブの設置に向け、県のクラブアドバイザーを招き、地域住民を対象に勉強会や情報交換会を行いました。								
指標及び説明	【指標】 総合型地域スポーツクラブ設置数				【説明】 市内に創設された総合型地域スポーツクラブの数				
	指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値					目標値 (H32)
	件	3	H27 3	H28 4	H29 4	H30	H31	H32	5
現状・課題	平成28年度に立ち上がったふくはらスポーツクラブも軌道にのり、4つの総合型地域スポーツクラブが、それぞれの地域のニーズを大切に、スポーツ振興やスポーツを通じた地域づくりなど多様な活動を展開しており、順調に進捗しています。今後、南古谷地区の総合型地域スポーツクラブの設置に向け、話し合いを進めていきたいと考えています。								
改善の方策等	他の地域にも総合型地域スポーツクラブを設置できるように、今後も継続して情報提供を図ってまいります。								

細 施 策	②スポーツ教室・大会等の充実				担当課	担当課評価
					スポーツ振興課	B
施策の内容	市民のスポーツ活動へのきっかけをつくり、それを継続していけるようにするため、ライフステージに応じた、魅力あるスポーツ教室・大会等の充実を図っていきます。					
前年度の改善の方策等	市民のスポーツに対する実態やニーズを考慮し、各教室・大会の内容の更なる充実を図ってまいります。					
平成29年度実績	多くの方がスポーツに親しむことができるよう、様々なスポーツ教室や「生涯スポーツフェスティバル」「小江戸川越ハーフマラソン2017」等の特色ある大会を実施しました。特にスポーツ教室では、ジュニア・一般・親子・障害者といった全ての市民を対象とした複数の教室を開催し、市民のスポーツ活動へのきっかけづくりに努めました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	生涯スポーツフェスティバル参加者数(人)	2,722	2,594	2,440		
	スポーツ教室参加者数(人)	479	496	495		
現状・課題	教室・大会の実施にあたっては、スナッグゴルフなど新たな種目を検討し内容を充実させるように努めており、おおむね順調に進捗しています。					
改善の方策等	市民のスポーツに対する実態やニーズを考慮し、各教室・大会の内容の更なる充実を図ってまいります。					

【方向性】 V－生涯スポーツの推進

【施策】 1 生涯スポーツの推進

施策の柱	(1) スポーツ活動の推進					
施策評価	細施策	担当課	施策評価		総合評価	
			細施策	施策の柱		
	①総合型地域スポーツクラブの設置・育成	スポーツ振興課	A	A		A
	②スポーツ教室・大会等の充実	スポーツ振興課	B			
学識経験者等 意見	なし					

細 施 策	①スポーツ指導者等の養成・活用				担当課	担当課評価
					スポーツ振興課	B
施策の内容	各スポーツ団体等を育成・支援するとともに、市民のニーズに合わせて適切な指導ができるようにするため、スポーツ指導者等の養成に努め、その活用を図ります。					
前年度の改善の方策等	講習会や研修会の内容を各地域や各団体で生かすことができるよう、スポーツ指導者の活用について検討してまいります。					
平成29年度実績	体育協会加盟団体が、それぞれの種目ごとに技術講習会や審判講習会を行い、適切な指導ができるようにスポーツ指導者の養成に努めました。また、スポーツ少年団の指導者に対し、認定員を養成する講習会を行いました。					
成果実績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	指導者養成講習会実施団体数(団体)	30	30	30		
	スポーツ少年団スポーツリーダー養成講習会参加者数(人)	98	49	51		
現状・課題	体育協会加盟団体31団体中30団体が指導者養成講習会を行っています。スポーツ少年団開催のスポーツリーダー養成講習会の参加者数については、新たに指導者として少年団に登録された方を中心にほぼ定員どおりの申込者数のもと、順調に開催できています。上記団体以外にもスポーツ推進委員連絡協議会や女性スポーツ団体連絡協議会でも、指導者養成のための研修を行っており、おおむね順調に進捗しています。					
改善の方策等	講習会や研修会の内容を各地域や各団体で生かすことができるよう、指導者一覧の窓口等での公開などスポーツ指導者の情報提供について検討してまいります。					

細 施 策	②スポーツ施設の整備・充実							担当課	担当課評価
								スポーツ振興課	B
施策の内容	既存のスポーツ施設を利用者がより安全かつ安心して使えるよう、整備・改善を行うとともに、スポーツ活動の場の充実のため新設体育館の建設に取り組みます。								
前年度の改善の方策等	今後も利用者がより安全かつ安心して使えるよう工事・修繕等を行ってまいります。								
平成29年度実績	利用者がより安全かつ安心して使えるよう、川越運動公園総合体育館でメインアリーナの床改修工事を行いました。また、新設体育館については検討部会を開催し、今後の方向性を協議している段階であります。								
指標及び説明	【指標】 施設利用人数				【説明】 川越運動公園(総合体育館・陸上競技場・テニスコート)の利用人数				
	指標の推移	単位	現在値 (H26)	実績値				目標値 (H32)	
H27				H28	H29	H30	H31		H32
	人	287,170	291,840	259,539	267,107			293,500	
現状・課題	既存のスポーツ施設の改修工事については計画的に行うことができていますが、施設の老朽化も進んでいることから、小規模な修繕等に早急に対応していく必要があります。								
改善の方策等	今後も利用者がより安全かつ安心して使えるよう工事・修繕等を行ってまいります。								



【方向性】 V－生涯スポーツの推進

【施策】 1 生涯スポーツの推進

【施策の柱】 (2)スポーツ環境基盤整備

細 施 策	③学校体育施設の活用				担当課	担当課評価
					スポーツ振興課	B
施 策 の 内 容	地域のスポーツ活動をより身近な施設で行っていくために、学校体育施設を地域に開放し多くの市民がスポーツに親しむ場を提供していきます。					
前 年 度 の 改 善 の 方 策 等	事業の周知に努め、今後も市民の身近なスポーツの場として開放してまいります。					
平 成 2 9 年 度 実 績	市民の身近なスポーツの場として、学校体育施設開放事業として市内小・中学校52校を開放し、夏には霞ヶ関北小学校水泳プール開放事業や学校プール開放事業を行いました。					
成 果 実 績	項目名(単位)	H27	H28	H29		
	学校開放利用者数(人)	399,983	432,787	445,253		
	霞ヶ関北小プール開放利用者数(人)	工事のため開放なし	745	682		
現 状 ・ 課 題	学校開放については、市民に広く認知され、身近なスポーツの場として安定した利用がされており、おむね順調に進捗しています。霞ヶ関北小プール開放については、昨年の気候の影響もあり、利用者が減少している状況です。					
改 善 の 方 策 等	事業の周知に努め、今後も市民の身近なスポーツの場として開放してまいります。					

【方向性】 V－生涯スポーツの推進

【施策】 1 生涯スポーツの推進

施 策 の 柱	(2)スポーツ環境基盤整備				
施 策 評 価	細施策	担当課	施策評価		総合評価
			細施策	施策の柱	
施 策 評 価	①スポーツ指導者等の養成・活用	スポーツ振興課	B	B	B
	②スポーツ施設等の整備・充実	スポーツ振興課	B		
	③学校体育施設の活用	スポーツ振興課	B		
学 識 経 験 者 等 意 見	なし				B